

RAP⁺TURE KiT

Rapture（ラブチャー）＝携挙（けいきょ）

世界中から多くの人が消えましたか？

これは聖書に預言されたことです。その人たちはこれから起きる多くの災難から守られるために、神のもとに引き上げられました。

これが、携挙です。

このバインダーは、携挙後のための助けとなるように作られました。あなたの希望と助けとなることを祈ります。

iAM A WAT⁺CHMAN .com

はじめに

このバインダーは、アメリカのアイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーというクリスチャンの団体によって制作されたものを、アイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーの承諾をいただき、有志のクリスチャンによって日本語に翻訳したものです。すべての著作権はアイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーにあります。

このバインダーには、聖書のことば（聖句・御言葉（みことば））といいますが、多く引用、参照されています。『』のついた箇所は聖書のみことばの引用です。

例えば、

- 『はじめに、神が天と地を創造された。』（創世記 1：1）と記載があった場合、（ ）の部分は、聖書の創世記 1 章 1 節に『はじめに、神が天と地を創造された。』が記載されていることを示しています。
- 「心を尽くして神を求めれば、必ず見いだすことができる」（エレミヤ 29：12-14）と記載されている場合、「」内はエレミヤ書 29 章 12 節から 14 節を参照した内容の翻訳となっています。また、参照箇所の場合、「」がついていない場合もあります。
- 「創世記」は「創世記」と記されていますが、「マタイの福音書」は「マタイ」と略されて記載されます。このように多くの場合、略されて記載されますので、末巻（P126）に略式の一覧を記載しておきます。はじめて聖書のみことばに触れる方はご参考になしてください。

また、このバインダーに記載のある聖書の引用箇所は『丸ゴシック体』で記載しています。日本語への翻訳に使用した聖書は、**新改訳 2017 版（いのちのことば社）**です。翻訳する際、RAPTURE KIT に記載されている英語の原文に忠実に聖書箇所の一部を記載している場合と、翻訳に際して引用箇所全てを記載している場合、引用箇所を省略し記載している場合があります。

例えば、

『聞きなさい。私はあなたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけでは
ありませんが、みな変えられます。一瞬のうちに...ラッパが鳴ると、死者は...
よみがえり、私たちは変えられるのです。』（1 コリント 15：51-52）

英語の原文は、上記のように一部「・・・」で聖句が省略されています。

しかし、この日本語訳版のバインダーでは・・・の部分も記載しています。

その他にも、アメリカとの文化の違い等の理由により、日本語への翻訳に際し、記載を省略した箇所等がありますことをお伝えしておきます。

また、救急医療のページに関しても、英語版の翻訳ではなく、必要になった時の備えとして、日本赤十字社のホームページのものを転載してあります。

しかし、私たちはその時(携挙)の前に、このバインダーを手にしたあなたが、神様からの無償の贈物（救い）を受け取ることができるように祈ります。

この携挙キットの教材は、情報を与え、励まし、慰め、助言するために作成されています。この携挙キットの資料は、あなたが最大の助けの源（イエス・キリスト）とながり、新しい希望と目的を見出し、来るべき試練を理解して乗り越え、あなたの永遠の未来を確保するのに役立ちます。

聖書は、神が『苦しむとき、そこにある強き助け。（悩みのときにいつも助けてくださる方）』（詩篇 46：1）であり、「心を尽くして神を求めれば、必ず見いだすことができる」（エレミア 29：12-14）と約束しています。すべてを失われていません—イエス・キリストにただ祈るだけでいいのです。

あなたの平和と希望への道は、あなたの心をイエス・キリストに開き、祈り、この教材を読み、ビデオを見、神を求めることから始まります。主はあなたを愛し、あなたのために計画を持っておられることを忘れないでください。イエス・キリストは地上に来られ、困難ながらも完璧な人生を送られ、十字架で死なれ、よみがえられました。それは、あなたが永遠の命という希望を持つことができるようにするためです。

今日、あなたが主の恵みと約束を受け取ることができるように祈ります。

TABLE OF CONTENTS (目次)

何が起こったのかを理解する

何が起きたの？— みんなどこに行ったの？ 携挙とは何か？.....	7
私の赤ちゃんはどこ？(母親向け) 私の親はどこ？(高学年/10代向け).....	12
なぜ私はまだここにいるのだろうか？.....	17

今、何をすべきか—最初のステップ

クリスチャンになるには.....	20
再び恋に落ちる／信仰を再燃させるための考察.....	22

新しい信仰の歩み方

信仰の伝え方.....	26
強くありなさい／反キリストに抵抗しなさい／全てにおいて神に信頼しなさい...	32
あなたはウォッチマン(見張り人)として召されていますか？.....	35
ウォッチマン(見張り人)の戦術.....	39

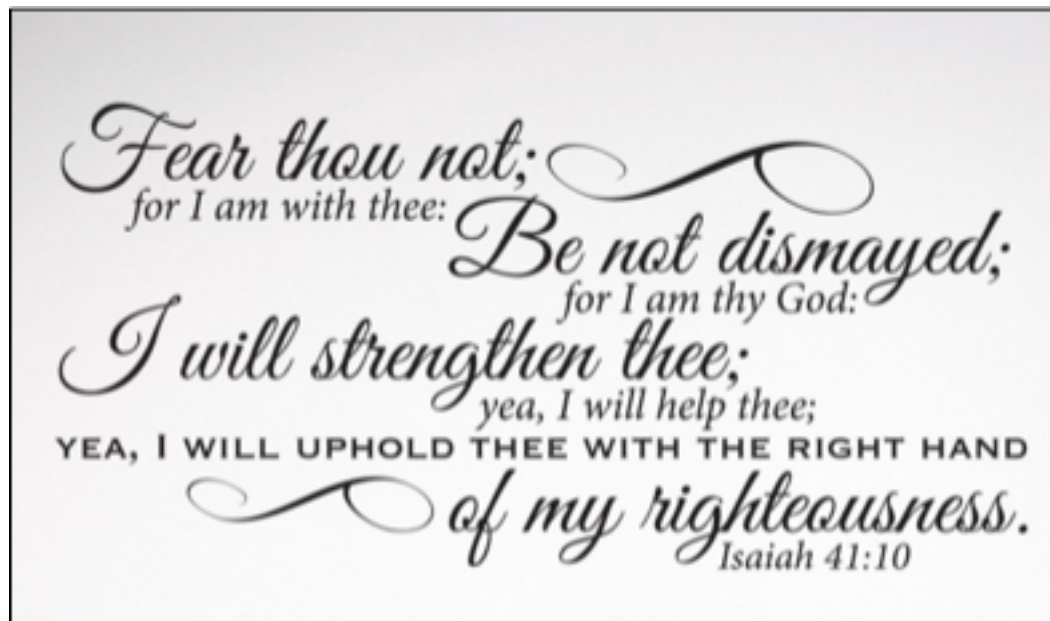
これから起こること

これから起こること(反キリスト/患難/ハルマゲドン).....	43
黙示録の邪悪な実体.....	58
千年王国とそこにいる人たち.....	62

TABLE OF CONTENTS (目次)

実用的な助け（知ってて損はない、あって損はない）

神様の御心の見極め方.....	69
夢やビジョンが神様からのものであるかどうかを見分ける方法.....	73
水の浄化方法.....	77
園芸情報.....	79
ネイティブアメリカン・ホメオパシー（代替医療）の伝統.....	82
応急処置情報.....	87
手に入らなくなるもの.....	114
勇気を出す方法・勇敢である方法.....	117
聖書通読ガイド.....	124



『恐れるな。わたしはあなたとともにいる。
たじろぐな。わたしがあなたの神だから。
わたしの義の右の手で、あなたを守る。』

イザヤ書 41:10

何が起きたの？みんなどこに行ったの？携挙とは何か？

アイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーは、「携挙」または「失踪」と呼ばれる超自然的な出来事に先立って、この文章を準備することにしました。その目的は、残された人々に助言と慰めを提供することです。皆さんは、次に何が起こるのか、怖くて不安で、多くの疑問を持っていることでしょう。このバインダー（と IAmAWatchman.com のウェブサイト（日本語対応一部あり））にある情報は、多くの質問に答えるのに役立つはずです。

この文章は、次のようなことが起こったと仮定しています：突然、何の予告もなく、何百万人もの人々が地上の表面から消えてしまったのです。クリスチャンは、この出来事を「携挙」と呼んでいます。英語のラプチャーという言葉は、ラテン語をベースにした言葉で、神の民が突然引き上げられたり、連れ出されたりすることを表すためにクリスチャンが使った言葉です。神の民とは、教会、クリスチャン、キリストの花嫁、信徒、イエス様の熱心な信者を指します。すべての国で消失が報告され、乳幼児、幼児、子どものほとんどがいなくなる可能性が高いです。

何が起こったのかを理解しようとするとき、人々は消えた人々の間で何が共通していたのかを特定しようとします。消えた人たちは同じ食事をしていただろうか？同じウィルスに感染していたのか、同じような活動をしていたのか、同じような場所に行っていたのか、同じようなペットを飼っていたのか、同じブランドの服を着ていたのか。このことを受け入れる人は少ないでしょうが、消えた何百万人もの人々の間には、たった2つの共通点があるのです。あらゆる国から、あらゆる年齢層から、あらゆる経済層から、あらゆる産業で働き、さまざまな健康状態や学歴を持つ何百万人もの人々を結びつけるものは、たった2つしかありません。彼らは若く純粋な心を持っていたか、自分の選択に責任を持てる年齢に達し、神とその御子イエス・キリストを信じることを選び、ただ信じるだけでなく神のために生きようと決心していたか、なのです。

アイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーチームが携挙を予期できたのは、聖書の預言がその到来を告げていたからです。聖書の約3分の1は預言的な内容です。聖書には1000以上の預言があり、その90%以上が預言通りに成就しています。残りの10%は、預言通りに成就する予定です。多くの人々が試みましたが、聖書の預言が誤りであると証明されたことはありません。聖書の預言の正確さは比類がなく、100%の正確さです。聖書の預言のすばらしさを説明するために、救い主であるイエス様が約2000年前の地上での宣教中に110以上の特定の預言を成就したことを挙げましょう。例えば、ユダが銀貨30枚でイエス様を裏切ることを決めましたが、この預言は成就する500年以上前に書かれたもので、ユダがパリサイ人と会うことに関係しており、イエス様はその手配とは無関係でした。統計学者によれば、イエス様が彼に起因する預言の半分以上を成就することができる確率は10157分の1であり、この数字は統計的にゼロであることを指摘しています。これは全宇宙に存在する電子の数とほぼ同じです。ですから、1人の人間が彼によるとされる預言の半分以上、つまり50個以下の預言を成就する統計的確率はゼロなのです。聖書は、900以上の預言が歴史のこの時

点までに成就されるはずだったと記しています。そして、それらは成就しました。聖書の預言の成就記録は 100% 正確です。

これは、聖書の不思議さと力をよりよく理解していただくためにお話ししているのです。ですから、これから起こることについて疑問があるなら、聖書の預言を勉強することをお勧めします。聖書は、来るべき日の答えを得るための最良の情報源となるはずです。I Am A Watchman のウェブサイト（日本語対応一部あり）と I Am A Watchman Vimeo Video Channel（英語版）には、このトピックに関する豊富な情報があります。

聖書の預言の理解と聖霊の促しにより、アイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーが設立されましたー 警告し、備え、励ますことを目的としたミニストリーです。私たちがビデオや電子書籍、聖書研究書やディボーション、研究記事やブログ記事を用意したのも、フェイスブック・ページやビデオ・チャンネル、ディボーション・ジャーナル、I Am A Watchman ウェブサイトを開発したのもこのためです。私たちは信者を励まし、携挙、患難、反キリスト、ハルマゲドン、最後の審判が近づいていることを世界に警告するために活動してきたのです。

キリスト教関連資料のネット掲載を禁止する新たな規制がない限り、多くのオンライン学習資料がしばらくの間、掲載されるよう配慮しました。教会はなくなりましたが、キリストを信じる多くの人々は、残された人々を支え、導き、励ますための備えをしてきました。I Am A Watchman のリソースはそのような提供の一つです。

携挙について

携挙とは、患難時代に神の怒りが注がれる前に、神の民が速やかに天に引き上げられる、すなわち救出されることを意味します。サタンが信仰の民を大きく迫害する時です。英語の Rapture（ラブチャー）は、第一テサロニケ人への手紙 4 章に由来しています。新約聖書のギリシャ語テキストでは、「ハルパッツォ」という言葉が使われていて、「力づくでつかむ」「捕らえる」「ひったくる」という意味です。ギリシャ語新約聖書のラテン語訳者は、このハルパッツォという言葉を変換をラプトゥロと訳しました。このラテン語の rapturo（ラプトゥロ）が、英語の Rapture（ラブチャー）の語源となりました。

神は携挙によって教会を捕らえ、来たるべき患難と怒りの時を経験させないようにされました。黙示録の著者ヨハネは、教会は「世に臨む試練の時から守られる」（黙示録 3:10 参照）と言っています。パウロは、携挙の迅速かつ突然の性質について、こう書かれています。

『聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。』（I コリント 15:51-52）

テサロニケ教会に宛てた手紙の中で、パウロはこう書いています。

『すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。』（I テサロニケ 4：16-17）

これは、イエス様が携挙について仰った御言葉です。

- 『そのとき、男が二人畑にいと一人は取られ、一人は残されます。』
- 『女が二人臼をひいていると一人は取られ、一人は残されます。』

ルカ 12 章で、イエス様はご自分の帰りを期待することの大切さを語られました。マタイ 24 章では、イエス様はご自分の帰りを見守り、待ち望み、準備することの必要性について語られました。

聖書には、携挙に関する多くの暗示や言及があります。例えば、秋の祭りのラッパの祭りは、携挙の予兆です。誰もその日、その時を知らず、夜の盗人というフレーズは、この古代の祭りに関連しており、ラッパの音、畏敬の日、全人類の新しい始まりもそうです。これらの連想はすべて携挙と艱難の意味合いを持っています。

旧約聖書の「哀歌」は、価値のない花嫁が、約束された素晴らしい花婿の帰還を待つようにと言われる話です。しかし、彼女は不誠実で、彼が戻ってきたとき、彼女は準備ができていません。彼は夜中の泥棒のようにやって来て、彼女は取り残されるのです。イエス様の 10 人の処女の譬えと婚宴の教えは、携挙にも言及しています。

患難前携挙説の聖書的裏づけ

歴史的に、携挙の時期に関して、3 つの有力な見解があります。アイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーは、大多数の聖書学者と同意見で、教会は 7 年の患難時代の始まる前のある時点で携挙される（キリストのもとに引き上げられる）ことを教えます。以下にその根拠となる聖書を記します。

- 患難時代は『国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。』（ダニエル書 12:1）、比類のない苦しみ時代であることが説明されています。患難時代は、怒りの時代です（黙示録 6:16-17、11:18、14:19 ゼパニヤ 1:15-18）。しかし、I テサロニケ 5 章 9 節にあるように、教会は怒りに任じられるのではなく、救いに任じられるとあります。携挙は、主が将来の「怒り」の時代から救い出すという約束を果たされたのです。

教会は『全世界に来ようとしている試練の時』から守られるのです。
(黙示録 3:10)

- 聖書は、聖霊が 1) クリスチャンの心に宿っている 2) サタンを抑制している 3) いくつかの日か取り除かれる、と記しています。聖霊を取り除くには、献身的なクリス

チャンを地上から取り除く必要があるので、聖霊／抑制者が取り除かれることは携挙を指し示しています。

『不法の者（サタン）がその定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているもの（聖霊）があることを、あなたがたは知っています。不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者（聖霊）が取り除かれる時までのことです。』

（Ⅱテサロニケ 2:6-7）

この御霊の取り去りは、教会の撤去と携挙に関連しています。

（Ⅰテサロニケ 4:14-17）

- Ⅰテサロニケ 4:13-18 は、患難前説を支持しています：

『眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあって眠った人たちを、イエスとともに連れて来られるはずです。私たちは主のことばによってあなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。』

- コリント人への手紙第一 15 章 51-55 節は、患難前説を支持するものです：

『聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられるのです。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。そして、この朽ちるものが朽ちないものを着て、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、このように記されたみことばが実現します。「死は勝利に呑み込まれた」「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。』

- 多くの聖書は、聖書の中で紹介されている患難時代の出来事が「ユダヤ的」であることを指摘しています。それは「ヤコブの悩みの時」と言われ、「ダニエルの民」、「偽メシア」、エルサレムの町、イスラエルの 12 部族、「モーセの子」、「安息日の逃亡」などに関係します。黙示録では、裁きが始まった後、教会については特に言及されていません。アイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーは、教会は患難の前に携挙されるはずなので、特に言及されていないと教えました。

- イエス様の終末に関する教え（マタイ 24 章）によると、携挙の時期は「産みの苦しみ」の直後で、患難の始まる前であることが示されています。

『そうした苦難の日々の後、ただちに太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、星は天から落ち、天のもろもろの力は揺り動かされます。そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力とともに来るのを見るのです。人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかになって葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。同じように、これらのことをすべて見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません。天地は消え去ります。しかし、わたしのことは決して消え去ることがありません。ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。人の子の到来はノアの日と同じように実現するのです。洪水前の日々にはノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。人の子の到来もそのように実現するのです。そのとき、男が二人畑にいると一人は取られ、一人は残されます。女が二人臼をひいていると一人は取られ、一人は残されます。ですから、目をさましていなさい。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから。次のことは知っておきなさい。泥棒が夜の何時に来るかを知っていたら、家の主人は目を覚ましているでしょうし、自分の家に穴を開けられることはないでしょう。ですから、あなたがたも用心していなさい。人の子は思いがけない時に来るのです。』（マタイ 24:29-44）

概要

- 携挙は預言されていました。
- 携挙は、イエス様が再び来られることであり、（ヨハネ 14:3、使徒 1:9）、来るべき怒りの時から神の民、真の教会を救い出す（黙示 3:10）と約束を成就することを表しています。
- 呼びかけは次の通り：
 - イエス様を信じること、イエス様を主であり救い主であると受け入れること、イエス様に従うことを約束することです。
（ヨハネ 1：12、3：16、ローマ 10：9-10、エペソ 2：8-10）
 - 7 年の患難時代の終わりに、彼の「栄光の出現」を待ち望みましょう。
患難時代の終わりに「栄光の出現」を待ち望むことです。（マタイ 25:13、24:42）
 - 反キリストに気をつけましょう。獣の刻印を受けてはいけません。
 - 活動的になる－正しいことを、正しい方法で、正しい心で行い、立ち止まらな
いてください。（マタイ 24：46、ガラテヤ 6：90）
 - 他の人に警告する－これは「大宣教命令」の課題の一部です。
（マタイ 28：18-20、ルカ 12：8-9、I ペテロ 3：15）

二部構成：私の赤ちゃんはどこ？そして

私の両親はどこ？

お子さんを失った親御さんへのメッセージ：

お母さん、お父さんの皆さんへ。

この手紙は、情報と慰めになればと思い、書いています。もしあなたがこれを読んでいて、携挙が起こったのなら、想像もできないことが起こったので、あなたは震え上がり、悲しんでいることでしょう。世界は混沌としており、苦悩は至る所にありますが、その全てはあなたが感じていることに比べれば、微々たるものです。あなたの最悪の恐怖は、あなたの家で実現したのです。

あなたの子どもが行方不明です。

親愛なるお母さん、お父さん、この母があなたのために泣いていることを知ってください。痛みには耐えられず、腕が空っぽなのは分かっています。自分の子どもを取り戻すためなら命を投げ出すことでしょう。もう一度我が子を抱くためなら、あなたは何でもすることでしょう。

まだ希望はあります。

世界中で起こったこの出来事は、「携挙」として知られる聖書の預言の成就でした。世界中のキリストを信じる人々が、来る患難時代（または終末の出来事）の試練から逃れるために、イエス様によって連れ出されたのです。罪のない赤ん坊も連れて行かれました。

なぜ私の赤ちゃんは連れ出されたのですか？

あなたの子どもが行方不明になっている場合、彼らはすでにキリストに従うことを約束しているか、あるいは説明責任の年齢に達していなかったために連れだされたのです。これは、彼らの心には罪がなく、キリストに従うかどうかを決める能力がなかったということでしょう。信者や罪のない人々は、キリストに認められ、来るべき暗黒の日々から守られたのです。これには、あなたの子どもも含まれます。

私の赤ちゃんはどこにいるのですか？

赤ちゃんは天国で安全で、神の愛に包まれ、必要なものすべてに囲まれています。これは理解しがたいことです。私の腕の中より安全な場所があるのだろうか、と思うか

もしかもしれません。神はあなたの心と痛みを知っておられ、何が最善かを知っておられます。そして、これから起こる未曾有の出来事は、神の王国がいかに優れた場所であるかを明らかにするでしょう。あなたの子どもは、恐怖も痛みもない、最も安全な場所にいるのです。

私の赤ちゃんを取り戻せますか？

いいえ、でも、お子さんと再会する方法はあります。お子さんがこの世の痛みや苦しみを知らないことに、少しでも慰めを見出すようにしてください。あなたはこれからの日々を強く生きて、イエス・キリストに約束された希望に目を向け、永遠のいのちという同じ贈り物を受け取り、お子さんと再会することができるようにしなければなりません。聖書は、私たちが天国でお互いを認識することを、さまざまな方法で教えています。その知識によって、私たちは、到着したとき、大きな喜びと大きな再会があることを知り、安らぎを得ることができるのです。

天国で我が子と再会するためには、何をすればいいのでしょうか？

自分の世界が崩壊していると感じるかもしれませんが、この嵐の中にも救命いかなが存在します。最高の贈り物が用意されていて、あなたがそれを手に入れるのを待っているのです。それは、キリストと共に天国で生きる永遠のいのちという贈り物です。その天国には、あなたの大切は子どもがいます。救いは、たった一つの決断で得られるのです。

キリストに従う者は、赦され、神との正しい関係に回復され、聖霊によって封印され、天の御国でイエスとともに永遠のいのちを約束されます。イエス様を信じ、イエス様に従うと決断したすべての人が、一罪のない人々も一緒に—あなたの赤ちゃんもそこにいるのです。

神の愛とカルバリー（十字架）でのイエスの犠牲が救いを可能にしているのです。私たちの世界がこんなに暗いのに、天国の希望があることはどんなに素晴らしいことでしょう。

あなたは、神への誓いの簡単な祈りを捧げることによって、新しい信仰生活を始めることができます。神は、イエス・キリストを通して、恵み、赦し、希望、目的、愛、そして永遠の命を提供しています。それはすべての人に与えられるものですが、誰にでも強制されるものではありません。今日、神の贈り物を受け取るように頼んでみてください。

お母さん、お父さん、希望を持ってください。強く生きてください。あなたの美しい子どもは安全で幸せです。キリストと愛に満ちた母親と父親に囲まれて、黄金の野原に集まってあなたの到着を待っています。

親を失った年長の子どもたちへのメッセージ：

親愛なる子どもたちへ

私は、この手紙が情報と慰めになることを願って書いています。もしあなたがこれを読んでいて、携挙が起こったとしたら、あなたはとても怯え、何が起きているのか分からないと思います。世界は混沌としていて、両親を見つけることができません。

恐怖は現実のものだとわかっています。どうすればいいのか、どこに向かえばいいのか、わからないのです。

それでも、まだ希望はあります。

世界中で起こった出来事は、「携挙」として知られる聖書の預言の成就でした。世界中のキリストを信じる人々が、この世と来るべき年から逃れるために、イエス様によって連れだされたのです。あなたの両親も信者でしたから、連れて行かれたわけですね。おそらくあなたは、キリストに従うかどうか、反対していたか、まだ自分では決めていなかったのでしょうか。だから、あなたはまだここにいるのです。

まず何をすればいいのか？

信頼できる大人の家族や友人に電話、メール、メッセージを送る。相手の電話番号を知らない場合は、親の携帯電話を探して、保存されているかどうか確認する。信頼できる人につながるまで、電話をかけ続ける。その人が迎えに来てくれるような方法を探してください。衣服と、できるだけ多くの食料と水を用意する。家の中のお金を確認し、安全な場所に保管し、出発前に持っていく。（このラブチャーキットも持って行きましょう）

なぜ両親はいなくなったのか？

もし、あなたの両親のどちらか、または両方が行方不明になった場合、彼らはキリストに従うことを約束していたので、連れ出されました。幼い兄弟が連れ出された場合、彼らは幼すぎて自分で判断できず、それを知ったキリストは彼らをも天国に連れて行かれたのです。信者と幼い者は、キリストに認められ、これからの困難な日々から守られたのです。これには、あなたの両親も含まれます。

私の家族はどこ？

あなたの家族は、天国で安全です。恐怖も痛みも感じません。神の愛と必要なものすべてに囲まれているのです。これは理解しがたいことです。あなたは、「私と一緒にいるより、どこがいいのだろう」と思うかもしれませんが。しかし、神はあなたの心や恐れを見抜き、神を愛する者と共にいると約束しています。あなたがイエス様に従う

ことを選び、イエス様があなたに提供する安全と愛に守られるには、まだ時間があります。あなたの家族は、恐れも痛みもない、最も安全な場所にいるのです。

家族を取り戻せますか？

いいえ、しかし、ご両親と再会する方法はあります。これからの日々を強く生き、イエス・キリストに約束されている希望に焦点を当て、同じように永遠のいのちの贈り物を受け取り、家族と再会できるようにしなければなりません。聖書は、私たちが天国でお互いを認識できるように、さまざまな方法で教えています。その知識があれば、私たちは、到着したときに大きな喜びがあり、家族や愛する人たちとの素晴らしい再会があることを知り、慰めを得ることができます。

天国で家族と再会するためには、どうしたらいいのでしょうか？

迷いを感じているかもしれませんが、あなたには大きな希望があります。最大の贈り物が用意されていて、あなたがそれを手に入れるのを待っているのです。それは、あなたの家族がいる、キリストのいる天国での永遠のいのちの贈り物です。イエス様を愛し、イエス様に従うことを選択することは、たった一つの決断です。

キリストに従う者は、赦され、神との正しい関係に回復され、聖霊によって封印され、天の御国でイエス様と共に永遠のいのちを約束されます。イエス様を信じ、イエス様に従うと決心した人は皆、天国にいるのです。— あなたの家族も含めて。

何千年も前にイエス様が私たちの罪のために十字架上で死なれたとき、私たちがイエス様からのいのちの贈り物を受け入れることを選びさえすれば、いつかイエス様と共に天国に行くことができるようにしてくださったのです。イエス様は死からよみがえり、わたしたちが行うすべてのことにおいて、わたしたちとともにおられます。彼は近くにいて、あなたが彼を選ぶのを待っているのです。私たちの世界が恐ろしいと感じるとき、天国という希望があることは、どんなに素晴らしいことでしょう。

あなたは、ご両親がした決断をする準備ができていますか？難しく感じるかもしれませんが、怖いと思うかもしれません。しかし、あなたは今日、キリストを選ぶことができます。神様の無償の贈り物である救いを受ける方法については、次のセクションで説明します。

神に誓う簡単な祈りを捧げることで、信仰における新しい人生を始めることができます。神は恵み、赦し、希望、目的、愛、そして永遠のいのちを提供します。それはすべての人に与えられるものですが、誰にでも強制されるものではありません。今日、神の贈り物を受け取るように頼んでみてください。

親愛なる子どもたちよ、希望を持ってください。強く生きてください。まだここにいる家族の一員を探しなさい。ご両親は安全で、キリストに囲まれた黄金の野原で、あなたがいつか来るのを待っているのです。あなたは再び彼らに会うことができます。

Jesus

*Salvation is found in no one else,
for there is no other name
under heaven given to men
by which we must be saved.
Acts 4:12*

ジーザス（イエス様）

『この方以外には、だれによっても救いはありません。
天の下でこの御名のほかに、
私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。』

使徒 4:12

なぜ私はまだここにいるのだろうか？

何百万人もの人々が姿を消しています。もしかしたら、あなたの愛する人や友人もその中に入っているかもしれません。これまでの記事では、何が起きたのか、そして愛する人がどこにいるのかを記してきました。この記事では、非常にデリケートな問題を取り上げます。なぜ私は取り出されなかったのでしょうか？携挙されなかったということは、あなたが悪い人だということでしょうか。いいえ。聖書は、すべての人が罪を犯したと教えています。―誰もふさわしくありません。今、地上にいる人の中には本当に悪い人がいることは間違いありませんが、今、地上にいる人の中には良い人、親切な人、賢い人、愛のある人がいることも事実です。携挙で天に召された人たちは、残された人たちよりも優れているわけではありませんが、携挙で召された人たちは罪が赦されたからです。

善人は天国に行くと考えるのが一般的です。しかし、それは正確ではありません。確かに、神様が天国に入れるようにされた人は、良い心を持っていて、良いことをした人でしょうが、良い人であることは十分なことではありません。神様は、誰が良い人かではなく、誰が完全であったかを見ておられるのです。誰が傷のない者なのか。誰がイエス・キリストに自分の罪を告白し、赦され、彼との関係の中で歩んでいるのでしょうか？神様は純粹で、神聖で、完全な方であり、同じく純粹で、神聖で、完全な方としか結ばれることができません。人類は罪を犯しやすいので、神様は御子イエス・キリストを遣わされ、彼は完全な人生を送りました。自分の過ちを認め、神様を信じ従うことを決心するすべての人の罪を贖うためにイエス・キリストは十字架上で死なれました。キリストを信じる真の信者、キリストに従う者は、罪が赦され、霊的な観点から見て、完全な者とされるのです。そして、人を愛し、人に仕え、人を証しし、つまり多くの良いことをされたキリストの模範に従うことを誓って、神様の恵みに対する感謝の念を表します。ですから、携挙で天に召された人々は、良い人だから召されたのではなく、イエス・キリストを信じ、罪が赦されたからです。良い行いは、その信仰によるものです。

もし、クリスチャンだけが連れて行かれたのなら、なぜ多くの教会関係者がまだここにいるのでしょうか。と尋ねる人もいるだろう：その質問には、イエス様が最後の審判の時（ちなみにまだ起きていません、それは時の終わりに起こります）にどのようになると言われたかをお話しすることでお答えしましょう。マタイによる福音書 7 章 21 節から、次のような言葉が記されています。『わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。』明らかに、私たちが何を言うか、何を考えるかが問題なのではありません。私たちが何をし、どのように生きるかということなのです。22、23 節『その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇蹟を行ったではありませんか。』しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』』身の引き締まるような言葉です。霊的なことに関与し、それに囲まれ、定期的

に教会に通い、寄付をしていますが、赦されず、神様と本当に関係がないということはあり得ることです。神様のことは知っていても、御子イエス・キリストを通して神様と関係を持っているのとは違うのです。先に述べたように、これらのことはどれも罪の赦しに影響しませんし、あなたを完全にするものでもありません。—イエス・キリストとの関係を持つことだけが、それを可能にするのです。イエス様だけがあなたを完全にすることができ、完全であることが救いに必要な条件なのです。私たちは、どんなに良いことをしても救われるわけではありません。

そして、真の信者はただ信じるだけではありません。ヤコブ 2 章 19 節にこうあります。『あなたは、神は唯一だと信じています。（つまり、神が父なる神、子なる神、聖霊なる神としてご自身を現されたことを信じ）立派なことです。（それは、あなたがたの理解において良い始まりです）。ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。』天国に入る人は、悪魔たちよりも高いレベルの信仰を示す必要があります。真の信仰者は、神を第一に考え、信仰を学び、成長するよう努力します。信仰を分かち合い、人に仕え、犠牲を払い、全身全霊で神様の導きに従います。キリストの信仰者は、人間から見て完璧ではありません。私も完璧ではありません。しかし、キリストにあって、私の罪は赦され、あなたの罪も赦されるのです。

ある人はこう思うかもしれません。私は善良な人間であり、善良な神様が私を置き去りにして、友人や家族の一部を連れて行き、警告なしにこのすべてを行うはずがない。—それは公平とは言えません。神様がなさったこと、そして神様が常になさることは、公正なことだと申し上げます。神様は良い方であり、警告がありました。ヨハネの福音書 3 章 16 節には、次のように書かれています。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』善良な神様だけがそのようなことをなさるのです。神様はアブラハム、ヤコブ、イスラエルに立てられた士師、王、預言者を通して、御子を通して、聖霊を通して、御言葉を通して、時代を超えて、人々に手を差し伸べてこられました。—神は時代を超えて、人類に手を差し伸べ、人類を助け、人類に語りかけ、人類のために介入し、人類が神様を認め、従うように懇願してこられました。ローマ人への手紙 5 章 8 節はこう記しています。『しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。』預言と約束を通して、神は携挙が来ることを警告されました。そして、人類がそのために霊的に準備するよう促したのです。そうです。神は公平であり、携挙が起こったという事実は、神がその御言葉に忠実であることを単に証明しています。しかし、心に留めておいてください。

—良い知らせがあります。神はまだ人類を気にかけておられ、時は非常に遅いが、あなたが救われ、来るべき永遠の時代に天国と栄光の場所を保証される機会がまだあるのです。しかし、この時代に真の信者として生きることは簡単なことではありません。あなたは、艱難と呼ばれる歴史の暗黒の時代を通して、イエス様のために生き、イエス様の証人となることを望まなければならないのです。このバインダーの資料と「携挙後の世界と教会はどうなるのか」の資料は、次のステップとして何が最善かを知るのに役立ちます。

神はあなたのことを気にかけておられ、あなたが何をすべきか、何が来るのか、そしてどのように将来に備えるべきかを知ることができるように、アイ・アム・ア・ウォッチマン・ミニストリーにこれらのリソースを提供するよう促してくださったのです。

今、あなたがしなければならない最も重要な決断は、あなたがイエス・キリストについてどうするかということです。あなたは信じますか？イエス・キリストに従い、イエス・キリストに仕えたと誓いますか？自分の罪を神様に告白しますか？あなたが直面している（そしてこれから直面するであろう）困難にもかかわらず、希望はあります。その御名はイエス・キリストです。彼はあなたとともにいて、あなたを助け、勇気をもって彼に忠実であるすべての人に報いてくださいます。

クリスチャンになるには

以下に記すのは、キリストを受け入れるためのシンプルな 4 ステップの計画です。このプロセスを、救われる（Ⅰヨハネ 2：2、使徒 4：12）、あるいは新たに生まれる（ヨハネ 3：3、Ⅱコリント 5：17）と呼ぶ人もいます。生まれ変わった信者は、キリストの弟子であり従者です。勇気のある人は、**見張り番**となります（エゼキエル書 33:1-9）。イエス・キリストを信じる者は、イエス・キリストによって救われます。彼らは罪が赦され、天国での永遠の命が保証されているのです。救いに関する教えは、私たちのビデオチャンネル [Vimeo.com/iamawatchman](https://www.vimeo.com/iamawatchman) で見るができます。

救いのための 4 つのステップ

1. 神があなたの人生の中で第一位でなかったことを理解し、神があなたの罪を赦してくださるようお願いしましょう。聖書は、神が私たちを愛してくださっていること、イエス様がご自分に告白した罪を赦してくださることを記しています。
 - 『もし、私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。』
(Ⅰヨハネ 1:9)
2. イエス・キリストがあなたの罪の代価として死なれ、よみがえり、今も生きておられることを信じましょう。
 - 『なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。』
(ローマ 10:9)
3. 神の救いの贈り物を受け入れてください。神があなたを愛しておられることを信じましょう。イエス様があなたのために来てくださり、死んでくださったことを信じましょう。神の恵みは、あなたの罪よりも大きいと信じましょう。後悔、苦い思い、恐れ、恥ずかしさによって、神の愛の腕の中に入るのを妨げてはいけません。
 - 神との関係を回復することは、私たちが何かをすることではなく、イエス様がすでに私たちのためにしてくださったことに基づいていることを覚えておいてください！
4. イエス・キリストがあなたの心の中に入ってきて、あなたの人生の主になってくださるようお願いします。
 - 『しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。』 (ヨハネ 1:12)
 - (イエスは言われた) 『見よ。わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。』 (黙示録 3:20)

神様に誓う簡単な祈りを捧げることで、新しい信仰生活を始めることができます。
以下に祈りの例を記します。

「親愛なるイエス様、

私があなただけを無視して自分の道を歩んできたときでさえ、私を愛してくださってありがとうございます。私は、私の人生にはあなたが必要であることを気づかされました。私の罪について謝罪します。赦してください。私のために十字架で死んでくださってありがとうございます。あなたの愛、そして私の人生に対するあなたの御心をもっともっと理解できるように助けてください。これからはできる限り、あなたに従いたいと思います。どうか私の人生に入り込んで、私を内面から新しい人間にしてください。私はあなたの救いの贈り物を受け入れます。クリスチャンとして、今成長できるように助けてください。イエス様、ありがとうございます！
イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン」

重要聖句

ヨハネ 3:16-17

ローマ 3:23

ローマ 6:23

ローマ 10:9-10

ローマ 10:17

Ⅱテモテ 1:9-10

ヘブル 9:27-28

ヨハネ 6:47

ヨハネ 1:12

エペソ 2:8-10

ローマ 5:8

テトス 3:5-7

再び恋に落ちる

信仰を再燃させるための考察

私は夜空に向かって目を閉じ、風が背の高い草を揺らす音に耳を傾けました。

秋の気配が漂っていました。野原をつつむ朝霧に、その予兆がありました。秋の香りは、枯れ葉の中にありました。私はいつも季節の移り変わりが好きでした。

この数カ月、私は不眠と戦いながら、日が暮れ、夜が長く感じられるようになりました。私は背もたれに寄りかかり、風の音に耳を傾けました。

私は目を開け、天を仰ぎ、創造主に語りかけ始めました。

「あなたが恋しい」と祈りました。

夜空のように澄んだ声で「わたしはいつでもここにいるよ」とすぐに応えてくださいました。

私は立ち止まり、冷え切った腕を両手で擦りました。私たちの間に距離を置いたのは、私だったのだろうか。

私の道はぬかるんでいました。私は喉が渴いた旅人のような気分で、道さえ覚えていれば静かな水に辿り着けるような、洗われた山道のすぐそばをさまよっていました。

私の夜は落ち着かず、祈りはバラバラになり始めていました。

なぜ、私は初恋の人から離れてしまったのだろうか？

あの蝶々を思い出せました。会話するときのドキドキ感。目覚めや眠りにつくときの安らぎ。一緒にいることの喜び。仲間との絆から生まれる強さ。

恋に落ちるということがどんなことなのか知っていました。もう一度感じてみたい。

私は星の柔らかな光に包まれながら、静かに心の扉をもう一度イエス様に開いていきました。

私は、聖書のページに綴られた心の歌、史上最高のラブストーリーを思い出したのです。そのラブストーリーは、私のことでした。そのラブストーリーは、私たちみんなのことだったのです。イエス様は私の心を求めていたのです。私の魂のために死んでくださったのです。御父は、私たち一人ひとりとの深く永続的な関係を望んでおられ

ます。一成長し、変化し、伸び縮みし、呼吸する関係です。生きている関係を望んでおられるのです。私はそれを知っていました。私はそれを知っています。

しかし、ここ数ヶ月、私は自分自身に引きこもるようになり、進歩がなくなり、自分と造り主との間に障壁ができました。どうしたらそれを壊せるのでしょうか？どうすればやり直せるのか、どうすれば再び恋に落ちることができるのか？

暗い草原を歩いています。どうしたら人を好きになれるのだろう？私は不思議に思いました。その答えは、空に輝く星のように私の頭の中に現れました。相手を知ることです。まず、私がこの世に生を受ける前に御父が始めた会話に戻る必要があります。私がこの世を歩く前に、御父が始めた会話です。

『あなたこそ 私の内臓を造り 母の胎の内で私を組み立てられた方です。』（詩篇 139:13）主は私たちが主を知ることが切望しておられます。私たちが心を開いて、彼に語りかけるのを待っているのです。

マタイによる福音書 7 章 7 節には、『求め続けなさい。そうすれば与えられます。探し続けなさい。そうすれば見出します。たたき続けなさい。そうすれば開かれます。』とあります。もし、私が自分の人間関係を変えたかったら、まず、手を上げてノックしなければならなりません。

地球上のすべてのつながりには、努力が必要です。すべての人間関係の種は、成長し、花が咲き、花開くように、育てられ、世話をされなければならないことを知っています。それなのに、なぜ天国の関係にも同じことが言えると思ひ出すのがこんなに難しいのでしょうか。もし私が水をやらなかったら、どうしてその種が育つと期待できるのでしょうか？

私が地上の夫を愛し、敬うことを誓ったように、私は天の御父に自分の人生を捧げることを選ぶことができます。一ひざまずいて、私の心と魂を捧げるのです。そして、他の関係と同じように、この関係も浮き沈みがあるでしょう。なぜなら、私は人間だからです。一私は疑い、挫折し、失敗します。でも、主は決して変わりません。私が谷にいるときも、山頂にいるときも。私が暗い野原で心を空に投げ出しても。

平和が流れ星のようにゆっくりと降り注いできました。

この関係は、一度だけでなく、毎日、私が選ばなければならない約束だったのです。私は、なぜこんなに迷っているのだろうと、手を差し伸べることに精一杯で、自分の時間、注意、人生そのものを与えることを忘れていました。一私の時間、私の注意、私の人生そのものを与えることを忘れていました。私の愛です。

イエス様はマタイ 16 章 24 節で、『「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」』とおっしゃっています。休暇のスーツケースに荷物を詰めて、主についていくものではありません。快適

さを求めて主に従うではありません。しかし、自分の十字架を負わなければならないのです。なぜなら、イエス様を第一に選ぶ人生は必ずしも簡単ではありませんが、その価値があるからです。

恋に落ちるのは怖いことです。自分の心を他の人に預けるほど弱くなることは、究極の信頼を失うことですが、イエス様はその道のりの一步一步を共に歩むと約束してくれています。

私は、自分の心の奥底から輝きが始まるのを感じながら、背後にある自宅の暖かい光に向かって足を向けました。

もし、ノックをするならば、恋に落ちる準備をしておいてください。創造主を深く個人的なレベルで知ること、あなたの心に変化するのを感じる準備をしておいてください。愛は私たちを変えます。

あなたは谷間にいるのかもしれないし、山頂にいるのかもしれませんが。種は乾いていて、あなたが水を与えてくれるのを待っているのかもしれませんが。私たちはどこにいても、戻ってくるには遠すぎるということはないのです。彼はそこで待っているのです。私たちは何度でも、何度でも、恋に落ちることができるのです。

だから、手を挙げてノックしてください。

**WHEN WE FOCUS
ON THE GREAT
BARRIER**
BEFORE US

**WE
FORGET ABOUT
THE GREAT GOD
ABOVE US**

私たちは目の前の大きな壁に注目するとき

私たちの上にいる偉大な神のことを忘れてしまう

信仰の伝え方

この記事はチャレンジです。一気の弱い人のためのものではありません。携挙後の世界を生きる信者は、自分の召命を果たすために、恐るべき勇気を持つ必要があります。しかし、神は、あなたが神から望まれる存在になるよう助けてくださいます。

携挙後の艱難時代の世界は、歴史上最も危険な時代となります。7年間の艱難が展開されると、戦争、疫病、暴動、神の裁き、厳しい弾圧が地上を席卷します。法律が変わります。キリスト教の文献や集会は、禁止されるでしょう。獣（黙示録13）を崇拜することが義務づけられます。イエス様を撤回することを拒否すると、死によって罰せられるでしょう。論理的な選択肢は、逃げるか、隠れるか、バンカーを建てることかもしれません。そして、神は実際、信者のグループに敵から逃れるために逃げたり隠れたりするように指示するかもしれません（黙示録12）。しかし、私が思うに、この未曾有の時代に、神は信者たちが大胆に神の御名を宣べ伝える機会を求めることを望まれるのではないのでしょうか。暗黒の世界において、イエス様は、人々に光を指し示すことを望んでおられると思います。あなたは、大胆な証人となることができますか？

新約聖書の原文（ギリシャ語）では、クリスチャンという言葉と殉教者という言葉が関連していることをご存知でしょうか。この時点で、信者が目指すべきは「よく始めること」ではなく、「よく終わらせること」です。長生きすることではなく、信仰を全うすることではなければなりません。安全であることではなく、証人となることでなければなりません。代償はありますか？おそらく。しかし、キリストの御名によってこの世で苦しんだり、失ったりしたものは、後の世で報われるのです。そう、偉大な信仰と偉大な勇気を示す者には、偉大な報いがあるのです。


イエス様は**すべての**信者に信仰を分かち合うように呼びかけています。クリスチャンは単にキリストを信じるだけでなく、キリストの弟子であり、キリストの行動を模倣するように努めなければなりません。新約聖書の教会の初期には、クリスチャンという言葉は侮蔑的な言葉でした。クリスチャンになるということは、キリストのようになることであり、イエス・キリストは偉大で力強い証人でした。使徒パウロは、すべての信者がそうであるべきだと書いています。ローマにいる若い信者たちを鼓舞するために、彼はこう書きました。『私は福音を恥と**しません**。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。』（ローマ1:16）神様のために大胆になりましょう。あなたの歩みを導き、信仰を伝える機会を見出すことができるよう、神様にお願いしましょう。主の導きの前に踏み出すことなく、主が導いてくださることを、勇気をもって行いましょう。

良い番人とは、良い証人のことです。—自分の信仰をどのように伝えればよいかを知っており、それを実践しているのです。以下は、主の証人となるために、どのように成長したらよいかという提案です。

知っておくべきこと

- **すべての人は、奉仕と分かち合いのために召されています。**使徒の働き 1 章 8 節は、個人が聖霊を受けることによって、『...エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てまで、わたしの（主の）証人となります。』と記しています。聖霊の働きの力関係は携挙以前とは異なるかもしれませんが、神はこの終わりの日にも信者が偉大なことを成し遂げるように助け、力を与えてくださると私は信じています。皆さんは、奉仕し、分かち合うために助けられ、救われたことを忘れないでください。神は、信者が神から受けた洞察と恵みを分かち合うことを期待されています。

- **勇気を出して、でも慎重に。**初期のキリスト教のシンボルの一つが魚の絵

()であることは、ほとんどの人が知っています。しかし、このシンボル

は、相手が信者かどうかを見分けるための秘密の挨拶として生まれたことはあまり知られていません（当時、キリスト教徒であることは死罪とされていた時代もあったため、重要な問題でした）。自分の信仰について率直に話してもいい状況かどうかを見極めるために、注意深い人は砂の上に弧（半円）を描くようにさりげなく挨拶するのです。相手が信者で、キリストについて話しても大丈夫なら、その動作を繰り返し（魚のイメージを完成させる）、会話を進めていくのです。私は、すべての信者が信者とだけ、そして安全なときだけ分かち合えということを言いたいわけではありません。しかし、慎重さが必要なのです。特に、神の導きを感じない場合は、大胆であっても不必要なリスクは冒してはいけません。イエス様は抜け目のない執事を称賛し（ルカ 16）、弟子たちに『...蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。』（マタイ 10:16）と勧められました。

- **時間がないことを知る。**多くのスポーツでは、時間が残り少なくなり、得点が必要な場合、監督は勝利を確実にするために、リスクを伴うプレーを要求するものです。友人たちよ、時間が遅いことを認識することが重要です。艱難時代は、イスラエルとその敵の間で和平協定が結ばれてから 7 年後に終わります。その時、全人類の永遠の運命は、永遠に封印されるのです。神様から与えられた働きとメッセージを伝えることを遅らせてはいけません。あらゆる機会を利用してください。

艱難、反キリスト、そして預言の時間軸の次に来るものについての詳細は、
www.vimeo.com/IAmAWatchman に掲載されている聖書の預言のビデオをご覧ください。

- **ホスピタリティ（親切なもてなし）は、証しのための扉を開くものです。**私たちは、主が導いてくださるなら、いつでも、どのような形であれ、福音を分かち合うことが求められています。機会はいつでも訪れる可能性があり、私たちはこのような予期せぬ分かち合いの機会に備えるよう求められています。しかし、もてなしの領域で自らを行動させることによって、素晴らしい分かち合い

の機会を作り出すことができます。コーヒーや食事に人を招待することで、霊的な話し合いの機会を作ることができます。目的は、まだキリストを信じていない人たちと関係を築き、自分の信仰を伝える機会を探すことです。

- **あなたはしばしば、奉仕する人々と分かち合う機会があります。**手伝ったり、奉仕したりする機会を探してみてください。それは、病気や悲しみを抱えている人かもしれませんし、あるプロジェクトで支援を必要としている人かもしれません。あなたの時間を惜しまないでください。他人を助けることに投資することは、証しをするための土台を作ることになります。親切にすることで、福音を伝える機会につながる人が多いことを忘れないでください。

何をすればいいのか

- **救われていない人々のために祈り、関係を築くことに時間を費やしましょう。**私たちは自分がよく知っている人の話をよく聞く傾向があります。つまり、私たちの伝道メッセージは、私たちのことを知っていて、私たちを信頼している人々によって最もよく受け取られる可能性が高いということです。これはまた、私たちが主を知らない人たちと関係を築く時間を作り、彼らを主のもとに導くために良い位置を占めなければならないことを意味します。まず、あなたが知っている人々から始めましょう。神様が、あなたが証しできるように、何人かの人をあなたの影響の及ぶ範囲に置かれたことを信じましょう。その人たちが誰であるかを明らかにしてくださるよう、神様に祈り求めてください。あなたの信仰を伝える機会が与えられるように、どのように時間を費やし、人間関係を構築すればよいのか、神様に知恵を求めてください。

- **知っていることを共有してください。**証をすることは専門家に任せるべきと考えることは魅力的です。多くの人は、まず自分がもっと快適に感じることに、もっと聖句を覚えること、もっと訓練を積むこと、もっと答えを用意することを考え、個人伝道に参加することを先延ばしにしています。もっと学びたいという願望は賞賛に値しますが、その願望が今日のあなたの義務からあなたを遠ざけてはいけません。驚くべき証人は、驚くほど明晰である必要はありません。力強い証人は、非常に洗練されている必要はありません。—メッセージはただ真実であり、イエス様を指し示し、心から来るものであればよいのです。イエス様は、「来て、見なさい」と言うだけで、アンデレを招きました（ヨハネ 1:39）。ヨハネ 4 章に登場するサマリヤの女性は、イエスがなさった驚くべきことを他の人に伝えるだけで、力強い証人となりました。ヨハネ 9 章に登場する盲人は、神学的な訓練を受けたわけではありませんが、主がいかに自分によくしてくださったかを証しし、「一つだけわかっていることがあります」と語ることで力強い証しとなりました。「私は目が見えなかったが、今は見えている。」あなたが知っていることを分かち合いましょう。証をする—短いバージョン（90 秒以内）と長いバージョンを用意します。分かち合う機会を探しましょう。探せば見つかるはずですよ。

- 共有することを恐れず、真実と愛を持って話しましょう。箴言 10:10 には、『目で合図する者は人に痛みをもたらし...』とあります。私たちの文化は、寛容と平和の名の下に、罪深い行いを無視することを示唆しています。箴言 10:10 は、その逆であることを指摘しています。さらに、箴言 24:25 には、『しかし、悪者を叱責する者たちは喜ばれ、すばらしい祝福が臨む。』と書かれています。

箴言 24 章 25 節は、非難、拒絶、恥辱、破門を勧めるのではなく、道を踏み外した兄弟や迷子の人に、イエス様が何を期待されているかを知らせるだけの関心を持つべきだということを示しているのです。その 1 節後にこうあります。『正直な答え（真理）は友情の口づけのようなものだ』（箴言 24：26, NLT）真の友人は、イエス様と約束された、間近に迫った再臨について分かち合います。批判的な態度はいけませんが、動機が純粹で、愛によって語られる言葉であれば、何が正しくて何が間違っているかを判断し、真理を声に出してもいいのです。これがウォッチマンの使命です。このテーマに関する詳しい情報は、こちらのリンクから、裁くべきときはありますか？（Is It Ever OK To Judge?）

<https://iamawatchman.com/is-it-ever-ok-to-judge/>という記事をご覧ください。

- 「尋ねてください。」何世紀にもわたって、多くの人々（説教者さえも）がイエス様について伝えることはうまくいきましたが、個人が降伏し、告白し、イエス様との関係に入る準備ができているかどうかを尋ねることになると、不十分なものとなりました。ウォッチマンは、賢明に、大胆に、この問いかけをするのです。祈り、御霊の導きに敏感になるように努めながら、常に、「あなたはクリスチャンになる準備ができていますか？」と尋ねるための開かれたドアを探してください。そして、もちろん、その意味と方法を明確に説明できるように準備してください。
- 御言葉を知り、よくある霊的な質問にどう答えるかを知ることが優先させましょう。Ⅰペテロ 3 章 15 節には、信者は『...あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい。』とあります。Ⅰペテロ 3 章 15 節の指示は、すべての信者（聖職者だけでなく）に対するものです。信者は御言葉を学び（Ⅱテモテ 2：15）、それを心に刻み（詩篇 119：11）、それを分かち合う用意をしておかなければなりません（Ⅰペテロ 3：15）。一般的に、霊的な答えを提供できればできるほど、私たちの証はより説得力を持つようになります。生涯学習者となることを決意します。これは、神を敬い、あなたの霊的な歩みを支え、あなたの証しを強めることとなります。以下に、誰かをキリストに導き、よくある霊的な質問に答える方法を知るために作られたビデオ教典や記事へのリンクをいくつか挙げておきます。

- 救いに関する文書: <https://iamawatchman.com/how-to-Become-a-christian/>

- 神からの救いの贈り物に関するビデオ教材^{きょうざい}：

<https://vimeo.com/260646426>

- 「信じる理由」と題された3部構成のビデオ教材^{きょうざい}。

<https://vimeo.com/260668664> (パート 1)

<https://vimeo.com/260668764> (パート 2)

<https://vimeo.com/260668947> (パート 3)

- ニュースの見出しが証の機会になっているかどうか考えてみてください。この終わりの日には、多くの時事問題が聖書の預言の成就に結びつきます。

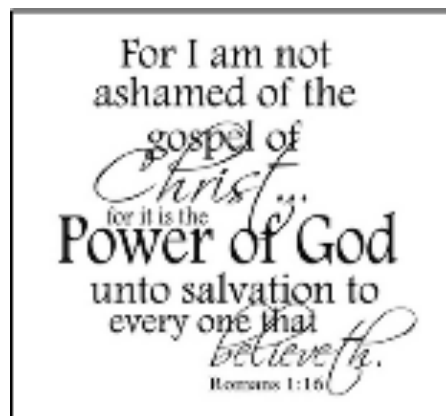
[PROPHECY BOOK\(預言書\)](#)を読み、この資料キットの中の預言のビデオを見て、現在の出来事がどのように聖書の預言の土台となり、または成就となるかを意識してください。今は懐疑の時代です。大多数の人が聖書の完全性と信頼性を疑っています。また、聖書の預言が2000年以上の間になかったペースで成就している時代でもあります。現在起こっている出来事に注意を払い、預言の成就がどのように聖書が真実であることを証明しているのかを分かち合うことができるようになりましょう。そうすることで、霊的な話し合いの扉が開かれ、あなたの証が強められるでしょう。

- ソーシャルメディアを使って、神のメッセージを伝えましょう。これには注意が必要です。ほとんどのコンピューターや携帯電話では、誰がクリスチャン・コンテンツを投稿し、送信しているのかを個人が識別する方法があります。しかし、福音を広めるためにソーシャルメディアやオンラインのプラットフォームを安全に利用する方法を祈りながら考えてください。投稿するときは、賢明に、そして積極的に行いましょう。ここでの目標は、投稿、コメント、訂正、情報提供、勧告、鼓舞、励ます機会を探すことであり、すべては神の栄光のためです（I コリント 10：31-33）。

- 反対を期待する。サタンは自分の時間が短いことを知っていて、激怒しています（黙示録 12:12）。サタンの手先は、誰が奉仕し、分かち合っているのかをスパイしています。彼らは、その働きを止めようとします。疑いと落胆は、サタンが好んで使う武器です。サタンがあなたの喜びを奪い、あなたのペースを落とし、神があなたに望んでおられることをするのを妨げてはなりません。考えてみてください。もしあなたがフットボールのチャンピオン・チームに選ばれ、スーツを着て、フィールドに出てプレーし、ボールを持ったとしたら、相手チームのメンバーがあなたを追いかけ、タックルしようとし、何とかして目的を達成するのを止めようとするのは普通のことだと思うでしょう。そして、もしゲームの中でブロックされたり、殴られたり、押されたり、タックルされて地面に投げ出されたりしても、反則をしたり、むっとしたり、フィールドから逃げ出したり、コーチに「フェアじゃない、やめたい」とは言わないでしょう。そうではなく、これもゲームの一部なのだとして理解するのがいいです。フットボール選手は、相手チームに追いかけられ、殴られることを予期しています。信者も、反対されることを予期すべきです。クリスチ

ヤンは、安らぎや楽を約束されているのではなく、勝利を約束されているのです。
(I コリント 15:57)

- **神様が動いてくださることを期待する。** ヤコブ 1 章 6、7 節は、信者は神が動いてくださることを期待して祈るべきだと記しています。確かに、サタンは攻撃しますが、神は必ず勝利してくださいます。神は、これまでも、そしてこれからも、民のために、民を通して動かれるのです。私たちは神の働きをいつも見ることが出来るわけではありませんが、神が計画を持っておられ（エレミア書 29:11）、働いておられることを知ることが出来ます（ヨハネ 5:17b）。ネヘミヤ書、そして信仰をもち、神様の奇跡を信じる大切さの教えの簡単なビデオへのリンクはこちらです：<https://vimeo.com/272877904> 英語版のみ
- **忍耐すること。** ガラテヤ書 6 章 9 節が真実であることを信じましょう。「失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることになります。」 私たちがあきらめなければ、適切な時に収穫を刈り取ることが出来るのですから。



『私は福音を恥とは思いません。

福音は、信じるすべての人に、

救いをもたらす神の力です。』

ローマ人への手紙 1:16

強くありなさい * 反キリストに抵抗しなさい * すべてにおいて神を 信頼しなさい

これは、その時が来たときに生きることよりも、書くことの方がはるかに簡単です。この内容の多くは、現時点では議論の余地があるか、推測に過ぎません。その時が来て、反キリストが現れたら、抵抗することは犯罪的なほど重大で、致命的なことになるでしょう。歴史は、すべての権力を持つ者に抵抗するとどうなるかという証拠で満ちており、抵抗する者にとって決して良い結果にはなりません。抵抗することは、あなたが世界システムから追われ、憎まれる敵になることを意味することを理解しなければなりません。あなたの人生は、本質的に違法な地下の存在になります。あなたは、不忠実、不調和、地上にとって最善のものへの抵抗のために、狩られ、迫害されるでしょう。あなたは一人ではありません。

あなたは自分が問題であると言われるでしょう。あなたが犯してもいない犯罪で告発され、当局はあなたを脅すことが正しいことだと考えるでしょう。今まで知っている社会が一気に変わり、元に戻ることはありません。しかし、あなたは神様の御言葉の真理に立たなければなりません。『あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。』（Iヨハネ 4:4）あなたは裏切り者の烙印を押され、もっとひどい目に遭うでしょう。友人や家族は、あなたが反抗的であることを理由に、あなたを警察に突き出すことが正しいことであると考えられるかもしれません。そうすることで、報酬を得られる可能性も高いでしょう。最終的には、抵抗の「罪」は、死によって罰せられるようになるでしょう。どんな困難や圧力や拷問も、永遠に地獄に堕ちるよりはましです！心してかかってください。

反キリストの世界体制に抵抗することは、さまざまな理由で困難です。不可能に感じるかもしれませんが、辞めないでください。神はあなたとともにおられ、あなたは一人ではありません。

1. 反キリストはサタンによって力を与えられる。悪魔は自分の力を証明するためにあらゆることをするでしょう。彼はある程度の力を持っていますが限定的なものです。彼は神ではありません。勝利者でもありません。本の結末はすでに書かれています。彼はできるだけ多くの人を地獄に連れて行くために戦うでしょう。イエス様は『人に惑わされないように...』（マタイ 24:4）と警告されました。
2. 悪魔の軍団は、反キリストに仕えます。彼らは霊的な存在で、目に見えず、空間や重力に制限されず、「奇跡」を起こすことができます。映画に出てくるような超能力が突然現実のものとなっても驚かないようにしましょう。しかし、騙されないでください。それは神ではありません。
3. 多くの偽キリストや詐欺師が現れるでしょう。彼らは説得力があり、上記の項目があるため、イエス様のように見えることでしょう。彼らは多くの人を納得させますが（マタイ 24:24-26）、あなたは真理を知っています。

4. 技術はコントロールされます。獣の刻印が一役買うこともあります。獣の刻印を持つ者を追跡することができます。旅行や商業が規制され 顔認証が至る所に導入されます。
5. 獣の刻印は、人間の活動を支配します。獣の刻印を受け入れてはいけません！獣の印は、「善良な世界市民」であることを示す単なるしるしではありません。この印は、世界とそこにいるすべての人々を支配しようとする反キリストの計画の一部なのです。印の一部は、人間であるあなたに影響を及ぼします。キリストが死んだのは人間のためであって、ハイブリッド・トランス・ヒューマンのためではないので、マークが何らかの形であなたの、人間の DNA を変え、あなたが救いを経験することを不可能にすると考える学者もいます。黙示録 13 章 16、17 節は、獣の印について述べています。すべての公的な取引、たとえば仕事で給料をもらうときでさえ、この刻印が必要になるのです。それは何でしょうか。今は推測と憶測に過ぎません。聖書学者やテクノロジーの専門家も、あまりにも多くの可能性があるため、確かなことは分らないと認めています。今は明白に見えることでも、携挙の後に無害に見えるように変更される可能性があります。神は、印を見抜く知恵をあなたに与えてくださいます—知恵のために祈りましょう。
6. 友は、互いに立ち返る（マルコ 13:12、マタイ 24:12、ルカ 21:16）。反キリストとちかくなる人は、だれでも信用してはいけません。クリスチャンは、関係によって自分自身を識別するようになります（I ヨハネ 3:14-18）。
7. 注意 —「公式」なものはすべて、不正なものである。電子的、技術的、経済的にコントロールできるものは、コントロールされているのです。映画やテレビは、私たちの一挙手一投足を誰かが見ていることが「普通」であるかのように思わせています。最初は犯罪者を捕まえるためでしたが、イエス様が神への唯一の道であり、反キリストではないと言うことが犯罪になったら、どうなるのでしょうか。『神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。』（I テモテ 2:5)
8. 印そのものは、電子機器、タトゥー、埋め込みチップ、あるいは注入された微小なバイオ ID かもしれません。印が編集された DNA マーカーである可能性もあり、文字通り人間の DNA 構造を変えることができます。トランス・ヒューマンになるのです。この印によって、あなたはより強く、より賢く、あるいは病気から免れるようになると約束されるでしょう。この印はポジティブなものとして扱われるでしょう。「便利だ。安全だ。これはあなたの個人的なアイデンティティです。もう二度と現金を持ち歩く必要はありません。医療情報を持ち歩く必要ありません。おそらく、「ハッキングされることはない、文字通りあなたの一部なのだから！」と言われることでしょう。

ある人々は、新世界秩序やそれを率いる人物への忠誠のしるしとして、この刻印を受けるでしょう。印を受けることは、反キリストへの完全な忠誠を証明することになります（黙示録 13:15-18）。他の人々は、だまされて刻印を受けるでしょう（黙示録 19:20）。しかし、獣の刻印は、無害でもなければ、単に「今の世の中の仕組み」でもありません。黙示録 14 章 10 節から 14 節には、それがはっきりと書かれています。『その者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、聖なる御使いたちと小羊の前で火と硫黄によって苦し

められる。彼らの苦しさの煙は、世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぎがない。』

これをはっきりと聞いてください。獣の刻印を受けた者は、永遠に地獄に堕ちる。これ以上ははっきりしたことはありません。

反キリストからの安全な場所はあるのだろうか？

避難所はあるようです。イエスは荒廃の忌まわしい時に、ユダヤの山々について話されました。

『それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる場所に立つのを見たら 一読者はよく理解せよー ユダヤにいる人たちは山に逃げなさい。屋上にいる人は、家にある物を取り出そうとして下に降りてはいけません。畑にいる人は上着を取りに戻ってはいけません。それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。あなた方の逃げるのが冬や安息日にならないように祈りなさい。そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。』

(マタイ 24:15-21 (マルコ 13:14-19、ルカ 21:20-23))

黙示録 12 章 6 節、 14 節から 16 節には、「女」が 3 年半の間、荒野で養われることが書かれています。その荒野はどこでしょうか？ダニエル書 11 章 41 節は、エドム、モアブ、アンモンの地が反キリストの攻撃を免れることを示唆しています。

『彼は美しい国に攻め入り、多くの者が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアンモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。』(ダニエル書 11:41) また、エレミア書 31 章 1、2 節には、『「そのとき ー主のことばー わたしはイスラエルのすべての部族の神となり、彼らはわたしの民となる。」主はこう言われる、「剣に免れて生き残った民は荒野で恵みを見出す。イスラエルよ、出て行って休みを得よ。」』預言者ホセアは言う、『それゆえ、見よ、わたしは彼女を誘い、荒野に連れて行って、優しく彼女に語ろう。わたしはそこを彼女のためにぶどう畑にし、アコルの谷を望みの門とする。その場所で彼女は答える。若いころのように、エジプトの地から上って来たように。』(ホセア書 2:14,15)

これらはすべて中東にあることが明らかで、イスラエルにあるものもあれば、エジプト、ヨルダン、サウジアラビアといった周辺地域にあるものもあります。ペトラ（セラ、「岩」の意）はヨルダンにあり、イスラエル人の避難場所、最後の砦として確認されています（イザヤ書 16:1、Ⅱ列王記 14:7）。

少なくとも、クリスチャンが追跡されずに国際的な旅をすることは、ほとんど不可能になるでしょう。生き残るための最善の方法は、他のクリスチャンを見つけ、あなたがいる場所で食料や避難所を確保し、互いに助け合うことです。生存のためのテクニックは、このキットに含まれています。

あなたはウォッチマン（見張り人）として召されていますか？

ウォッチマンには使命があります。一神様からの使命です。その役割は、懇願されたり、買わされたり、騙されたりするものではありません。それは目的であり、神の追求であり、義務であり、深く個人的な使命なのです。彼らは見守る必要があります。彼らは自分たちの城壁とその門の中に住む人々を愛しています。彼らは自分たちの王国の王を愛し、どんな形であれ王に仕えたいと願っています。

ウォッチマン・コーリングとは何か？

[Watchman's calling](#)とは？召命とはどういう意味ですか？ウォッチマンが、自分が「召された」と確信できない場合、その人はウォッチマンでいられるのでしょうか？どれもいい質問です。現代のウォッチマンの役割を見極めるには、過去のウォッチマンが何をしていたかを見てみるのがよいでしょう。

今では、ゴールデンレトリバーが城壁を歩いたり、知らない人を見たら吠えたりするように訓練できます。犬の視覚は人間より優れています。嗅覚も鋭く、聴覚も人間よりはるかに優れています。しかし、ウォッチマンは、どんなに本能的に優れた動物でも持ち得ない特性を持っていました。

ウォッチマンー過去と現在

聖書でいうところの「見張り番」の仕事は、平凡で、単調で、昼も夜も退屈なものであったでしょう。そのように思われます。よく、「敵」と「敵の監視役」に例えられることがあります。監視する側は100%正しくなければならない。敵は一度だけ正しければいいのです。

現代では、軍隊は暗視ゴーグルや赤外線カメラなどの道具を持ち、相手軍が使うかもしれない武器を探知する兵器まで持っています。しかし、聖書の時代のウォッチマンには、そのような贅沢なものはありません。

ウォッチマンは、裸眼の鋭い視力を頼りにしていました。視力は、間違いなくこの職の資格の一つでした。ウォッチマンは、他の人よりもよく、遠くまで、はっきりと、さらには直感的に見ることができなければなりません。それは紛れもなく、生死を分ける問題でした。当時も今も同じです。

もしあなたがウォッチマンまたはウォッチウーマンであることを知っていて、ウォッチマン・ミニストリーに來たのなら、すでにその召命の大きさを理解しているはずです。自分の召命を感じ取るのに手助けは必要ありません。すでにあなたの心は満たされています。その影響力をどう生かすか、そしてどう生かすかについてのガイダンスが必要なのです。あなたは一人ではありません。世界中のウォッチマンとウォッチウーマンがここに集まってきており、まさにウォッチマンのコミュニティです。

私はウォッチマンになりたい

ウォッチマンとウォッチウーマンは、神様に召され、そのポジションで奉仕しています。それは厳しい努力の積み重ねです。それは奉仕の機会であり、趣味ではできないことであり、気の弱い人には絶対にできないことです。ウォッチマンは、この終わりの時代において、神のための強力な力であり、それはつまり、脅威的な敵からの反対を予期していることを意味します。

ウォッチマンは、スリルや賞賛や肩書きのためにウォッチマンをしているのではありません。もし自分がウォッチマンやウォッチウーマンだと思うなら、自分が何のためにサインアップしたのか分かっているはずで、この仕事の準備ができていない人には、他の方法で神に仕えるようにと、すぐに言うでしょう。これは、生まれたばかりのクリスチャンのための召命ではありません。ウォッチマンの仕事は、次のレベルのクリスチャンです。もしあなたが、壁の上に這い上がり、敵に対して声を上げるつもりなら、その使命がどのようなものかを知っておくべきです。

ウォッチマンとは

極めて明確なビジョンを持っている人 — 海賊映画で見るような望遠レンズが登場するのは、ネヘミヤがエルサレムの城壁再建を監督してから、何世紀も後のことです。しかし、「見張り番」は遠くを見渡し、敵と味方を見分けることが期待されていました。サムエル記第二 18 章 24-27 節には、ダビデ王と番人の洞察に満ちたやり取りが記されています。

『ダビデは外門と内門の間に座っていた。見張りが城壁の門の屋根に上り、目を上げて見ていると、見よ、ただ一人で走って来る男がいた。見張りが王に大声で告げると、王は言った。「ただ一人なら、吉報だろう。」その者がしだいに近づいて来た。見張りは、別の男が走って来るのを見た。見張りは門衛に叫んだ。「あそこにも、一人で走って来る男がいる。」王は言った。「それも吉報を持って来ているのだろう。」見張りは言った。「最初の者の走り方は、ツアドクの子アヒマアツのもののように見えます。」王は言った。「あれは良い男だ。良い知らせを持って来るだろう。」』

このやり取りから得られる教訓はいくつかあります。とりあえず、1 つに絞って考えてみましょう。彼は遠くから見ることができ、見たものを認識することができます。

ウォッチメンを見分けられる人 — ウォッチマンは、鋭い感覚、鋭い視力、貴重な洞察力だけでなく、常識的な判断力も備えています。ウォッチマンは一人では務まりません。

一日は 24 時間です。どの時間も守らなければなりません。神は一人のウォッチマンを指名されたわけではありません。それは、孤独で、暗く、緊張感のある、危険な仕事です。バランスと透明性を保つためには、他のウォッチマンが必要です。一人で

やっている人は、疲れ果てて、曖昧になり、もっと悪いことのは — ただ単に頭がおかしくなってしまう。常に孤立している人は、やがてバラバラになります。お互いに寄り添いましょう。

より大きな負担を背負う人 — 都市、州、国。主への奉仕は面積で測れるものではありませんが、ウォッチマンは壁の上の有利な立場から遠くを見ることができます。そのような重荷を背負っているのですから、人を見る目も変わります。ウォッチマンは数秒の短い会話で、その人の霊的な状態を知ることができます。他の人は、服装や車民族性などを見ますが、ウォッチマンはその人の霊に焦点を当てます。この召しによって歩んでいない他の人々は、それが難しく、不可能だとさえ感じます。その人の霊的な状態をどうやって理解するのでしょうか。ウォッチマンにはそれができます。

神にのみ答える人 — ウォッチマンは、世間やクリスチャン仲間でさえも、ウォッチマンとしての召命を十分に理解していない場合があることを理解しています。彼らは、自分が認められていないことに躊躇することはありません。彼らは、匿名と無名の中で奉仕し、それを喜んで行います。

神の視点から世界を見る人 — 神は罪を見ておられます。この世に悪があることを知っておられます。一人一人の人生の細部まで知っておられます。しかし、神は、神を憎む者たちに愛をもって応えられます。「神はこのように世を愛された…」ウォッチマンは、神を憎む人々さえも愛しています。なぜか？それは、神がなさることであり、ウォッチマンがすることだからです。彼の使命は警告することであり、非難することではありません。

神から聞く人 — 多くの説教や多くの本が、「神から聞く」とはどういうことか、正確に説明しようとしてきました。その中には、教会にとって有益なものもあれば、そうでないものもありました。あるものは、福音のメッセージから遠ざかり、救われていない世界の人々に、クリスチャンは変人だと思わせています。ウォッチマンは、その声を聞いて、それが神であることをすぐに認識し、言われたことをどうすればよいかを知っています。その神からの言葉を伝えることが適切な場合もあれば、そうでない場合もあります。神様は、そのみことばで識別力を与えてくださいます。

王の計画を見抜く「側近」の1人 — ヘンリー・ブラッカビー（『神を体験する』著者）は、「神が行っていることを見ることは、神に加わるようにという神の招きである」と述べています。それは、ウォッチマンがその計画に自分たちのやり方を押し通すという意味ではなく、気づかされるという意味です。王の計画は、しばしばウォッチマンが探しているものに影響を与えます。

時には、自分が役割を果たすために王の計画を見せられることもあります。また、神が動き出していることを認識させるためだけの場合もあります。神が何をなさろうとしておられるかを見ることによって、ウォッチマンは警戒を怠らないのです。

権威を理解する人 — ウォッチマンは、「自分の居場所を知っている」。彼らは意見を求められたときに発言します。彼らは、ウォッチャーだからといって、地位が上がるわけではなく、あくまでも立場が上がるだけだと理解しています。ウォッチマン

は、情報に精通し、準備を整え、報告をすることができます。時には、その報告が権威ある人々に影響を与えることもあります。それが目的ではありません。ウォッチマンは、おもに監視するために召されています。彼らは権威を持つことができますが、それを求めることはありません。その判断は神がされるのです。

注：ウォッチマンは、神の仕事をするために疲れ果ててしまうことがあります。現在、聖書の時代と同じように、ウォッチマンは交代制で仕事をしています。これは重要なことです。あなたには休息が必要です。休むことは錆びることではありません。休む。自分を回復する。自分を鍛える。

ウォッチマンは、過労と休養不足に陥ることがあります。それを表す言葉があります — [ストレス](#)。この組み合わせは、燃え尽き症候群につながります。燃え尽き症候群は名誉の象徴ではなく、段階的に実行される死刑宣告なのです。自分自身を大切にすること。まず霊的に、そして感情的、身体的、精神的に。

ウォッチマンはウォッチマンでつながっています。ストーリーを交換します。相手の壁で何が起きているのかを知り、助けを求めます。ウォッチマンは自分が弱者であることを知っています。単独で奉仕しようとする者は、孤独なレンジャーではなく、孤独なターゲットなのです。

ネヘミヤ記 4 章 19、20 節で、預言者は城壁の建設に従事している人々を集めています。彼は、敵がいつ攻撃してくるかわからないことを認識し、城壁に沿って見張り番を配置しています。問題は、城壁が早く完成すればするほど、安全が確保されるため、城壁の再建に総出で取り組む必要があることです。敵の接近を知らせる番人だけでなく、敵の侵入を防ぐ壁が必要なのです。

ネヘミヤは状況を分析し、解決策として、すべての労働者に両方の権限を与えることによって、より多くのウォッチマンと労働者を作ることと決定します — 見張ることと働くこと。各労働者は、建設するための道具と戦うための武器の両方で武装していますが、問題があります。— それは、都市全体を取り囲む大きな壁と、散り散りになった人々です。敵が南から攻めてきた場合、残りの「軍隊」が北の壁、東や西に散らばっている中で、どうやって一人の小さな労働者チームが南の壁を守ることができるでしょうか？

ネヘミヤは、すべての人々、市の役人、長老、労働者、そして監視人を呼び集め、全員に同じ命令を下しました。

『私は有力者たち、代表者たち、およびそのほかの人々に言った。「この工事は大きく、また範囲は広い。私たちは城壁の上で互いに遠く離れ離れになっている。どこでも、角笛が鳴るのを聞いたら、私たちのところに集まってきなさい。私たちの神が私たちのために戦ってくださるのだ。」
(ネヘミヤ 4：19-20)

ウォッチマン（見張り人）の戦術

ウォッチマンには戦略があります。戦略は、目的を持って計画すること；そして、情熱を持って準備することです。ウォッチマンは、敵の攻撃（多くの場合、奇襲攻撃）があった場合に、街に警告を発することが自分の役割であることを知っています。街を守るという目的を達成するために、ウォッチマンは戦略を持って行動しなければなりません。

計画家（プランナー）と戦略家（ストラテジック・シンカー）がいます。計画家は、やるべきことをリストアップします。戦略家は、リストも作ります；明文化されていないタスクを達成するために必要な理由や、成功するために必要な道具をリストアップします。そして、より高い成功確率を得るための戦略を考えるのです。この作業は、まだタスクが与えられていない段階で行われます。最高のフットボールコーチは、戦略家たちです。勝利のチャンスは、彼らのプラン、ゲームプラン、戦略にかかっているのです。

ゲームプランは相手によって変わります。相手によっては、フットボールを走らせるのが上手な選手もいます。彼らは、ランニングバックが、彼を捕まえてタックルしようとする相手よりも速く、効率的にタックルを避けることができるので、それで成功するのです。そのようなチームは、パスもしますが、より多く走ります。

ボールをパスすることで有名なチームもあります。彼らは180cmのレシーバーがいるから成功するのです。彼らは高くジャンプして、ボールをキャッチするのを邪魔する相手を出し抜くことができるのです。彼らは走りもしますが、パスが一番得意なので、走るよりパスが多いのです。

各チーム、各監督は自分たちの強みをベースに戦略を構築しますが、相手の強み、弱みも考慮します。

優れたコーチは、チームを勝たせるための準備をします。優れたコーチは、相手が勝つ方法も考えています。コーチの戦略は、2つのプランの組み合わせです：プラン1 — どのように勝つか；プラン2 — いかにして相手を負かすか。勝つために、コーチは選手を準備します — 練習し、コーチが作るプレーを学び、そして、そのプレーを繰り返し練習し、個々のプレーを完璧にこなす能力を身につけさせます。

鍛え、学び、練習し、実行します。どこに「勝つ」という言葉があるのでしょうか。勝利の保証はありません。Aチームが訓練し、学び、練習し、実行している間、Bチームも同じように訓練しているからです。それぞれが勝つための戦略を持ち、それぞれが相手を負かすための戦略も持っています。

優れたコーチは相手を理解します。相手の長所は何か？相手の弱点は何か？相手の強みを克服し、弱点を利用するためには何が必要なのか？なるほど、素晴らしいスポーツの例えだが、それが「ウォッチマン」の戦略とどう関係があるのだろうか？

ウォッチマンは、世界最凶の敵であるサタンとその手下に立ち向かいます。サタンと、サタンの手先である悪霊たちです。彼は単なる敵ではありません。彼は容赦なく、冷酷で、フェアなプレーはしません。彼は多くの勝利を収めており、どんなウォッチマンも積み重ねることのできない何千年もの経験を持っています。

ウォッチマンは何をすべきなのか？

計画にこだわる。 私たちのゲームプランはすでに書かれています。それはシンプルでわかりやすい：『身を慎み（明瞭であること）、目を覚ましていなさい（注意深く、少し疑い深く）。あなたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを**食い尽くそう**と探し回っています。』（Ⅰペテロ 5:8）。私たちの計画は何でしょう？ 防衛すること。冷静であること（準備）。警戒すること（見張る）。敵を知ること（敵より早く準備せよ）。圧倒的な勝算がある場合、チームを作ること。

攻めの姿勢で臨む。 悪魔に対抗するだけでは十分ではありません。私たちは、救われていない世界のために行動しなければならないのです。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。...』（ヨハネ 3：16）私たちが敵対するものには、世はあまり興味を示しません。悪魔は、クリスチャンと同じように、救われていない人たちにも敵対していることを理解しなければなりません。悪魔は無差別に『...盗んだり、殺したり、滅ぼしたり...』（ヨハネ 10：10）現代社会では、多くの人が何かに反対しています。選手はひざまずき、音楽は怒り、フェイスブックは毒を吐き、クリスチャン同士は仲良くなれなません。あなたは何に賛成ですか？ よく分からない？ I Am A Watchman [Statement of Belief \(信仰告白\)](#) のページをご覧ください。そこから始めるとよいでしょう。

チームを作る。 キリスト教はチームスポーツです。一人でやっていくには、あまりにも多くの敵、落とし穴、誘惑に直面します。使徒の働きに登場する教会は、互いに愛し合い、共同体意識を持つことによって、逆境に直面しながらも成長し、生き延びてきたのです。

練習すること。 — 「練習は完璧を生む」というフレーズは誤りです。「完璧な練習が完璧を生む」と読むべきでしょう。間違った方法で長く練習すれば、あなたは熟達しますが、非効率です。そこで、強力なコミュニティが重要になります。あなたの天職、その苦悩と勝利を知っているウォッチマンを見つけましょう。そして、勝利している人と交わり、学ぶことを止めないことです。『あなたは務めにふさわしいと認められる人として、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、[恥じることのない働き人（ウォッチマン）](#)として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい。』（Ⅱテモテ 2：15）。

コーチの話を聞く。 — 世界最高のアスリートにはコーチがいます。だから彼らは最高なのです。世界のトップゴルファーにはコーチがいますが、多くの場合、そのコー

チはプレーヤーにコーチしていることを自分ではできないのです。長い間、神に仕える人たちのポッドキャストに耳を傾けてみてください。一部の人が気に入らないからと言って、気を落とさないでください。イエス様が受けたであろう「評価」を想像してみてください。しかし、絶え間ない論争は、アンバランスの兆候です。あなたのコミュニティのウォッチマンに、誰がコーチをしているのか聞いてみてください。

筋肉を鍛える。燃料を補給する。その繰り返し。 — 戦いは、あなたの技を磨くと同時に、殴るべきときと、かわすべきときがわかるようになるまでは、傷を負い続けます。(エペソ 6:11-14) 神様の御言葉の剣の使い方を学びましょう。誰を切り、誰を守るかを知りなさい。クリスチャンのために訓練しすぎることはありませんし、ウォッチマンの奉仕のために訓練しすぎることもありません。忠実なウォッチマンには、共通した特徴があります。それを実践してください。

目的に向かって集中する。 — 最高の競技者は、これからもっと競技があることを知っています。でも、今、ここだけが、私が勝たなければならない唯一のものなのです。ちなみに、勝つために観戦するのではなく、観戦しながら同時に勝つ。それが戦略というものです。一部は自分が勝つこと、一部は相手が負けることを確認すること。必ず勝てる？いいえ。他のウォッチマンが助けに来てくれる？そうです。そして、他の人たちのために、自分もその一人になるようにしましょう。パウロはこう書いています。『こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。』

(ヘブル 12:1、2)

ウォッチマンとして身につけるべきスキルは、まだまだたくさんあります。その多くは、時間と練習によってのみ得られます。あるものは勝利とともに、あるものは敗北とともに、あるものは時間とともに、そしてあるものは経験豊かな他のウォッチマンから得られるものです。戦略とは、勝つことだけではありません。勝利は戦略の結果です。ウォッチマンは立っています。ウォッチマンは見ます。計画を立てます。練習します。

ウォッチマンは戦略を練ります。

**WHEN WE FOCUS
ON THE GREAT
BARRIER**
BEFORE US

**WE
FORGET ABOUT
THE GREAT GOD
ABOVE US**

私たちは目の前の大きな壁に注目するとき

私たちの上にいる偉大な神のことを忘れてしまう

これから起こること

終末の出来事に関する三部構成の研究

1. 艱難時代に関する預言
2. 反キリスト
3. アルマゲドンとゴグ・マゴグの戦いのプロフィール

艱難時代に関する預言

世界は今、歴史の中で特筆すべき時期に差し掛かっています。艱難の時代です。聖書では、艱難時代をさまざまな名前で呼んでいます。ダニエルの 70 週、ヤコブの悲しみの時、神の御怒りの時、などなど。イエス様は、この時期が未曾有の大混乱に陥ることを預言されました。それでも聖書は、この暗黒の季節の中で、神が働かれると記しています。主イエスは聖徒の軍隊を率いて来られ、イスラエルの敵に大勝利を収め、7 年の艱難時代に救われたすべての信徒を救出されるのです。

ある人は、裁きに関する聖書の預言は、神が怒っている、あるいは意地悪であることを示しているように見えると信じています。しかし、それは正反対です。神は怒っておられないのです。神は愛する者に警告を与え、最後の手段としてのみ、個人がより良い道を歩むよう促すのです。もし、今日、世界がキリストに立ち返るなら、預言されている将来の艱難は起こらないだろうと筆者は信じています。しかし、神は人類が意志を持っていることを知っておられ、彼らがどのような選択をするのかを知っておられます。それゆえ、預言は実現するのです。私たちの歴史の最後の 7 年間に、神はこの地上に艱難と怒りをもたらされます。なぜでしょうか？人類に悔い改めを促し、神の救いの申し出を受けさせるためです。この記事では、これから起こると預言されている艱難時代の出来事について、聖書に基づいた概要を説明します。

大艱難時代の預言（年代順ではありません。）

イスラエルは平和条約を締結する：

- 反キリストは、イスラエルを含む「多くの者との契約」を課します（ダニエル書 9:27；8:23-25）。この「契約」によって、7 年間の艱難時代が始まるのです。

イスラエルは平和になり「壁のない」状態になり、北からの侵略とゴグ・マゴグ戦争を前に。（エゼキエル 38-39）このような安心感は、先に述べた平和条約の結果でしょう。北からの侵攻は艱難時代の半ば以降に起こると思われます。

地震：艱難時代には、大地震が世界を揺り動かします。（黙示録 6:12, 8:5, 11:13, 16:18 など）注：艱難時代の始まりまでの数年間は、より大きな地震が増加します。

第三の神殿はエルサレムに建てられる：ダニエル、イエス、パウロ、ヨハネは、終末の日にエルサレムに神殿が建設されることに言及しています。この出来事は、ダニ

エル書 9 章 27 節、12 章 11 節、マルコ 13 章 14 節、テサロニケ人への手紙第二 2 章 4 節、黙示録 11 章 1、2 節で言及されています。

神殿のいけにえが復活する。終末の日、イスラエルで。ダニエル書 9 章 27 節、12 章 11 節、黙示録 13 章に、このことが書かれています。神殿の完成と日々のいけにえの習慣は、艱難時代の中ごろまでに整えなければなりません。

神殿のいけにえは禁止される：艱難時代の半ばに、反キリストが神殿を掌握し、突然、日々のいけにえをやめさせ、自らを神と宣言するのです。(黙示録 13)

144,000 人の信者は、御霊によって封印される：聖霊はイスラエルの 12 部族のそれぞれから 12,000 人のユダヤ人信者を「封印」されるのです。これは、神が世界を伝道するために用いられる膨大で完璧な数の信者を象徴する数字である可能性が高いです。(黙示録 7) この封印された証人たちと共に、二人の偉大な預言者が来ます。(黙示録 11:3-14) これらの預言者は 42 ヶ月間力をもって宣教し、その後死刑に処されます。彼らの死は多くの人々によって祝福されます。彼らの体は 3 日間路上に横たわり、その後奇跡的に復活して天に召されます。

リバイバル：艱難時代の間、多くの人がイエス様に立ち返ります。

(黙示録 7:9-17、ダニエル書 12:10、ゼカリヤ書 2:11、イザヤ書 19:16-25)

草木が全滅する：黙示録 8 章 7 節によると、第一のラッパの裁きで、地上の全植物の 1/3 が破壊されると記されています。

隕石または彗星が海に落下する：黙示録 8 章 8-9 節は、第二のラッパの裁きで、何かが海に落ち、すべての海の生物の 1/3 が破壊されることを指摘しています。

苦ヨモギ：第二のラッパの裁きと同様に、第三のラッパの裁きでは、天体が地上に落下しやすくなり、真水が苦くなります。(多くの死者が出ます)

光の減少：第四のラッパの裁きによって、(太陽、月、星からの) 光が 1/3 に減少する。

苦しめる生き物：第五のラッパの裁きでは、魔界からサソリのような生き物がやってきます。これらの生き物は人間を苦しめますが、死に至らせることはありません。ある人々は、これらの生き物はイエス・キリストを信じる者を苦しめることはできないと示唆しています。

反キリストの強制的な崇拝：第 2 テサロニケ 2 章と黙示録 13 章には、偽預言者がすべての人に反キリストを崇拝するよう強制することが記されています。そうしないと、餓死、嘲笑、死が待っています。反キリストへの忠誠の証明には、右手または額に刻印を受けることが含まれます。この刻印がなければ、合法的に何かを売買することができなくなります。

刻印を押された者の体のただれ：黙示録 16 章 1、2 節は、獣の刻印を受けた者は、獣への崇拜を意味し、体に痛みを伴うただれ（KJV では、「腫れ物」）が生じると記しています。

避難所：古代ペトラ（ヨルダンにある）は、信者の避難場所になります。
（イザヤ書 16:1-4、マタイ 24:16、黙示録 12:6,14）

東から大軍が進撃する：第六のラッパの裁きは、東からの大軍（二億人）の到来を告げます。この軍隊はイスラエルに向かって進み、その跡に荒廃を残します（黙示録 9:13）。

ユーフラテス川が干上がる：大河ユーフラテスが干上がり、東の軍隊がイスラエルに向かって進軍できるようになります（黙示録 16:12）。

反キリストは傷を負います：黙示録 13 章によると、反キリストは頭部に致命的な傷を負うが、その回復に多くの人が驚き、彼の神である主張を後押しする。

獣に乗る女：黙示録 17 章（およびエレミア書 50-51）は、この女（バビロンの大淫婦、ミステリーバビロンとも呼ばれる）に対する裁きを記しています。これは、個人ではなく、国家に対する裁きです。

海や川の中の生命は死んでしまう：黙示録 16 章 3 節は、第二の鉢の裁きが注がれるとき、海に残っている生命が死ぬことを示しています。その死は、海が血のようになるほどのものです。第三の鉢の裁きは、川の中の生命を死に至らしめます（黙示録 16:4）。

灼熱：第四の鉢の裁きは、灼熱をもたらし、不幸をもたらし、植物を荒廃させます。

暗黒：第五の鉢の裁きは、異常な暗黒と痛みを伴う悪霊をもたらしますが、ある訳では「災い」と読めます。（黙示録 16:10-11）。

戦争：最後の大きな戦争は、ハルマゲドンの戦いと総称されています。

勝利：イスラエルは敵に囲まれ、多勢に無勢ですが、神が介入され、イスラエルはハルマゲドンの戦いに勝利します。サタンと偽預言者は縛られ、底知れぬ穴の中に投げ込まれます。イエス・キリストは、千年王国として統治を始め、地上に平和と正義をもたらします。（黙示録 19-21 章）。

反キリストに関連する紛争

- 反キリストは、狡猾さ、欺瞞、陰謀によって世界の権力者になりますが（ダニエル 8:23）、世界を征服するためには軍事力に頼らざるを得ないでしょう。

- 黙示録 13:7 は、反キリストが最終的に「あらゆる部族、民族、言語、国民に対する権威」を獲得すると記しています。この権威は、まず外交によって、次に戦争によって達成されます。黙示録 6 章には、世界的な戦争が勃発し、人類の 4 分の 1 が死ぬと記されています（黙示録 6:8）。

『また私は、海から一頭の獣（サタンの反キリスト）が上って来るのを見た。これには十本の角と七つの頭があった。その角には十の王冠があり、その頭には神を冒瀆する様々な名があった。（ダニエル書によると、これらは彼が支配する 10 の国々を表している。）私が見たその獣は豹に似ていて、足は熊の足のよう、口は獅子の口のようにであった。竜（サタン）はこの獣に、自分の力と自分の王座と大きな権威を与えた。』（黙示録 13:1,2）

『不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるし（奇跡）と不思議、また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。』（Ⅱテサロニケ 2：9,10）

『獣は、聖徒たちに戦いを挑んで打ち勝つことが許された。また、あらゆる部族、民族、言語、国民を支配する権威が与えられた。』（黙示録 13：7）

反キリストの治世に起こる戦争と紛争

- 黙示録第 9 章は、通常戦争、霊的戦争、核戦争を示唆しているようです。（核戦争は、8 章 7 節に地球の 3 分の 1 が焼き尽くされるとあり、16 章 2-11 節に生存者を苦しめる「憎しみと悪意のある」腫れ物が記されているからです）。黙示録 6、8 章に記された戦争は、人類の半数以上が死ぬことになります。9 章に書かれている東からの軍隊は、"200,000,000 人"で構成されています。
- 黙示録 12 章 霊的な戦い — 過去、現在、未来。
- 黙示録 12、13 章イエスを信じるすべての者、ユダヤ人、および獣に従わないすべての者に対する協調的な弾圧。
- イスラエルのユダヤ人の一部は、「荒野」に逃げ込み、そこで神によって超自然的に守られます。（黙示録 12:13-14）。この隠れ場所は、現代のヨルダンにある箱庭のような峡谷にある古代都市ペトラになると多くの人が考えています。ダニエル書 11 章 41 節は、反キリストが終末の反乱の一部であるヨルダンを征服するのを阻止すると記しているので、この仮定には十分な理由があるのです。
- ゼカリヤ書 13 章 8 節は、反キリストがこの時期にユダヤ人の 3 分の 2 を殺害することを示しています。
- 黙示録 12 章 17 節は、反キリストがイスラエルの「子孫」、すなわち「神の戒めを守り、イエスのあかしを守る者たち」に対しても戦争を仕掛けると記

しています。これは、艱難時代にイエスを主として受け入れる人々を指しています。

- 黙示録 7 章 9 節から 14 節には、天国で殉教した大勢の人々が描かれています。彼らは、「大艱難から来た者たち」とされています。
- 黙示録 17、18 章では、バビロンの大淫婦（獣に乗る女とも呼ばれる）に対する攻撃が記されています。これは、悪を行う国家または地政学的な宗教・経済体制のことですが、反キリストを支持する国家と敵対しています。多くの人は、エレミア書 50、51 章が、この存在に対する神の裁きに言及していると考えています。

『また、御使いは私に言った。「あなたが見た水、淫婦が座しているところは、もろもろの民族、群衆、国民、言語です。あなたが見た十本の角と獣は、やがて淫婦を憎み、はぎ取って裸にし、その肉を食らって火で焼き尽くすことになります。それは、神のことが成る時まで、神はみこころが実現するように王たちの心を動かし、彼らが一つ思いとなって、自分たちの支配権を獣に委ねるようにされたからです。」（黙示録 17:15-17）

- 黙示録 16-19 章ハルマゲドンの戦い。侵略軍は、神によって超自然的に破壊されます。東と北の軍隊がハルマゲドンの谷に到着すると同時に、主が現れて超自然的な言葉を話し、敵の軍隊は「彼の御口の息をもって」（Ⅱテサロニケ 2:8）即座に破壊されるようです。ヨエル書 3 章 16 節は、主が『シオンからほえ』、『エルサレムから声をあげられる』と記しています。イザヤ書 10 章 16 節は、その結果が『やつれさせ』たと記しています。ゼカリヤ書 14 章 12 節は、兵士の肉が『まだ足で立っているうちに腐る』ような疫病が起こると記しています。『彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。』黙示録 19 章には、反キリストと偽預言者はこの敗北の後、1000 年間縛られ火の池に投げ込まれると記されています。

反キリスト

反キリストとは、黙示録に登場する獣のことです。彼は、サタンに取り込まれた悪の化身であり、冷酷で、神が愛するものすべてを破壊しようとします。この怪物が支持を集め、権力を握ることができるのは、二律背反の性格によるものです。彼は群衆を魅了する一方で、何百万人もの殺りくを計画します。彼は世界的な問題を解決し、善人のように見えますが、その目的は悪です。彼が世界に与える苦痛と苦悩の範囲は、今までに見たことがありません。反キリストは人間ですが、サタンに取り込まれています。彼は、イスラエルとの平和条約を結ぶことを主導しますが、平和の人ではなく、実際には、何十億人もの人を殺す戦争の時代を先導することになるのです。

彼は悪の象徴であり、欺瞞の達人です。現実のジキル博士とハイド氏、あるいは極悪非道なレックス・ルーサーのように、賢くて洗練されたプロフェッショナルでありながら、悪意と情け容赦のない人物になるでしょう。

反キリストという言葉の聖書的根拠

反キリストとは、キリストの意思に反対する者です。しかし、艱難時代には、キリストを欺き、敵視する偉大な人物が地上に現れ（支配し）ます。この人物は「荒廃の忌まわしいもの」「反キリスト」として知られています。

先に進む前に、「反キリスト」という言葉をはっきりさせておくことが重要です。ヨハネの手紙によると、反キリストとは、キリストの教えに反対する者のことです。この意味で、多くの人が反キリストになることができます。実際、「大宣教命令」の働きを妨げ、神の事柄に反対する人は誰でも反キリストです。

- 『こう命じるのは、人を惑わす者たち、イエス・キリストが人となって来られたことを告白しない者たちが、大勢世に出て来たからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。』（Ⅱヨハネ7）
- 『イエスを告白しない霊はみな、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていましたが、今すでに世に來ているのです。』（Ⅰヨハネ4：3）

しかし、聖書は、艱難時代に、ある世界的指導者が現れると記しています。中東の平和条約を締結し、多くの複雑な地球規模の問題を解決するために、その指導者を世界が賞賛するでしょう。やがて、彼は世界のシステムを支配するようになるでしょう。彼は神であると主張しますが、実際には、サタンに取りつかれた人間です。彼は反キリストです。この反キリストは次のように言及されています。

反キリストが来るタイミング

- 『しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。』（Ⅰテモテ4：1）
- 反キリストは、イスラエルとの「契約」を確認することによって、7年間の艱難を開始します。（ダニエル9：27）

彼の人格/性質

- 反キリストは、偉大な欺き者となります。力、しるし、不思議を誇示して、善の代理人であると主張するのです。（Ⅱテサロニケ2:9）
- 聖句の記述によると、7人の王または支配者が反キリストの前に現れます。（黙示録17:11／ダニエル5）反キリストの帝国は、異教を受け入れ、神の民を迫害した過去の帝国と似ていますが、それとは異なります。
- 反キリストは人間です。（ダニエル7:24-25）
- 反キリストは激しい顔つきをしています。（ダニエル8:23）。
- その姿は、「仲間よりもたくましい」（ダニエル7:20）これには、いくつかの意味があります。それは、反キリストが他の者よりも背丈が大きく、他の者よりも年を取り、他の者よりも多くの支持者を持ち、他の者よりも高い軍人や政治家の地位にあり、他の者よりも資格があると見なされていると考えられています。

支配の特異な側面

- 反キリストは、偽預言者として知られている奇跡を起こすパートナーによって支えられるでしょう。（黙示録 13:11-12）
- 反キリストは、異常に賢く、狡猾です。（ダニエル 8:23）
- 反キリストは、その行うことすべてにおいて成功します。（ダニエル 8:24）
- 反キリストは、女の欲望を無視します。（ダニエル書 11:37）彼はヒトラーのように、恋愛に関心がないように見せるかもしれませんが、同性愛を受け入れるかもしれません。
- 反キリストは、エルサレムの神殿（時に第三神殿と呼ばれる）に座り、神であると主張します。（Ⅱテサロニケ 2:4）
- 反キリストは「策略を繁栄させる」（ダニエル 8:25）ここで、「工芸」という言葉の定義に注目するのは興味深いことです。ヘブライ語の原文では、ミャーマー（mirmah）といい、詐欺、欺き、偽り、策略、裏切りなどを意味します。これらは彼の治世の特徴になります。
- 黙示録 17 章 8 節は、反キリストが『昔はいたが、今はいません。やがて底知れぬ所から上ってきます...』と記しています。多くの方は、これは彼が一見して致命的な傷を克服したことに言及していると考えています。また、政治的なキャリアや帝国を復活させることを指していると理解する人もいます。

『その頭のうちの一つは打たれて死んだと思われたが、
その致命的な傷は治った。全地は驚いてその獣に従い、』
（黙示録 13：3）

支配の初期

- 反キリストは、十人の王の中から現れる（ダニエル 7:8）。
- 反キリストは、おそらく復活したローマ帝国のような 10 カ国の連合を監督する（ダニエル 2:44）。
- 反キリストは、10 カ国の連合から 3 人の王を根絶やしにする（ダニエル 7:8）。
- 反キリストは、平和を掲げて権力の座に就く（ダニエル 8:25）。
- 反キリストは、世界政府を樹立し、それを支配する（黙示録 13:1-2）。
- 反キリストは、「力強く、強い王国」を支配する（ダニエル 7:7）。
- 反キリストは、「すべての国々を支配する力を持つ」（黙示録 13:7）。
- 反キリストは、大軍を率いる（ダニエル 11:31）。
- 反キリストは、「栄光の聖なる山に、海の上に自分の宮殿の幕屋を建てる」（ダニエル 11:45）。おそらく、反キリストは海とエルサレムの間に小さな要塞を設置するのでしょう。

支配の最後の年

- 反キリストは、自分に似せて像を造らせる（黙示録 15:2）。
- 反キリストは、イスラエルとの契約を確認した後、3 年半で世界政府を完全に支配するようになる。その後、42 ヶ月間支配し続ける（黙示録 13:5）。

- 反キリストは、「荒らす憎むべきもの」（すべての人が拝まなければならない自分の像）の設置を支持する。この出来事は、最後の42ヶ月の始まりであり、「大難難」と呼ばれる時代の始まり（ダニエル書 9:27）。
- 反キリストは、神殿で毎日いけにえを捧げることを禁止する（ダニエル 11:31）。
- 反キリストは、売買を支配し、すべての人に「獣の刻印」を押すことによって、自分への忠誠を証明するように強制する（黙示録 14:11）。
- 反キリストは、ユダヤ人とクリスチャンを殺そうとする（ダニエル 12:7）。
- 反キリストは、イスラエルと戦争をし、ハルマゲドンの戦いで終結する（黙示録 6-19）。

その怒りの矛先は、神の民であるイスラエルとエルサレムに向かうだろう。

『見よ、主の日が来る。あなたから奪われた戦利品が、あなたのただ中で分配される。「わたしはすべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。都は取られ、家々は略奪され、女たちは犯される。都の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は都から絶ち滅ぼされない。」主が出て行かれる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。』

（ゼカリヤ 14:1-3）

彼の運命

- 反キリストは、君の君（イエス・キリスト）に立ち向かいます（戦います）（ダニエル 8:25）。
- キリストは、神の御言葉である「口の霊」によって、反キリストと神のすべての敵を焼き尽くします（Ⅱテサロニケ 2:8）。
- 反キリストは、『...生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれ...』、1000年間拘束されます（黙示録 19:20）。
- 1000年の千年王国が終わると、反キリストは解放され、地上の不従順な者たちを集めて、神の御計画を阻止するために最後の必死の試みをするでしょう。彼は打ち負かされるでしょう。そして、最後の審判が行われ、キリストに信仰を置いた人々に永遠の報いが与えられます（黙示録 20:7-15）。

ハルマゲドンとゴク・マゴグの戦い

ハルマゲドンという言葉は、聖書の中で最もよく知られています（そして最も理解されていません）。ハルマゲドンという言葉は、黙示録に描かれている戦いを指すとする説と、1000年の間に起こる2つ以上の戦いを指すとする説があります。また、ハルマゲドンは戦闘を指すのではなく、地理的な場所を指すと主張する人もいます。ハルマゲドンを地理的な場所と考える人は、谷間と考える人と、山間部での戦いだと考える人の二つのグループに分かれます。また、ハルマゲドンの戦いが詩篇 83 篇とイザヤ書 17 章に述べられている紛争と関連している（同じである）と指摘する人もいれば、ハルマゲドンの戦いをエゼキエル書 38、39 章に述べられている戦闘（ゴク・マゴグ戦いとも呼ばれる）と関連づける人もいます。この章では、預言的聖句に記されている重要な戦いを概観し、これらの戦いがハルマゲドンの戦いとどのように関連するのかを説明します。

なぜそれが重要なのか？

サタンは混乱、疑い、そして分裂を好みます。真理を知らない人は偽りの教えに弱く、預言が悪い教師の預言通りに展開しないと、簡単に落胆してしまいます（2014年5月、2015年10月、2017年9月にイエス・キリストが帰ってこられなかった場合がそうでした）。キリストを信じる者は、キリストの教えを知り、「真理のこトバを正しく扱う」ことができなければなりません（Ⅱテモテ 2:15b）。

おもな規定：ここ数十年の間に、聖書を寓話的なものとして捉えようとする動きが出てきました。聖書は、一般的に肯定的な指針を与えることはあっても、神からの生きた靈感に満ちたメッセージではないので、文字通りに解釈することはできないとする人が多くなっています。聖書を解釈するための多くの誤ったアプローチは、この腐敗した見解から生じているのです。この重要なテーマを研究し、この記事を書くにあたり、私は歴史的キリスト教会の保守的指導者たちが確立した最も一般的な解釈学的実践（聖書の解釈を支配する手順）に従いました。これらの指針は以下の通りです。

- 聖書は正確であり、真実であり、靈感によるものであると信じていること。
- 黙示録とエゼキエル書の主要な預言部分は、年代順に書かれていることを信じていること。
- 聖書の預言は具体的であり、預言が成就したと見なされるためには、預言のすべての詳細が成就されなければならないと信じていること。[例えば、6つの国がイスラエルを攻撃するという預言があったとして、4つの国だけが攻撃した場合、その預言はまだ成就していないと見なされる]。
- 細部に違いがあっても、著者が同じ出来事を描写している可能性を否定するものではないと信じていること。[例えば、福音書を書いた人たちは、十字架の後の日曜日に起こった出来事を記録するときに、かなり異なった詳細を示しました]。

重要な用語：聖書の預言が将来起こると記していることを理解するには、聖書の重要な用語を理解することから始まります。これらは以下の通りです。

- ハルマゲドン。この言葉は、新約聖書に一度だけ登場し（黙示録 16:16）、キリストの再臨と千年王国の開始の前の最後の（そして決定的な）戦いの場所を指しています。この戦いは、7年間の艱難時代を締めくくるものです。この戦いの間に、反キリストと偽預言者の軍隊は、イエス・キリストによって打ち破られるのです。反キリストと偽預言者は裁かれ、火の穴に投げ込まれ、キリストはその後に千年王国を開始されます。
- 千年王国：キリストがイザヤ書 9章 7節の預言の成就として新天新地を支配する文字通りの 1000 年の期間です。キリストの王国と支配は、平和と義によって特徴づけられます。
- 聖徒、艱難時代の殉教者、艱難時代を生き抜いた信者がその民となります。この重要な主題に関する追加情報については、このリンク先のビデオの教えをご覧ください。 <https://vimeo.com/260667687>（英語版のみ）
- ゴグ・マゴグの戦い：一般的に、これはイスラエルに対して動く巨大な悪の軍勢を指します。この戦争の聖書のおもな参照点はエゼキエル書 38、39 章ですが、ゴグとマゴグという用語は黙示録 20 章でも参照されています。
- エラム：イラン南西部（ペルシャ）を指す古代語。

- ゴグとマゴグ：創世記 10 章では、ゴグが個人（ノアの子孫）として言及されています。その地はマゴグであり、ゴグはまた、指導者を意味する称号として理解することができます。つまり、ゴグはマゴグの住民の指導者です。

明らかなこと：いくつかの預言的な聖句の解釈に関して議論がありますが、大多数の聖書学者は以下のことに同意しています。

- 詩篇 83 篇の戦争は、ハルマゲドンの戦いでもなく、ゴグ・マゴグの戦いでもない。イスラエルを攻撃する国や民族の名前、戦いの範囲、戦いでイスラエルがどのように勝利するか、戦いの余波は、ハルマゲドンの戦い（黙示録 16-19）やゴグ・マゴグの戦い（エゼキエル 38、39）とは著しく異なっているのです。
- 詩篇 83 篇の戦争は、ダマスコの破壊（イザヤ 17）とイスラエルの国境や支配範囲の拡大（エゼキエル 23、エレミア 49、イザヤ 19）に関連していると思われます。
- ハルマゲドンの戦いは、黙示録 16 章から 19 章に描かれています。
- エゼキエル書の終末論的プロフィールは、未来のイスラエルについて年代順に説明されています。36 章の預言はイスラエルの再生を約束し、37 章の預言はイスラエルの回復を記し、38、39 章の預言は回復したイスラエルに対する侵略を記しています。そして 40 章は、イスラエルにおけるキリストの千年王国を預言しています。
- 聖書は、ゴグとマゴグが関与する 2 つの戦いがあることを記しています。最初のゴグ・マゴグの戦いの時期については推測がありますが、事実上すべての保守的な学者は、この戦いがエゼキエル書 38、39 章に示されており、千年王国より先に起こるという点で一致しています。第二のゴグ・マゴグの戦いは、キリストの千年王国の終わりに起こります（黙示録 20:1-10）。

絶対的に明確でないこと：優れた聖書学者も、戦争に関する以下の点では意見が一致していません。

- 詩篇 83 篇の戦争の預言がすでに成就されたかどうか。ほとんどの人は、詩篇 83 篇の戦争はまだ未来のことだと信じていますが、一部の著名な教師は、詩篇 83 篇の預言は 1948 年に起こったイスラエルの戦いで成就された、あるいは、詩篇 83 篇の預言は 1948 年、1949 年、1967 年、1973 年に起こった紛争で、段階的に成就されたと主張しています。この見解を支持する人々 ダマスコの破壊に関するイザヤ書 17 章の預言は差し迫っているが、詩篇 83 篇の預言の成就とは何年か別に起こる可能性があると考えます。
- エゼキエル書 38、39 章のゴグマゴグ戦争が、黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いと同じかどうかです。以下は、この二つの争いを比較分析したものです。

ハルマゲドンの戦いとエゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いは同じものであると考える人がいる理由。

- どちらの戦いも神が介入して勝利をもたらしています（詩篇 83 篇の戦争で、神の祝福を受けたイスラエル軍が勝利を確保したのとは異なります）。
- エゼキエル書 38 章 19 節から 22 節の神の怒りの描写は、黙示録 16 章で紹介されているハルマゲドンの戦いに関連する出来事に似ています。どちらの箇所でも、神は地震と疫病を送り、空から火と雹を降らせて、イスラエルを助けています。
- 黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いは、キリストの千年王国支配の直前であり、エゼキエル書の終末論的年表とよく一致しています。36 章ではイスラエルの地を新しくする約束があり、37 章ではイスラエルが国家として回復し、38-39 章ではイスラエルが攻撃されるが超自然的に保護されて、40 章ではキリストの千年王国支配が開始されるのです。
- エゼキエル書 39 章 17 節から 20 節と黙示録 19 章 17-20 節を比較すると、戦争の直後は似ています。
- エゼキエル書 38 章と黙示録 20 章には、ゴグとマゴグが登場します。
- 歴史的には、ゴグ・マゴグの戦いをハルマゲドンと同一視している人が多いようです。
- エゼキエル書 38 章に登場する、すべての山を平らにする壊滅的な地震は 黙示録 16 章のハルマゲドンの戦いで起こると預言された地震と非常によく似ています。

黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いとエゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いは、なぜ別の戦いだと考える人がいる理由。

- ハルマゲドンの戦いには、ゴグ・マゴグの戦いよりも多くの国が関与しているように見えます。
- エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いでは、死者を葬るのに 7 ヶ月かかり、イスラエルは 7 年間、敵の武器を燃料として利用します。黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いではこのようなことは書かれておらず、黙示録 16 章から 19 章の戦いは艱難時代の終わりに起こるので、死者を数カ月かけて埋葬したり、敵の武器を 7 年間燃料として使うことを認める解釈はありえないという意見もあります。注：そのような活動は艱難時代の終わりをはるかに超えて行われ、イエス様が超自然的に刷新された地を支配し、キリストの千年王国と呼ばれる時代に神の民を養うことと相容れないと思われるため、そのように主張するのです。
- 神がゴグ・マゴグの戦いでイスラエルに勝利をもたらされた目的は、イスラエルを悔い改めさせ、すべての人が主を認めるようにするためです。ハルマゲドンの戦いで神がイスラエルに勝利をもたらすのは、反キリストの支配の恐怖からクリスチャンを解放するためです。
- マタイ 24 章や黙示録 12 章では、反キリストの怒りから逃れる者は丘に逃げ込みます（マルコ 13:14 でイエス様が勧めた行動）。しかし、ゴグ・マゴグの戦いは山で起こる（山は神が超自然的な地震で平らにする）。このことから、このエゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いは、艱難時代の中盤より前に起こると思われます。

- エゼキエル書 38、39 章ゴグ・マゴグの戦いで、イスラエルに進攻する軍隊のリーダーの名前はゴグで、ヘブライ語では、その名前の数値は 12 です。ハルマゲドンの戦いでは、イスラエルに進撃する軍のリーダーは獣で、その名前の数値は 666 です。
- エゼキエル書 38、39 章では、戦いはイスラエルの山中で行われ、エルサレムには影響がないようです。黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いでは、敵軍は谷で打ち破られ（ヨエル 3：2）、イスラエルに血の川が流れます（黙示録 14：20）。
- エゼキエル書 38、39 章ゴグ・マゴグの戦いは、イスラエルが平和と安全を享受している時に起こります（エゼキエル 38:11 『...彼らは城壁もなく住んでいる。...』）。黙示録 16 章から 19 章ハルマゲドンの戦いは、艱難時代の終わりに起こります。その時、反キリストはイスラエルを圧迫し滅ぼすと脅しています。
- ゴグ・マゴグの戦いの目的は「戦利品を奪うこと」であり、ハルマゲドンの目的はイスラエルを完全に破壊することです。
- ゴグ・マゴグの戦いは、北から軍隊が進撃してきます。ハルマゲドンの戦いでは、敵は地上のあらゆるところからイスラエルに対して進撃してきます。
- ハルマゲドンの戦いの終わりに、イエス・キリストがオリーブ山に立ちますが、エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いでは、神の存在が現れるという記述はありません。

上記に関する予想される質問に対する回答

(斜体フォント参照)

- ハルマゲドンの戦いには、ゴグ・マゴグの戦いよりも多くの国が関与しているように見えます。エゼキエル書 38 章には、敵国の一部リスト（交戦の主要人物や指導者のみに言及）が示されている可能性があり、ハルマゲドンの戦いに関連する「全世界のすべての国」の節は、多くの国が攻撃に関与することを意味する一般論である可能性もあります。どちらの箇所も、ゴグ・マゴグの戦いがハルマゲドンの戦いと同じであるという見解に賛成または反対する決定的な証拠にはなりません。
- エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いでは、死者を葬るのに 7 ヶ月かかり、イスラエルは 7 年間、敵の武器を燃料として使用します。黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いでは、このようなことは書かれておらず、黙示録 16 章から 19 章の戦いは艱難時代の終わりに起こるので、死者を数カ月かけて埋葬したり、敵の武器を 7 年間燃料として使用することは許されないという解釈もあるようです。ゴグ・マゴグの戦いでは死者は埋葬され、ハルマゲドンの戦いでは死者は神の力によって蒸発するか、鳥や野生動物に食べ尽くされます。死者に関する違い、そして、ゴグ・マゴグの戦いの後、イスラエルが 7 年間戦争武器を燃料として使用するという事実は、ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いが二つの別々の戦いであるという見方を裏付ける有力な証拠となります。
- エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いで神がイスラエルに勝利をもたらされた目的は、イスラエルに悔い改めさせ、すべての人が主を認めるように

するためです。ハルマゲドンの戦いで神がイスラエルに勝利をもたらす目的は、反キリストの支配の恐怖から信徒を解放するためです。繰り返しますが、これらの相違は、ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いが二つの独立した戦いであることを裏付ける合理的な証拠となるのです。

- マタイ 24 章と黙示録 12 章では、反キリストの怒りから逃れた人々は丘に逃げ込む（マルコ 13:14 でイエス様が勧めた動き）。しかし、ゴグ・マゴグの戦いは山で起こる（山は神が超自然的な地震で平らにする）。このことから、エゼキエル 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いは、艱難時代の中頃の前に起こると思われます。ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いの場所に関する言及は一般的なもので、これらが二つの異なる戦いであることの決定的な証拠にはなりません。ハルマゲドンがエホシャファテの谷で行われなければならないと主張する人々は、その交戦が何百万人もの兵士を巻き込み、兵士と装備がその地域全体を占拠する可能性が高いことを忘れてはなりません。また、ハルマゲドンという言葉は、メギドの丘（山）または "集会の山" を意味します。
- エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いでは、イスラエルに進攻する軍のリーダーの名前はゴグで、ヘブライ語では彼の名前の数値は 12 です。ハルマゲドンの戦いでは、イスラエルに進攻する軍隊のリーダーは獣で、その名前の数値は 666 です。指導者の名前の数字の違い以上に、主要な指導者の言及の仕方の違いは、ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いが二つの独立した戦いであることを裏付ける合理的な証拠です。
- エゼキエル書 38、39 章では、戦いはイスラエルの山中で行われ、エルサレムには影響がないようです。黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いでは、敵軍は谷で打ち破られ（ヨエル 3:2）、血の川がイスラエルを流れます（黙示録 14:20）。繰り返しますが、ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いの場所に関する言及（と「血の川」に関する詳細の記載）は、これらが二つの異なる戦いであるという決定的な証拠にはならないのです。
- エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグ戦の戦いは、イスラエルが平和と安全を享受している時に起こります（「彼らは城壁もなく住んでいる。」エゼキエル書 38:11）。黙示録 16 章から 19 章のハルマゲドンの戦いは、反キリストがイスラエルを圧迫し、破壊しようとする時に起こります（一部のヘブル人は安全のためにペトラの山（黙示録 12:6）に逃げ込みました）。ヘブライ語訳では、「安全」という言葉は「確信」と理解することができます。つまり、戦争の脅威があっても（現在もそうですが）、イスラエルは自分たちに対する脅威を阻止する軍事力に自信を持っているので、平和であり、安全であると感じることができるのです。これは、イスラエルが平和で安全に暮らせるのは詩篇 83 編戦争と国境拡張の後か、反キリストと和平協定を結んだ後だと教える人々に対する主要な反論です（ダニエル 9:27）。
- ゴグ・マゴグの戦いに関与する軍隊の目的は「戦利品を得る」ことであり、ハルマゲドンの目的はイスラエルを完全に破壊することです。このような動機の違いは、ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いが二つの異なる戦いであることを裏付ける有力な証拠です。
- ゴグ・マゴグの戦いでは、軍隊が北からイスラエルに進撃します。ハルマゲドンの戦いでは、敵は地の隅々からイスラエルに向かいます。攻撃の方向に関する

る表記の違いは、ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いが別の戦いであることの決定的な証拠にはなりません。「北から」というのは、単に主要な指導者の拠点の位置、前進の主要な方向（しかし、それだけではない）、または地の四隅からの軍隊が集まって前進を始める方向を指している可能性があります。

- ハルマゲドンの戦いの最後には、イエス・キリストが現れ、オリーブ山に立つが、エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いでは神の存在が現れるという記述はありません。エゼキエル書はキリストの誕生以前に書かれたものですが、これらの戦いの終結に関する区別は、ゴグ・マゴグの戦いとハルマゲドンの戦いが二つの独立した戦いであるという見解を支持する有力な証拠となるに十分なものです。

妥当な結論

- 詩篇 83 篇の戦争の預言は、歴史のこの時点で部分的に成就される可能性があります。すべての詩篇 83 篇の預言が完全に成就されたわけではないと思われます。詩篇 83 篇で特定された 10 の国や民族集団は、預言されたように協調してイスラエルを攻撃しておらず、詩篇 83 篇の戦争の結果、これらの国々が「恥に満たされ、あなたの名を求める」（詩篇 83：16-18）と述べたことはまだ実現されていないと論じることができます。
- ダマスコの破壊に関するイザヤ書 17 章の預言は、おそらく詩篇 83 篇の戦争と関連している（あるいはその直後に起こる）でしょう。イスラエルの国境拡張は、おそらく預言された詩篇 83 篇とイザヤ書 17 章の衝突の完全な成就と関連し（あるいはその直後に）行われるでしょう（エゼキエル 23、エレミア 49、イザヤ 19）。
- イスラエルの国境が拡大することは、エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いまたはハルマゲドンの戦いでイスラエルを攻撃する国家連合に、イスラエル周辺の国々が含まれていない理由を説明するものでしょう（エゼキエル 23、エレミア 49、イザヤ 19）。
- エゼキエル書 38、39 章のゴグ・マゴグの戦いはハルマゲドンの戦いとは異なり、山の中で起こるので（後に神の民が避難する場所）、その戦いは艱難の中盤以前に起こる可能性が高いです。
- ゴグとマゴグという言葉に関連する二つの戦争があります。一つはエゼキエル書 38、39 章に書かれている戦争で、もう一つは黙示録 20 章に書かれている戦争で、イエス・キリストの千年王国時代の終わりに行われます。

予想される時間軸／出来事の順序

（注：以下に記すいくつかの預言が同時に成就する可能性があります。）

- 詩篇 83 篇の戦争預言が完全に成就する。
- ダマスコが破壊される（イザヤ 17）。
- イスラエルの国境が拡大する（エゼキエル 23、エレミア 49、イザヤ 19）
- エラム（イラン南西部）はイスラエルを脅かしますが、イスラエルの先制攻撃によって滅ぼされます（エレミア 49:34-39）。

- ロシア（ロッシュ／ロスまたはゴグ）は、イスラエルに対する侵略を指揮し、北から進攻します（エゼキエル 38-39）。
- 反キリストは、エルサレムの新しい神殿に立ち、自分自身が神であると宣言します（Ⅱテサロニケ 2:4）。
- 反キリストは、ハルマゲドンの戦いで、世界中の軍隊を率いてエルサレムを攻撃します（黙示録 16-19）。
- ハルマゲドンの戦いは、イエス様がオリーブ山に現れ、語られた御言葉の力によってすべての敵軍を打ち負かす時に終結します（黙示録 19:17-21）。反キリストと偽預言者は捕らえられ、縛られ、硫黄の燃える池に投げ込まれます（黙示録 19:20）。
- ハルマゲドンの戦いの後、キリストの千年王国が始まります。1000 年後、サタンは解放され、神の支配に対する最後の絶望的な戦いを指揮します。サタンは軍を集め、ゴグとマゴグという言葉に関連した第二の戦争でエルサレムを攻撃しようとし（黙示録 20:7-10）。サタンとサタンに従う者はすべて打ち破られます。そして、最後の審判と信者のための永遠の報酬が来ます（黙示録 20:11-15）。

この教えの核心となる真理は何でしょうか？

- この文書に記されている多くの預言は、急速に、あるいは同時に成就する可能性があります。世界の出来事は急速に変化します。現在の同盟関係が壊れることもあれば、かつての友が一夜にして激しい敵になることもあり得ます。特定の預言が成就するために、政治情勢が変化するのに何ヶ月も何年もかかると予測するのは賢明ではありません。
- 携挙は、艱難（イスラエルとその敵との間の平和条約の調印によって始まる）の開始より、数日、数週間、あるいは数年先行する可能性があります。
- 反キリストは、イスラエルとその敵の間の平和条約締結を主導します。
- 詩篇 83 篇の預言は成就したかもしれないが、ダマスコの破壊に関するイザヤ書 17 章の預言や、イスラエルの国境拡大に関する複数の預言はまだ未来です。これらの戦いは、反キリストがイスラエルとその敵との間に和平協定を結ぶための舞台となるかもしれません。
- エゼキエル書 38-39 章が始まる前にイスラエルが享受していた平和と安全に関する預言は、すでに成就しているかもしれません（平和と安全が軍事力に対する信頼と理解されるならば）。しかし、エゼキエル書 38、39 章ゴグ・マゴグ戦争預言のその側面は、ゴグ・マゴグ戦争が予告されたように展開するために成就する必要のあるいくつかの要素の一つに過ぎません。
- すべての戦いにおいて、神はイスラエルと共に立ち、聖書の完全性が証明され、主はそのすべての不思議さが、御子イエス・キリストを通して、人々を神との個人的な関係に引き寄せることを望まれておられるのです。

黙示録の中の邪惡な存在

聖書の預言によると、終末の日にはいくつかの邪惡な存在が現れると記されています。これらの存在は、単に惡の象徴ではなく、サタンが自分の計画を推進するために活動する惡の個人、システムや政府です。サタンは「自分の時間が短い」（黙示録 12:12）ことを知っているのです。これらの存在は、さまざまな意味で惡を擬人化し、サタンの怒りを表現しているのです。これらの邪惡な存在が誰であるか、何であるか、そして何をするように預言されているかについてもっと知るために読み進めてください。

邪惡な存在その 1 - 反キリスト

[反キリスト](#)は、ヨハネの黙示録の主要な登場人物の一人です。彼は、惡を擬人化した存在です。彼の性質、属性、目標については、前の章で詳しく説明しました。

邪惡な存在その 2 - 獸

獸の正体については、さまざまな意見があります。聖書には、「獸(a Beast)」と「獸(the Beast)」が登場します。ダニエル書 7 章の獸(a Beast)は、邪惡なシステムや政府に関連しているように見えます。黙示録 13 章の獸(the Beast)は、個人であるように思われます。獸の特定を難しくしている節がいくつかありますが、獸に関する聖書のすべての記述を検討した学者の多くは、獸の属性と反キリストの属性の間に高い相関関係があると見ており、したがって獸を反キリストと同定しています。両者を区別するよう見える節は、サタンの計画や性質の異なる側面を語っているに過ぎません。たとえば、艱難時代の社会経済システムは、惡質で邪惡であるため、獸(a Beast)と呼ばれています。しかし、この世界的なシステムを支配するのは、獸(the Beast)です。彼が治めるシステムの属性が、獸の性質を表しています。彼が統治する世界的なシステムは、彼の広大な權威を示すものです。このシステムの獸の属性は、このシステムの根底にある邪惡な力を証明するものです。獸に関連するしるしと不思議は、超自然的なものを指し示し、その計画は彼を惡靈と結びつけ、その属性は反キリストのそれを反映し、彼を反キリストと一体化させています。反キリストとサタンの間に共生関係があるように、獸と反キリストの間にも共通のアイデンティティがあるように思われます。黙示録 13 章では、獸のシステムと獸の働きについて言及されています。

『私は、別の獸が地から登ってくるのを見た。それは、子羊の角に似た二本の角を持ち、龍が語るように語っていた。また、大きなしるしを行い、人々の前で、火を天から地に火を降らせることさえした。そのしるしによって...地の住む者たちを惑わし...また獸は、すべての者に、すなわち、小さい者にも大きい者にも、富んでいる者にも貧しい者にも、自由人にも奴隷にも、その右の手あるいは額に刻印を受けさせた。また、その刻印を持っている者以外は、だれも物売り買いできないようにした。刻印とは、あ

の獣の名、またはその名が表す数字である。ここに、知恵が必要である。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。それは人間を表す数字であるから。その数字は六百六十六である。』（黙示録 13：11-18）

邪悪な存在その 3 - 偽預言者

偽預言者は、上記の獣のように、謎めいた存在です。彼の働きは、黙示録 13、16、19 章に特に言及されています。黙示録 20 章には、最後に彼が裁かれて火の池に投げ込まれることが記されています。

サタンは、神のものを模倣します（Ⅱコリント 11:14-15）。艱難時代は、サタンはエルサレムに新しい神殿を建て、反キリストと偽預言者を通して世界に自分を崇拜させ、反キリストと偽預言者と共に擬似三位一体化を作り出します。獣／反キリストの主な働きは、政治、社会、経済システムを支配することですが、偽預言者の主な働きは、腐敗した宗教システム（神とその御子イエス・キリストを認めることから世界を遠ざけるよう意図されている）を導くことです。偽預言者は、説得する言葉を話し、大衆を欺くためにしるしと不思議を現す力を持つようになります。偽預言者は、サタンと反キリストを称えるための世界的な宗教を指導します。同盟を拒否する多くの人々は、殉教者として死にます（黙示録 14:9-12、20:4-6）。

邪悪な存在その 4 - 獣に乗る女

黙示録には、「ミステリーバビロン」「バビロンの大淫婦」「大淫婦」「獣に乗る女」と呼ばれる謎の悪の存在が登場します。黙示録 17 章にはこうあります。

『（1 節）また、七つの鉢を持つ七人の御使いの一人が来て、私に語りかけた。『ここに来なさい。大水の上に座している大淫婦に対するさばきを見せましょう。（2 節）地の王たちは、この女と淫らなことを行い、地に住む人々は、この女の淫行のぶどう酒に酔いました。』（3 節）... 私は、一人の女が緋色の獣に乗っているのを見た。その獣は神を冒瀆する名で満ちていて、七つの頭と十本の角を持っていた。（4 節）その女は紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠で身を飾り、忌まわしいものと、自らの淫行の汚れで満ちた金の杯を手を持っていた。（5 節）その額には、意味の秘められた名、「大バビロン、淫婦たちと地上の忌まわしいものの母」という名が記されていた。（6 節）私は、この女が聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見て、非常に驚いた。（7 節）すると、御使いは私に言った。「なぜ驚くのですか。私は、この女の秘められた意味...秘められた意味をあなたに話しましょう。（8 節）あなたが見た獣は、昔はいたが、今はいません。やがて底知れぬ所から上って来ますが、滅びることになります。地に住む者たちで、世界の基が据えられたときからのちの書に名が書き記されていない者たちは、その獣

が昔はいたが今はおらず、やがて現れるのを見て驚くでしょう。（9 節）ここに、知恵のある考え方が必要です。七つの頭とは、この女が座している七つの山で、それは七人の王たちのことです。（10 節）五人はすでに倒れましたが、一人は今いて、もう一人はまだ来ていません。彼が来れば、しばらくとどまるはずです。（11 節）また、昔はいたが今はいないあの獣は八番目の王ですが、七人のうちの一人でもあり、滅びることになります。（12 節）あなたが見た十本の角は十人の王たちです。彼らはまだ王権を受けていませんが、獣とともに、一時だけ王としての権威を受けます。...（14 節）彼らは子羊に戦いを挑みますが、子羊は彼らに打ち勝ちます。...（15 節）また、御使いは私に言った。「あなたが見た水、淫婦が座しているところは、もろもろの民族、群衆、国民、言語です。（16 節）あなたが見た十本の角と獣は、やがて淫婦を憎み、はぎ取って裸にし、その肉を食らって火で焼き尽くすことになります。（17 節）それは、神のことが成る時まで、神はみこころが実現するように王たちの心を動かし、...。（18 節）あなたが見たあの女は、地の王たちを支配する大きな都のことです。」「

獣に乗る女について聖書が明らかにすること

旧約聖書と新約聖書は、この邪悪な存在について言及しています。この女は「謎」と呼ばれていますが、それはこの国や体制がまだ将来のものであり、聖書に記されている他の帝国や国家とは全く異なるものであるからです。彼女は、自分が愛していると主張する神に対して不誠実であるため、「淫婦」と呼ばれています。また、古代バビロンの異教的な哲学や習慣の多くを受け入れていることから、「バビロンの娘」とも呼ばれています。この「獣に乗る女」を表す多くの表現が、彼女が象徴する国家やシステムの正体を知る手がかりとなります。以下に示すのは、多くの人々-とりわけ筆者-にとって、この「獣に乗る女」が[預言の中のアメリカ合衆国](#)と関連していることを示す預言的な記述句です。

- 彼女はその建築、建物、地平線で有名である（イザヤ書 13:22）。
- 彼女は唯一、あるいは最新の注目すべき世界権力者です（イザヤ 47:5,8）。
- 彼女は世界から尊敬され、うらやましがられ、同時に世界から嫌われています（イザヤ 18:2）。
- 彼女はユニークで驚くべき始まりを持っています（イザヤ 18:2）。
- 彼女は「国々の中の女王」です（イザヤ 47:5,7; 黙示録 17-18; イザヤ 13:6）。
- 彼女は貴婦人と呼ばれます（イザヤ 47:7-9）。
- 彼女は大河に囲まれた土地です（イザヤ 18:2）。
- 彼女は汚染と廃棄物で、その土地を破壊します（イザヤ 14:20、18:2,7）。
- 彼女は民主主義で、多くの議員によって支配されています（イザヤ 47:13）。
- 彼女の政府制度は崩壊します（イザヤ 47:13）。
- 彼女は宗教的な混乱で知られています（イザヤ 47:12-13）。

- 彼女は処女国家であり、その土地は侵略者によって汚されることはありません（イザヤ 47:1）。
- 彼女の敵は世界の反対側にいます（イザヤ 13:5）。
- その国民は、自分たちが神に選ばれ、選ばれた者であると思っています（イザヤ 47:7-8）。
- 彼女は主の前で不注意に行動します（イザヤ 47:8）。
- 彼女は高慢で、傲慢で、自分の終わりを考えません（イザヤ 47:7-8）。
- 彼女は、終末の国の中で、最も若く、最も偉大な国です（エレミヤ 50:12）。
- 彼女は最も強力な国です（イザヤ 47、エレミヤ 50、51、黙示録 18）。
- その軍隊の強さは、彼女を「全地のハンマー」にします。（エレミヤ 50:23、黙示録 18:23）。
- 彼女は鉱物（エレミヤ 51:13）と農業に恵まれた土地（エレミヤ 50:16, 26-27、黙示録 18）、主要な輸出入国です。（エレミヤ 51:13,51、黙示録 18）。
- 彼女は「多くの水」の上に座っています（エレミヤ 51:13）。
- 彼女は自分の遺産に背を向けます（エレミヤ 50:11-12）。
- その指導者たちは、彼らの群れを迷わせます（エレミヤ 50:6、黙示録 18:2）。
- 彼女には、死ぬまで残る母なる国があります（エレミヤ 50:12）。
- その母は、獅子の象徴を持っています（ダニエル 7:4、エゼキエル 38:13、エレミヤ 51:38、詩篇 17:12）。
- 彼女は自分の民に敵対する（エレミヤ 50:7,33;51:35,39、ダニエル 7:25、黙示録 13:7; 17:6; 18:24）。
- 彼女は、一年中、多くの船を経由して貿易をします（黙示録 18:17-18）。

預言者エレミヤ（エレミヤ 50-51）や使徒ヨハネ（黙示録 17 章）は、"獣に乗る女"の運命に注目している。

要約

将来の重要な出来事の時期や、将来の重要な個人や団体の正体は不明ですが、善と悪の壮大な戦いにおいて、神が勝利されることは確かです。キリストに従えば、キリストの勝利にあずかることができるのです。

『神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。』（I コリント 15:57-58）

千年王国とそこにいる人たち

キリストの千年王国とは何か、誰が千年王国に入るのか？

千年王国とキリストの千年王国支配は、聖書の中で 2000 回以上言及されています。多くの人は、黙示録 20 章を、聖書の中で千年王国について言及された唯一のもの（とまでは言わないが）と見なしています。しかし、旧約聖書には、新約聖書よりも多くの千年王国に関する記述があるのです。旧約聖書には 1800 以上の千年王国に関する記述があり、新約聖書には 300 以上の記述があると学者たちは指摘しています。新約聖書の 85% の書物が千年王国について言及しています。千年王国とキリストの千年王国支配は、地上とキリストを信じる者たちの未来に関わるテーマです。この記事では、この著名な聖書の主題について、有益で励みになる聖書的概観を提供することを目指します。

キリストの千年王国支配に関する身近な言及：

千年王国については、多くの身近な聖句で言及されています。その中には、以下のようなものがあります：

- イエスは、「主の祈り」の中で、千年王国について言及されています：『天にまします我らの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。御国を来らせたまえ、御心が天にあるように地にもなさせたまえ。』（マタイ 6:9-10 文語訳）
- 預言者イザヤは、メシア預言の中で千年王国に言及しました：『ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。』（イザヤ 9:6-7）
- 預言者ダニエルは、未来の王国のビジョンの中で、千年王国を予見し、こう書いています：「それらの王たちの時代に、天の神は決して滅びることのない、また他の民に委ねることのない王国を打ち立てるだろう。それは、それらの王国をすべて打ち砕き、終焉させるが、それ自身は永遠に存続するのである。」（ダニエル 2:1-44）

千年王国に関する記述は、旧約聖書と新約聖書の中に数多く存在します。以下に、千年王国に関する文献の一部をカテゴリー別に紹介します：

千年王国はどのようなものですか。
（千年王国説によると）

サタンはもはや地上や神に愛された者を抑圧することはありません。

- 『また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に封印をした。その後、竜はしばらくの間、解き放たれることになる。』（黙示録 20:1-3）

地上は修復され、新しく生まれ変わります。

- 『見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のことは思い出されず、心に上ることもない。』（イザヤ 65:17-25）
- イエス様は王として支配される（イザヤ 2:4; 42:1）。
- 世界は平和になる（イザヤ 11:6-9; 32:18）。
- イエス様は王として、また正しい裁判官として仕えられます。『主は多くの民族の間をさばき、遠く離れた強い国々に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。』（ミカ 4:3）。
- サタンは縛られる（黙示録 20:1-3）。すべての住民が自由に神を礼拝するようになる（イザヤ 2:2-3）。

地上は平和になります

- 『見よ、その時代が来る。——主のことは——そのとき、わたしはダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この地に公正と義を行う。彼の時代にユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。『主は私たちの義』。それが、彼の呼ばれる名である。』（エレミヤ 23:5-6）

艱難を生き抜いた信者は、新しい地上に住むことになります。艱難時代の殉教者や現在天国にいる信者がそれに加わります。

- イエス様は、愛のうちに、「鉄の棒」をもって支配されます（詩篇 2:9; 黙示録 2:27; 12:5; 19:15）。艱難時代の信者は、特別な栄誉を受ける（マタイ 25:23、ルカ 19:16-19）。
- 艱難時代から生き残った信者は、キリストの地上統治の間、新しく生まれ変わった死すべき体で生きる（ゼカリヤ 14:16-21; 黙示録 20:7-10）。長寿が当たり前になるのです。
- 現在、キリストと共に天にいる信者は、この王国でキリストと共に支配することになります（ダニエル 7:18）。
 - 『...あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。』（黙示録 5:9-10）

- これらの信者は、王国を所有するようになります。
(ダニエル 7:18-27)
- このような信者は、キリストを王として導くのです。(ヨブ 36:7)
- このような信者は、裁判官、役員、指導者として仕えます。
(詩篇 149; イザヤ 60:17)
 - このような信者は、真理を教えます。
(詩篇 37:29-31; エレミヤ 3:15)
 - 『...彼らは神とキリストの祭司となり、キリストとともに千年の間、王として治める。』(黙示録 20:6)

イスラエルの国境が拡大します。

注：これは艱難に至るまでの（あるいは艱難の初期の）戦争の結果として起こる可能性があります。

- 土地の契約（申命記 30:1-10）。
ヨシュアと王たちの時代、イスラエルは神がアブラハムに約束された土地の一部を要求しました。しかし、イスラエルは創世記 15 章と民数記 34 章 1-12 で神が約束された土地のすべてを所有したことはありません。これらの約束について考えてみましょう。
- 「その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。『あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで...』(創世記 15:18-21)
- 預言者エゼキエルはイスラエルに念を押した。『神である主はこう言われる。
「あなたがたがイスラエルの十二の部族に、この地を相続地として与えるときの境界は、次のとおりである。ヨセフには二つ分を与える。あなたがたは、それを等分に割り当てなければならない。それは、わたしがかつて、あなたがたの父祖たちに与えると誓約したものである。この地は相続地としてあなたがたのものである。その地の境界線は次のとおりである。北側は、大海からヘテロンの道を経て、レボ・ハマテ、ツェダデ、ベロタ、および、ダマスコの領土とハマテの領土の間にあるシブライム、さらに、ハウランの領土に面したハツェル・ハ・ティコンに至る。こうして、境界線は海から始まり、ダマスコの境界のハツアル・エナンに至り、北は北の方へ、ハマテの境界にまで至る。これが北側である。』(エゼキエル 47:13-17)
- 預言者エゼキエルを通して、神はさらに約束されます。『東側は、ハウランとダマスコの間と、ギルアデとイスラエルの地の間のヨルダン川が、東の海を経てタマルに至るまでの境界線である。これが東側である。南側は、タマルから南に向かって、メリバテ・カデシュの泉とエジプト川に至り、大海に至るまでである。これが南側である。西側は、大海が境界となり、レボ・ハマテに面した地点にまで至る。これが西側である。あなたがたは、この地をイスラエルの部族ごとに割り当てなければならない。』(エゼキエル 47:18-21)
- モーセを通して神は約束されます。『たとえ、あなたが天の果てに追いやられていても、あなたの神、主はそこからあなたを集め、そこからあなたを連れ戻される。あなたの神、主はあなたの先祖が所有していた地にあなたを導き入れ、あな

たはそれを所有する。主はあなたを幸せにし、先祖たちよりもその数を増やされる。... 』（申命記 30:4-6）。

エルサレムには新しい神殿ができます。

- 『エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。』（ゼカリヤ 14:16）

契約の成就

- 上記のように（創世記 15:18-21）、イスラエルの土地と将来に関する神の契約は、キリストの千年王国支配の間に実現されます。
- ダビデとの契約は、彼の相続人がどのように御座に着き、イスラエルを統治するかということが中心でした（Ⅱサムエル 7:16）。イエス様はこの契約の成就者です（そのため、イエス様の系図は継父（マタイ 1:1-17）と母（ルカ 3:23-38）の両方を通して記録されています）。ユダヤ人たちは、イエス様がエルサレムに来られたとき、ヤシの枝と羽織を敷いて、この契約を認めました（マタイ 21:1-17）。しかし、彼らはイエス様がローマ帝国からイスラエルを解放する軍事的、政治的指導者であると誤って期待していました。彼らは、2000 年前にイエス様がダビデの契約を成就するのではなく、新しい契約を結ぶ準備をしていたことを理解していなかった。そのダビデの契約は、キリストの地上での支配の間に満たされるのです（黙示録 20:4,6）。

エレミヤとエゼキエルを通して紹介された神の契約

- 預言者エレミヤは、述べています。『これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——主のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。』（エレミヤ 31:33）
 - 預言者エゼキエルは、さらに詳細を述べています。『あなたがたは、わたしがあなたがたの先祖に与えた地に住み、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。』（エゼキエル 36:28）

地上での生活が変わる

- 長寿になる：『そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命を全うしない老人もいない。百歳で死ぬ者は若かったとされを ... 彼らは家を建てて...ぶどう畑を作って、その実を食べる... 』（イザヤ 65:20-22）
- 従順な動物たち：『...狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ、蛇はちりを食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼすこともない。——主は言われる。』（イザヤ 65:24-25）
- 平和的共存：『狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜がともにいて、小さな子どもがこれを追って行く。雌牛と熊は草

をはみ、その子たちはともに伏し、獅子も牛のように藁を食う。乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子は、まむしの巣に手を伸ばす。わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼさない。主を知ることが、海をおおう水のように地に満ちるからである。』(イザヤ 11:6-9)

- 戦争がなくなる：『...彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。』(ミカ 4:3)。イザヤ書 2 章 4 節も同じような箇所です。そこでは、もはや戦争がないだけでなく、武器もなく、戦法も教えられないと預言者は記しています。

地上の地理・地質が変わる

- 『...わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のことは思い出されず、心に上ることもない。見よ、わたしはエルサレムを喜びとして創る。だから、わたしが創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし...そこではもう、泣き声も叫び声も聞かれない。』(イザヤ書 65:17-19)
- 大地震がエルサレムを三つに分割する(黙示録 16:18-19)。地震は、イエス様がオリーブ山に足をつけられた時に起こります。大地震の後、都から水が流れ出ます(ゼカリヤ 14:4-8)。千年王国時代の新しい神殿は、この川の上に建てられます(エゼキエル 47:1-12)。
- エルサレムは、千年王国時代には、地上で目立つ高台となります(イザヤ 2:2)。イエス様の再臨の時の大地震は、山を平らにし、島を消滅させます(黙示録 16:20; イザヤ 40:4-5)。
- 新しい生ける水の泉ができる。『その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。』(ゼカリヤ 13:1)。ゼカリヤ書 14 章 8 節は、その水がどこに流れるかを記しています。『その日には、エルサレムからいのちの水が流れ出る。その半分は東の海に、残りの半分は西の海に向かい、夏にも冬にも、それは流れる。』生ける水はエルサレムから二方向に流れ出し、西は大海(地中海)へ、東は死海(塩の海)へ向かう。エゼキエル書 47 章 1 節から 7 節も参照してください。
- この新しい泉は、死海に影響を与える。死海には出口がなく、海の 7 倍もの塩分濃度があります。現在、死海には魚は生息していません。しかし、エゼキエル書 47 章 8 節から 11 節には、死海の水が癒されることが記されています。『彼は私に言った。『この水は東の地域に流れて行き、アラバに下って海に入る。海に注ぎ込まれると、その水は良くなる。この川が流れていくどこでも...非常に多くの魚がいるようになる...』』

キリストの千年王国時代の礼拝：

- エルサレムは礼拝の中心地となる：『エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムに上って来ない氏族の上には、雨が降らない。...』(ゼカリヤ 14:16-19)

○ エゼキエル書 40 章から 48 章には、神が千年王国において神殿礼拝といけにえを再び導入されると記されています。多くの人は、これらのいけにえの目的は、キリストのいけにえのわざを記念するためであると信じています...それは、キリストが私たちの罪のために十字架上で死なれて支払われた刑罰を、はっきりと描写して厳粛に思い起こさせるものとなるのです。

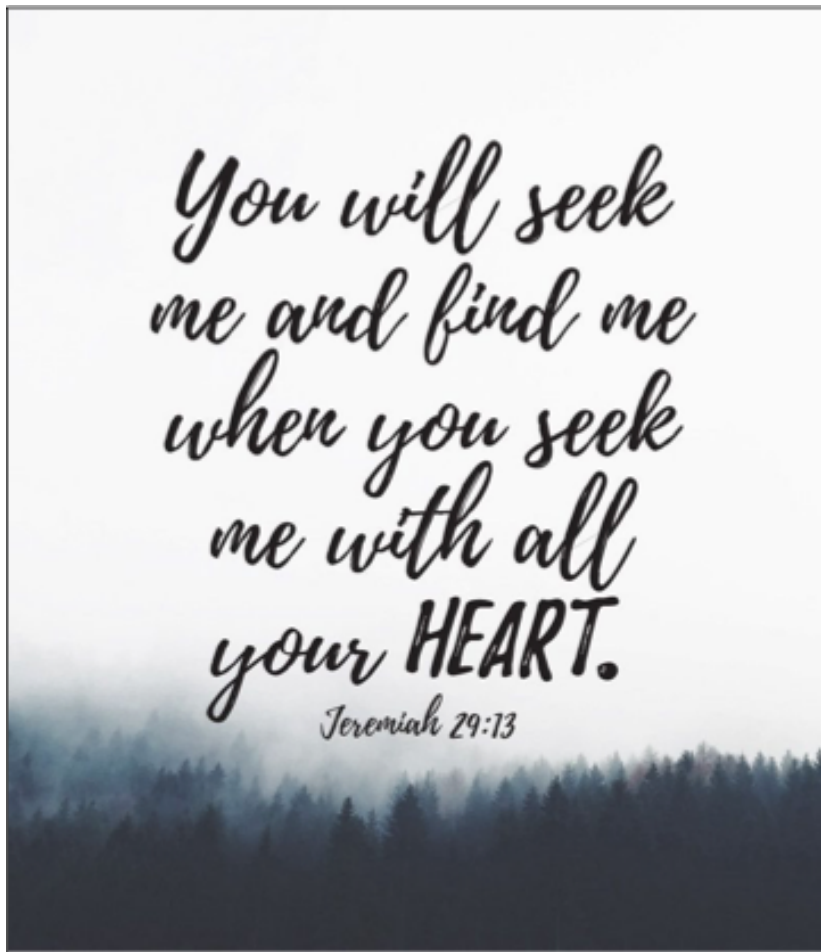
- ・ 『ところがむしろ、これらのいけにえによって罪が年ごとに思い出されるのです。雄牛と雄やぎの血は罪を除くことができないからです。』
(ヘブル 10:3-4)
- ・ 異邦人は、（以前はイスラエルだけの祭りだった）仮庵の祭りを守るようになります。そのために、秋にエルサレムへ行き、「王を礼拝する」のです。エゼキエル書 43 章 7 節にこう記されています。そして彼は私に言った、『その声は私に言われた。「人の子よ。ここはわたしの玉座のある場所、... わたしが永遠にイスラエルの子らの中で住む場所である。...」』
- ・ キリストの千年王国時代には、エジプトからのイスラエルの救出が焦点ではなく、むしろ、キリストが世界中の子どもたちをどのように救われたかが焦点となるので、仮庵の祭りは少し違った意味を持つようになるかもしれない。預言者エレミヤはこう記している。『それゆえ、見よ、その時代が来る——主のことば——。そのとき、もはや人々は「イスラエルの子らをエジプトの地から連れ上った主は生きておられる」と言うことはなく、ただ「イスラエルの子らを、北の地から、彼らが散らされたすべての地方から上らせた主は生きておられる」と言うようになる。わたしは彼らの先祖に与えた彼らの土地に彼らを帰らせる。』
(エレミヤ 16:14-15)。

キリストの千年王国時代の後に何が起こるのか？

- 戦争と最後の審判：『しかし、千年が終わると、サタンはその牢から解き放たれ、地の四方にいる諸国の民を、すなわちゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海の砂のようである。彼らは地の広いところに上って行き、聖徒たちの陣営と、愛された都を包囲した。すると天から火が下って来て、彼らを焼き尽くした。彼らを惑わした悪魔は火と硫黄の池に投げ込まれた。そこには獣も偽預言者もいる。彼らは昼も夜も、世々限りなく苦しみを受ける。』（黙示録 20:7-10)
- 聖徒の大いなる裁きと報い：『また私は、大きな白い御座と、そこに着いておられる方を見た。地と天はその御前から逃げ去り、跡形もなくなった。また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。海はそこにいる死者を出した。死とよみも、そこにいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。これが、すなわち火の池が、第二の死である。いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。』（黙示録 20:11-15)

要約：

将来の出来事の時期や範囲を知ることは不可能かもしれませんが、最終的には善が悪に打ち勝ち、イエス様が勝利のために支配されることは分かります。イエス様に人生を捧げた者は、イエス様の勝利を分かち合うことができます（I コリント 15:57）。そのときまで、不安はあります。戦争や戦争のうわさ、そして "試練" が起こるでしょう。あなたは準備ができていますか？あなたは神のために「オール・イン」（神に仕え、神の中で成長し、神のために証しすることを人生の優先事項とすること）になることを誓いますか？神は、信者が善い行いに積極的になることを期待しておられます（ガラテヤ 6：9）。励みにしてください。正しいことを、正しい方法で、正しい時に、正しい場所で、正しい心で行おうと努力する人には、大きな報いが待っています。



『あなたがたがわたしを捜し求めるとき、
心を尽くしてわたしを求めらば、
わたしを見つける。』

エレミア書 29：13

神様の御心の見極め方

神の御心を知る - 神の御心を見分け、それに従う方法について聖書は述べています。

指針となる聖句：「神」『私は あなたが行く道で あなたを教え あなたを諭そう。 あなたに目を留め 助言を与えよう。』（詩篇 32:8）

神の御心を見分けることは、容易なことではありません。ジョーンズさんにはうまくいったことが、スミスさんにはうまくいかないかもしれません。昨日、あなたのためにうまくいったことが、明日、あなたのためにうまくいかないかもしれません。神は不思議な方法で働かれ、さまざまな方法でコミュニケーションをとられます。この記事は、あなたの人生に対する神の導きを見分けるための助けとなるものです。

神の御心を知ることは、人生に平安と目的を見出すための鍵です。西洋文化は非常に定型的でマーケティング主導型なので、多くの人が、神の御心を見分けるプロセスはスローガンや定型文、レシピとして表現できるはずだと期待しています。しかし、そうではありません。神の御心を見分けることは、多くの変数と変化する定数を含んでいます。そのため、探究者は常に心を開き、神の促しと導きに委ね続けなければなりません。人は、「神が私を〇〇に召されているはずがない、それは今まで一度も行われたことがないからだ」とは決して言えません。あるいは、「過去に別の方法で〇〇をやって成功したから、神は私に〇〇をするようにと言われるはずがない。」神の御心を見分けることは、特定の感情を持ったり、特定の方式に従ったりすることではありません。それは、鋭い探求者を徐々に進むべき方向へと導いてくれる御霊の微妙な促しに敏感になることです。

この研究（そしてキリスト教）の基本的な真理は、真の平和と幸福は神の御心を満たすことによってのみ得られるということです。神の御心を実現するためには、まず神の御心が何であるかを知らなければならない。この記事では、神の御心を知る方法、神の導きとサタンの巧妙な欺きを見分ける方法、そして神の導きを検知するための一般的な障害を特定する（そしてそれを避ける）方法について、いくつかの洞察を記します。

神の御心を見分けることは、難しいことです。私たちは、以下のメモが、神の導きを見分け、神の祝福を受ける能力を成長させる助けとなることを祈っています。

神の御心を考えるときに考慮すべき5つのこと

クリスチャンは、門の開閉によって、神が自分の歩みを導いてくださることに目を向けるべきです。以下に、その根拠となる聖句をいくつか記します。

- 『フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデの鍵を持っている方、彼が開くと、だれも閉じることがなく、彼が閉じると、だれも開くことがない。その方がこう言われる——。』(黙示録 3:7)
- 『... 私たちのためにも祈ってください。神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。…』(コロサイ 4:3)
- 『それから彼らは(使徒たちは)、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フリュギア・ガラテヤの地方を通って行った。こうしてミシアの近くまで来たとき、ビティニアに進もうとしたが、イエスの御霊がそれを許されなかった。』(使徒 16:5-7)

神には御計画があり、その御計画を明らかにすることを望まれている

ですから、人は自分の計画に頼る必要はありませんし、主が導いてくださるかどうかではなく、主がどのように導いてくださるかを考える必要があるのです。以下の聖句を考えてみましょう。

- [神]『わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている』(エレミヤ 29:11a)
- 『心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。』(箴言 3:5-6)
- 『わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。』(ヨハネ 15:15)
- 『主は ご自分を恐れる者と親しく交わり その契約を彼らにお知らせになる。』(詩篇 25:14)
- 『主によって 人の歩みは確かにされる。…』(詩篇 37:23)
- [神]『私は あなたが行く道で あなたを教え あなたを諭そう。 あなたに目を留め 助言を与えよう。』(詩篇 32:8)
- 『イスラエルの聖なる方、あなたを贖う主はこう言われる。『わたしはあなたの神、主である。わたしはあなたに益になることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。』(イザヤ書 48:17)
- 『しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。』(ヨハネ 16:13)

神はさまざまな方法でご自分の計画を明らかにされる

- 夢・靈感 (ダニエル 10-12)
- 御言葉 (詩篇 119:1-16、105)

- 主を求めること（エレミア 29:13、士師記 18:5）
- 忠実な者の助言（箴言 11:14、15:22、19:20）
- 確認すること（士師記 6 章）

神様の導きを感じる妨げになるもの

- 罪（詩篇 36:1-4、イザヤ 57:17）
- 間違った動機（マタイ 15:8、ヤコブ 4:3、ローマ 12:1-2）
- 焦り（創世記 12-20）
- 限られた祈りの生活（イザヤ 65:1）
- 恐れ（ヨシュア 1:6、7、9、18）

神は主権者。あなたに対する神の御心、方法、目的、御計画は完璧です

神は、決して遅れることなく、忘れたり、ためらったりすることはありません。神の御計画は、私たちの夢を超えるものです。私たちは、神に信頼することができます。約束の宣言を振り返ってみましょう。「神、その道は完全。...」（Ⅱサムエル記 22:31）

要約

神の御心を見分けることは難しいかもしれませんが、平安と目的のある人生を送るためには不可欠なことです。課題は 2 つあります。私たちは神の御心を見分けることができなければなりませんし、神の導きを受け入れ、それに従う勇気を持たなければなりません。賢明な人々は、この 2 つの重要な領域で聖霊が助けてくださるよう日々祈っています。

助けは聖霊から得られます。聖書は、聖霊が力を与え（使徒 1:8）、知恵を与え（ヤコブ 1:5）、祈りを通して神と特別なつながりを持つようになると約束しています（ローマ 8:26）。

動機付けは、神の御計画を思い出すことから生まれます。1) 神はあなたを愛しておられ、あなたのために御計画を持っておられます。2) 神の御計画は良いものではなく、偉大なものです。3) 神の道は、最も簡単で、最も短く、最も快適で、最も便利なものではありません。大きな苦難は予想されるが、大きな報酬も予想される。

私たちの神は不思議なほど創造的です。神が不思議なほど創造的な方法で導いてくださることを期待しましょう。心を開きましょう。注意深くありましょう。祈りましょう。特に難しい問題や大きな問題について、あなたと一緒に祈り、神の導きを見分けるのを助けてくれるミニストリーに接続することです。忍耐強く、聖書の原則である「もしあなたが主を求めるなら、あなたは主を見いだすでしょう（エレミヤ 29:12-13）」を忘れないでください。

この記事の冒頭で述べたように、神の御心を見分けることは公式を守ることではありませんが、取らなければならない手順があります（上の段落では、そのいくつかを記しています）。神の御心を見分けるための最初のステップは、ご自分を『道であり、真理であり、いのちなのです』と言われた方と関係を持つことです（ヨハネ 14:6）。その御名はイエス・キリストです。主との関係に入るのは、人が罪を告白し、神に立ち返り、イエスを主、救い主として心に受け入れるときから始まります。その決断から、赦し、喜び、希望、天国での永遠の約束、そして聖霊の内在が生まれ、聖霊はとりわけ、信じる者に導き、平安、力、知恵、方向を与えてくださるのです。

神の御心に従うことは、祝福と永遠の報酬を保証しますが、楽な人生を保証するものではありません。あなたは、忠実であることが困難であっても、忍耐することができるほど強いのですか？あなたは[神のために全力を尽くすこと](#)を神に委ねますか？（つまり、神に仕え、神の中で成長し、神のために証することを人生の優先事項とすることを委ねますか？）偉大な信仰を持つ者には、偉大な報酬が待っていることを忘れないでください。

夢やビジョンが神からのものであるかどうかを見分ける方法

『その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ。』（ヨエル書 2:28-29）

夢や幻が神からの特別なコミュニケーションかどうか、どのように見分ければよいのでしょうか？ソーシャルメディアサイト、ネットニュースサイト、そして多くのインターネットベースのミニストリーは、神からビジョンや夢を受け取ったから神の代弁者であると主張しています。これは可能なことなのでしょうか？ある人たちは、神は聖書に登場する預言者たちを通してのみ（そしてこれからも）語られると教え、また、もし今日神が語られるとすれば、プロの聖職者たちを通して、つまり、大きな教会を率いる著名な牧師たちを通して語られると信じています。しかし、そのような推測は、ヨエルが「終わりの日には、神は夢と幻を、ありそうもない人々に、つまりプロの聖職者以外の人々に、老若男女に、そして金持ちにも貧しい人にも与える」と預言していることとあまり関連性がないのです。終末の日に神が警告し、導き、励ますための夢や幻を（ありもしない人々に）与えるというのが定説だとすれば、問題は、ある特定の幻や夢が神からのものかどうかを賢者はどのように判断するかということです。

ビジョンや夢が神からのものであるかどうかを判断するのに役立つ考えとガイドライン

重要な真理:

- 神は夢や幻を通して洞察を明らかにされ、またされるでしょう。以下の聖書の約束があります：『...わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にも、わたしの霊を注ぐ。...』（ヨエル 2：28-29）
- 聖書は、霊的な夢や幻を与えることが、「終わりの日」に特に顕著になることを指摘しています。「終わりの日」とは、ペンテコステから難難時代の終わりまでの期間です。「終わりの日」はまた、マタイ 24 章でイエスが「生みの苦しみ」と呼んだ短い期間も含まれます（4-14 節）。産みの苦しみとは、難難時代の開始直前のことです。この時期、神は多くの夢と幻を与えられると思われます。
- ある人は、上記のヨエル書 2 章の預言は、2000 年前の使徒の働き 2 章 1 節から 18 節で弟子たちが聖霊を受けたときに成就したと言いますが、そうではありません。使徒の働き 2 章は、ヨエル書 2 章の預言の成就の始まりの記録です。夢と幻は、難難時代の始まりに近づくにつれ、より頻繁に、より顕著に現れるようになるでしょう。

重要な警告：

- 偽キリストが現れる（マタイ 24:24）。
- 偽預言者が現れる（マタイ 7:15-20）。
- サタンは、幻を見せたり、幻を作り出したりすることができる（マタイ 4:8）。
- サタンは、「光の天使に化けて」惑わそうとする（Ⅱコリント 11:14）。
彼は偽りの父です（ヨハネ 8:44）。
- サタンは多くの人を欺くでしょう（黙示録 13:14、20:8）。
- 信者はサタンの性格に注意し、夢やビジョンが神からのものか敵からのものかを見分けることに特に気をつけなければなりません。

行動指針：

- 希少性は標準：「昨夜、主が私を訪ねてこう言われた...」で始まる YouTube 動画を 100 本もアップしている人は、極めて注意深く見る必要があります。
- 明確であること：過度に教授的な話し方、欽定訳聖書的な話し方、ギリシャ語やヘブライ語の混在、一般的ではない神学用語の多用などは、そのプレゼンテーションの内容を疑わせるものです。
- 神がプロの聖職者を通して（夢や幻を通して）語られることは、普通のことではありません。ヨエル書 2 章の預言は、「普通の人」に夢と幻を与えるという約束です。普通のクリスチャンが夢や幻を見ることが当たり前になります。
- ワクワクするような正確さが当たり前になるはずですが。ブロガーやユーチューバーが、「3、4ヶ月前に主から幻を見たのですが・・・」と始めるのは、懐疑的に見るべきでしょう。ビジョンを受けた人は、興奮し、感動し、待てと言われない限り、主から受けた夢やビジョンを熱心に、そして恍惚とした表情で共有することでしょう。

夢やビジョンが神から来たものであるかどうかを見分けるための指針的質問：

- そのメッセージは聖書的に正しいか？主からのメッセージは、神の書かれた御言葉と矛盾することはありません。
- メッセンジャーは、聖書に反することを約束していないか？ルルドやファティマで夢や幻を見た人がいますが、これらの幻はかなり驚くべきもので、もし人々がある祈りをしたり、特定の人（イエス様ではない）に祈ったりしたら、イスラエルに平和が訪れると約束しています。このような約束は、聖書の約束や預言に反しています。
- ビジョンは霊的な行動を活性化させるか、それとも恐れを促進させるか？聖書は絶えず、聞く人に行動を起こさせ、恐れを戒めます。次のようなことを話す人は、懐疑的に見てください。「主は、小惑星が地球に衝突して、東海岸の人々が皆死ぬというビジョンを私に与えられました。私はあなたに知ってほしかったのです。」

聖書のモデルに従ったビジョンや夢は、人々を励まし、特定の行動に導くものであるべきです。

- **メッセンジャーは、何が神からで、何が自分の意見であることを明確に記していますか？**多くのブロガーやYouTubeのビデオグラファーは、神から受け取ったと主張する夢の中に、自分の意見を組み込んでいます。彼らのプレゼンテーションは次のように始まるかもしれません。「主が私に下さった幻の中で、私は空から鷲が落ちてくるのを見ました...。それは、アメリカの経済が、この日までに破綻することを意味している...」。一般的に、夢を共有することは良いことです。主からの夢と明言するのは無謀です。

自分だけで解釈するのはおこがましい。ここは本当に主の導きに任せましょう。神が明確に解釈を示された場合のみ、その解釈を共有しましょう。もしかしたら、将来、主はあなたにビジョンを与えてくださるかもしれません。その場合、夢やビジョンは厳粛な霊的コミュニケーションであることを覚えておいてください。しかし、主が啓示されたことを過度に伝えたり、共有したり、解釈したりしないようにしましょう。

- **そのメッセンジャーは、正確さ、誠実さにおいて過去に実績があるか？**特に、過去にその「預言」が誤りであったことが示されている場合、正確な日付と預言を提供した経歴のある人物を注意深く見てください。聖書の預言者たちは100%正確でした。神は、ご自分が言おうとしていることについて、決して混乱されることはありません。
- **神は栄光を受けておられるのでしょうか？**ビジョンやプレゼンテーションの焦点は神ですか？それとも、夢やビジョンを語るとき、プレゼンターは自分自身や自分のミニストリー、あるいは新しい本について語ることが多いですか？
- **メッセンジャーは、預言的なビジョンがどのように起こるかについて、もっともらしい説明を求めていますか？**災害（洪水、地震など）のビジョンを持っていると主張する人が結構います。彼らはその経験を語るとき、そのような出来事が予言された地域で起こりうることを確認するために、地元の科学者、教授、専門家に相談したことを付け加えます。神は専門家です。神から正當に与えられた夢やビジョンは、そのテーマに関する地上の権威による検証を必要としません。もし神が夢や幻の中でそれを明らかにされたのなら、神はそれを実現させることがおできになるのです。
- **そのメッセージは、聖書的でない環境から出てくるのでしょうか？**神はどんな人にも、どんな場所でも、どんな時でも、どんなビジョンでも与えることができるのでしょうか？そうです。しかし、私たちはサタンが意図を持っていることを知っています。カルト的なソースから来る夢やビジョンは、常に疑わしいものです。

要約：

終わりの日に、神は御霊を注いでくださいます。それは確率ではありません-約束です。神はありそうもない人々に油を注ぎ、新しいエキサイティングな方法で装備されるでしょう。老若男女、富める者も貧しい者も、真理、洞察、警告、励ましを与えられます。信者はこのことを期待すべきですが、同時に、誤った教えにも注意しなければなりません。見張り番は、世の光となるように召されています。彼らは研究し、正しいことと間違っただけを見分け、誤りを（賢く、愛情をもって）指摘するのです。世の中で何が起きているのかに注意しましょう。ニュースを把握しましょう。預言的な出来事について、知的に話すことができるようになります。自分の証を強化するために努力しましょう。

真理を見分けることができるようになるための第一歩は、ご自分を『道であり、真理であり、いのちなのです。』（ヨハネ 14：6）と称されたイエス・キリストと関係を持つことです。本当の希望と平安は、罪人が自分の罪を告白し、神に立ち返り、イエス様を主、救い主として心に受け入れるときに訪れます。その決断から、赦し、喜び、希望、そして天国での永遠が約束されるのです。

水の浄化方法

水を浄化するには、簡単でシンプルな方法があります。以下に、一般的な浄水方法をいくつか挙げておきます。

沸騰させる

水を浄化する確実な方法です。ただし、沸騰させるには燃料を使い、時間もかかります。また、特に水源が乏しい場合は、水をろ過して固形物を取り除く必要があります。

ヨウ素溶液、錠剤、結晶を使用する

これは効果的でより便利な方法です。ヨウ素には、ウイルスや細菌を殺す作用があります。ヨウ素剤の錠剤は軽くて使いやすいです。ただし、処理した水を飲めるようになるまで30分ほどかかること、妊婦には適さないこと、ヨウ素処理した水には後味があることなどがあります。水筒のためのヒント：タブレットを水筒に落としたら、容器を振り、ボトルを逆さに持ち、蓋のネジを少し緩めて、ヨウ素がボトルキャップのネジ山に流れ込むようにします。

塩素系ドロップを使用する

塩素は、水中の細菌を死滅させる作用があります。また、軽くて手頃な価格で、簡単に手に入れることができます。処理した水を飲むには、30分ほど待つ必要があります。注意：少量ずつ使用すること。塩素の大量摂取は健康を害します。

浄水器を使用する

浄水器（一般的にカーボンを含む）は即効性があり、水中の細菌を除去でき、後味も残りませんが、ウイルスは除去できません。このオプションは、一般的にヨウ素や塩素の錠剤よりも機動性に欠け、価格も高くなります。注：一般的なカーボンフィルターは、数ガロンの水を処理した後に交換する必要があります。

紫外線を利用する

紫外線フィルターは、小さな懐中電灯のような形をしています。水の中で数分間振り回すだけで、有害な細菌を除去することができます。紫外線ライトは持ち運

びが簡単で、手軽に使えるのが魅力です。ただし、電池が必要で、水質の悪いところではうまく機能しません。

プレーン（無香料）漂白剤を使用する

水を沸騰させることができない場合は、家庭用漂白剤で水を消毒します。ラベルに記載されているように、消毒や除菌に適した通常は無香料の塩素系漂白剤のみを使用します。ラベルには、有効成分として次亜塩素酸ナトリウムが6%または8.25%含まれていると記載されている場合があります。香りつき、カラーセーフ、洗浄剤添加の漂白剤は使用しないでください。水が濁っている場合は、沈殿させ、きれいな布、ペーパータオル、コーヒーフィルターなどでろ過してください。

- 下の表を参考に、水に加えるべき漂白剤の量を決めてください。例えば、1 ガロン（約4 L）の水に対して、6%の漂白剤を8 滴、8.25%の漂白剤を6 滴、などです。水が濁っていたり、色がついていたり、とても冷たい場合は、漂白剤の量を2 倍にしてください。
- かき混ぜて30 分放置します。水はわずかに塩素臭がするはずです。臭いがしない場合は、もう一度同じ量を使い、さらに15 分放置してから使用してください。
- 塩素の味が強い場合は、清潔な容器から別の容器に水を注ぎ、数時間放置してから使用してください。

Volume of Water	Amount of 6% Bleach to Add*	Amount of 8.25% Bleach to Add*
1 quart/liter	2 drops	2 drops
1 gallon	8 drops	6 drops
2 gallons	16 drops (1/4 tsp)	12 drops (1/8 teaspoon)
4 gallons	1/3 teaspoon	1/4 teaspoon
8 gallons	2/3 teaspoon	1/2 teaspoon

園芸情報

自立した庭を作る

(リンクはフラッシュドライブのデジタルファイルをご覧ください。)

一般に信じられていることとは異なり、ガーデニングはお金のかかる事業ではありません。特に、自立したオーガニックな方法を使えば、土が生き返り、家族に新鮮な野菜が与えられるのです。そこで、自給自足の庭を作るための素晴らしい方法をいくつかご紹介しましょう。

"土を大切に、そして土があなたを守ってくれる" 長期的に生産的で成功する庭のためには、この言葉がすべてを物語っています。土は、庭でうまくいったりいかなかったりするもののすべての基礎であり、それを作るためにお金をかける必要はありません。

実は、3つの簡単な方法を実践することで、土に大きな活力と健康を与えることができるのです。

堆肥

1. 堆肥は、土に生命力と活力を与えてくれます！簡単に作れるだけでなく、タダで作ることができるのです！
2. 毎年春になると、植え穴にシャベルで一杯の堆肥を入れ、野菜が育つのに必要な栄養を与えます。また、雑草を抑えながら水分を保持するだけでなく、土と植物の根にしみ込む栄養分を植物に供給するため、植物の周りの良いマルチング材になります。秋には、十分な量の堆肥があれば、植え込みの列の上にさらに堆肥を敷いて、耕作したばかりの土に生命力を吹き込みましょう。新しく始める場合は、優れた堆肥スターターを使用して、堆肥の山を素晴らしい状態でスタートさせましょう。

マルチとカバークロップ（被覆作物）

1. 落葉、藁、コンポスト、刈った芝は良いマルチング材になります。これらは、雑草を抑制し、植物に栄養を与えるだけでなく、分解されることで、貴重な有機物を土壌に戻すことができる優れたマルチング材です。注：あなたは通常、地元の造園業者から、または秋の葉を拾って保存することによって、必要なすべての無料のマルチング材を得ることができます。
2. カバークロップは、秋に植えるか、春に簡単な緑肥として植え、裏返すと、夏の庭から土壌を補充するのに最適な方法となります。ライ麦、クローバー、アルファルファなどの一年草のカバークロップは、持続可能な庭の活力源です。種は非常に安価で（肥料1袋よりはるかに安い！）、雑草を防ぎ、土壌侵食を防ぎ、窒素を土壌に固定して植物に吸収させるなどの利点もあります。

水回収

雨水貯留システム



ご自宅や納屋に雨水貯留用の桶を設置することを検討してみてください。雨水は庭の水やりに最適で、自分で集めることで、庭のための新たな無料の資源となります。

タネをとっておく／自分で植物を育てる

毎年育てる植物については、種を保存して自分で育てることができれば、多額の費用をかける必要はほとんどありません。重要なのは、保存して何度でも植え替えが可能な開放受粉品種（しばしばエアルーム種と呼ばれる）を選ぶことです。

ニンニクやジャガイモのような作物は、毎年育てて土に植え直すほど、より強く、より生産的になる傾向があります。

新しい品種を育てるため、あるいは栽培を始めるために、毎年数パック購入しなければならないとしても、毎シーズン苗床で苗を購入するのに比べれば、安いものです。

自家製天然肥料とスプレー

有機栽培を実践していれば、害虫や土壌の肥沃度の問題はほとんどないでしょう。丈夫で健康な植物は、弱い種を捕食する害虫の被害にも強いのです。そしてもちろん、丈夫で健康であれば、肥料を与える必要はありません。

でも、どうしても庭で何かを使わなければならないときは、市販の代替品よりも健康的でずっと安価な方法があります。アブラムシなどの害虫が発生したら、唐辛子とニンニクで作った簡単で安全、かつ効果的な自家製虫除けスプレーを使いましょう。

肥料には、春先にコンポスト・ティーを使った簡単な溶液を野菜の苗にまいて、元気をつけてあげましょう。簡単に作れて、お金もかからず、栄養価も高く、素晴らしいスタートを切ることができます。

.....

家庭菜園 6つのポイント

- 1) 光 - ほとんどの野菜、特に実をつける野菜（トマト、キュウリ、カボチャ、ピーマンなど）には、太陽が必要で、しかも大量に。理想は、1日8時間以上直射日

光が当たる場所です。日照時間が短くても、主に葉物やハーブなどの食用植物を育てることは可能です。

- 2) **土壌** - 健康で豊かな土壌は、菜園を成功させ、生産性を高めるための鍵なので、このステップは飛ばさないようにしましょう。土壌検査では、現在の土壌の肥沃度と pH を知ることができ、どのような肥料や改良材を使えば、あなたの菜園をより良い状態にできるかを提案してくれます。私の畑では、自家製コンポスト、よく堆肥化された家畜の糞、そしてケルプミールやアルファルファミールなどの有機肥料に頼っています。
- 3) **最小限の規模に抑える** - 菜園は手入れが少なくて済みますが、手入れが不要というわけではありません。ですから、最初の 1、2 年は小さな区画で済ませるようにしましょう。4×8 フィート（畳 1.5 帖分）のベッドは、初めの菜園には理想的で、一握りの作物を栽培するのに十分なスペースがあります（次の点を参照）。さらに小規模で始めたい場合は、日当たりの良いデッキで、コンテナ用の野菜やハーブを鉢や窓際のプランターに植えてみてください。
- 4) **植物を選ぶ** - 初めての菜園では、何でも育てたくなるものです。でも、7～10 種類の野菜に絞ることをおすすめします。マルチシーズン・ガーデンでは、継ぎ足し植えて収穫量を増やすことができます。最初に作った野菜が収穫されたら、次に種を蒔きます。例えば、春のレタスに続き、夏の豆を植えます。継ぎ足し植えば、収穫期をできるだけ長くすることができます。
- 5) **（一部の）虫を招き入れる** - 信じられないかもしれませんが、ほとんどの虫はあなたの友達なのです！ハチ、チョウ、タテハチョウ、テントウムシなどなど！野菜やハーブの間に、スイートアリッサム、ジニア、コスモス、ヒマワリなど、昆虫にやさしい植物を植えましょう。これによって、良い虫を呼び寄せることは、受粉の助けとなります。
- 6) **水やり、除草、栄養補給** - これは最も当たり前の菜園術のひとつですが、菜園を始めたばかりの人は、いつ、どれくらいの水をやればいいのかわからないかもしれません。種をまいたばかりの野菜畑には頻繁に水をやる必要がありますが、ほとんどの野菜は週に 4～5 センチ程度の水量で十分なのです。水を節約し、灌漑の必要性を減らすには、藁や細かく砕いた葉を数インチ敷いて土をマルチングします。

副次的な効果として、マルチングは雑草を抑制する効果もあります。肥料については、大根やレタスなどの成長の早い作物は、栄養不足の土壌で栽培すれば、追肥をする必要はありません。しかし、トマト、冬カボチャ、ナスなどの長期栽培の野菜には、生育期間中に何度か肥料を与えるとよいでしょう。水溶性の有機肥料を時々与えることで、成長をサポートし、最大の収穫を促します。

ネイティブアメリカンのホメオパシー（代替医療）の実践

ネイティブアメリカンは、多くの植物に薬効があると信じていました。この章では、危機的な状況下で、多くの一般的な病気を緩和するために使用できる根、ベリー、花について紹介します。



ブラックベリー

チェロキーインディアンは、ブラックベリーを、胃の不調、免疫力の強化、癌の予防、消化の促進、心臓の機能改善など、ほとんど全ての治療に使いました。この部族は、ブラックベリーの根をお茶にして、関節や組織の腫れを癒しました。

また、その根を煎じ、メープルシロップやハチミツで甘くすると、咳止めに最適なシロップができあがります。また、ブラックベリーの葉を噛むと、歯茎の出血を和らげることができます。

ブラックベリーは、ビタミンA、C、B6、E、K、リボフラビン、チアミン、葉酸、そして鉄、カルシウム、マグネシウム、カリウム、亜鉛、リンなどのミネラルを豊富に含んでおり、驚くほど栄養価が高いのです。また、食物繊維や必須アミノ酸も豊富に含まれています。

チェロキーにとって、ブラックベリーは胃の不調に対する最も古い治療法として知られていますが、このハーブは何にでも使うことができます。ブラックベリーの根から抽出した濃いめのお茶を使うと、組織や関節の腫れを抑えることができます。

ブラックベリーの果実のその他の健康効果には、以下のようなものがあります。

- 消化促進
- 免疫システムの強化
- 心臓の健康的な働き
- 癌の予防
- 内皮機能不全の緩和

以下に、特に薬効が高いとされる 10 種類の植物・ハーブを紹介：



ハチドリの花 (Buck Brush)

ハチドリの実は、驚くほど美味しく、栄養価が高いです。ビタミン A、ビタミン B6、ビタミン C、ビタミン E、ビタミン K、チアミン、リボフラビン、ナイアシン、葉酸などのビタミン類が含まれています。

チェロキーインディアンは、この植物を子宮筋腫、嚢胞（ノウハウ）、口や喉のトラブル、炎症の治療に使いました。彼らは花と葉を熱湯に 5 分間入れ、熱いうちにお茶として飲みました。



クア・ロ・ガ (櫨 (ハゼノキ))

櫨の皮は、マイルドな煎じ薬にして、下痢を鎮めるために飲むことができます。また、樹皮の煎じ汁は、喉の痛みの時にうがいをする効果的です。熟した果実は、ビタミン C を豊富に含む心地よい飲み物になります。櫨の葉のお茶は、熱を下げます。葉をつぶして軟膏にすると、ウルシの発疹を和らげることができます。

イランの薬学研究ジャーナルに掲載された研究によると、櫨を毎日の食事に取り入れると、コレステロール値を下げる効果があると報告されています。この植物の各部分は薬効を持っているようです。



キャットテール

チェロキーインディアンは、この植物を消化の良い食べ物として、特に病気から回復した人に有用であると考えます。(種子の頭を除く)ほとんどの部分が薬用になります。根はジャガイモのように調理し、潰したり茹でたりして、腫れや火傷の治療に使用します。花の種子は、おむつかぶれや皮膚の炎症に使用できます。



ミント

ハーブの中でも人気の高いミントは、その抗酸化作用からお茶によく使われます。リン、マグネシウム、カリウム、ビタミンC、A、カルシウム、そして食物繊維を含んでいます。アメリカ先住民の多くは、この植物の葉をつぶして冷湿布や軟膏として使用したり、肌のかゆみを抑えるためにお風呂のお湯に葉を入れたりしていたそうです。



ミュレイン

胸のつかえや喘息を和らげるハーブ。ミュレインの葉や根を燃やした煙を吸い込むと、肺が落ち着く。この植物は、粘膜を和らげるのに非常に有効です。その抗炎症機能のために、それは刺激と痛みを伴う組織や関節を静める。ミュレインの花は、マイルドな鎮静剤として機能するお茶を準備するために使用されています。



ビッグストレッチ (ワイルドジンジャー)

この植物の根で作ったお茶は、消化を良くし、疝痛の症状に対処し、胃の不調を鎮めると言われています。この植物の根茎は、通常の生姜の代わりとして、お好みのレシピに使用することができます。



ジドウ・ユニジスディ (ワイルドローズ)

この植物の果実は、ビタミンCを多く含み、インフルエンザや風邪の治療薬として最適です。チェロキーインディアンは、腎臓と膀胱の機能を刺激するために、ワイルドローズのヒップからお茶を作りました。また、根から煎じ薬を作り、下痢を治療することも可能です。



リスのしっぽ（ヤロウ）

血液凝固作用で知られる植物の葉（生または砕いたもの）を傷口に当てると、過剰な出血を防ぐことができます。また、この植物の汁を湧水で割ると、腸の病気や胃の内出血を止めることができます。葉はお茶にして、消化を助け、腹部の機能を活性化させます。



カウイ・イユスディ（イエロードック）

チェロキーインディアンは、このハーブを料理によく使いました。ほうれん草によく似ていますが、長い根が地中深くから栄養を集めるので、より多くのミネラルとビタミンを含んでいます。



タンポポ

雑草の一種とされるタンポポですが、その根は長い間治療に使われてきた歴史があります。アレルギーの治療、コレステロール値の低下、胆汁の分泌促進、肝臓の解毒作用があると言われています。また、利尿作用もあり、特に妊娠中や更年期の女性には効果的です。

タンポポの根は、春、特に4月上旬が収穫の適期です。街中や幹線道路から離れた汚染されていない場所で収穫するようにしましょう。

葉はビタミンが豊富で、サラダに加えるとよい。茎は胃腸の調子を整え、胆嚢の働きを活発にし、代謝を調整し、血液を浄化します。茎は糖尿病の治療に、茎から出るミルクはイボの除去に使われます。

タンポポシロップのレシピ

黄色いタンポポの花を 400 個集め、3 リットルの水を注ぎます。次に、オレンジ 4 個とレモン 4 個をスライスに切り、加えます。24 時間放置します。

24 時間後に濾し、その液体を鍋に注ぎます。鍋に 2 カップの砂糖を入れ、30 分ほど煮ます。

沸騰して十分な濃さになったら、火からおろして、殺菌した瓶にシロップを移す。タンポポのシロップは、風邪や咳、気管支炎の治療に使用します。

タンポポ茶の作り方

葉をよく乾燥させ、刻んで細かくします。瓶に入れ、保存しておく。お茶を作るには、コップ一杯の水に小さじ半分の細かくした葉を入れる必要があります。とても簡単ですね！

もう一つの方法は、60 グラムの新鮮な細かくした葉と 30 グラムの乾燥したタンポポの根を混ぜることです。この混合物を、塩をひとつまみ入れた 2.5 オンス (75ml) の水と一緒に鍋に入れます。沸騰したら鍋に蓋をして、20 分ほど煮込みます。その後、液体を濾し、1 日 3 杯を目安に摂取してください。



Adult First Aid/CPR/AED

READY REFERENCE

成人救急/CPR/AED

参考資料: [日本赤十字社 HP](#)



心肺蘇生

反応(意識)の確認

(1) 反応(意識)の確認

大きな声をかけ、肩を軽くたたき、反応(意識)の有無を確認します。反応(意識)がない場合、あるいはその判断に迷う場合は、まず協力者を求め、119番通報とAEDの手配を依頼します。



呼吸の確認

(2) 呼吸の確認

傷病者が心停止を起こしているかを判断するために呼吸を確認します。

- ① 呼吸を確認するために、傷病者の胸部と腹部の動きの観察に集中する。このとき、呼吸を確認するのに10秒以上かけないようにする。
- ② 普段どおりの呼吸がない場合、あるいはその判断に迷う場合は、胸骨圧迫を開始する。



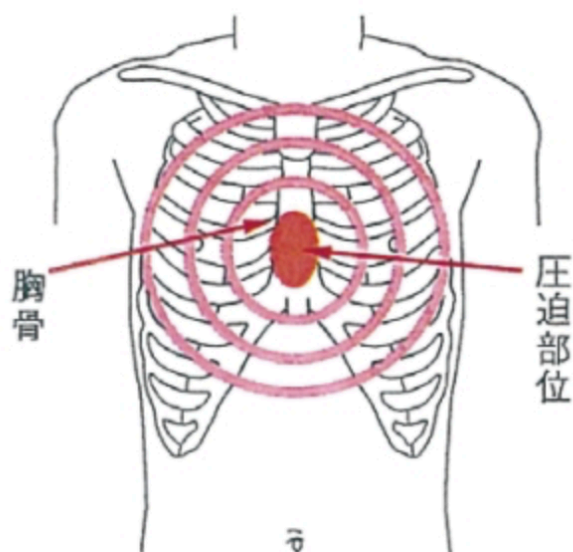
(3) 胸骨圧迫

心臓がけいれんしたり停止したりして血液を送り出せない場合に、心臓のポンプ機能を代行するために行います。

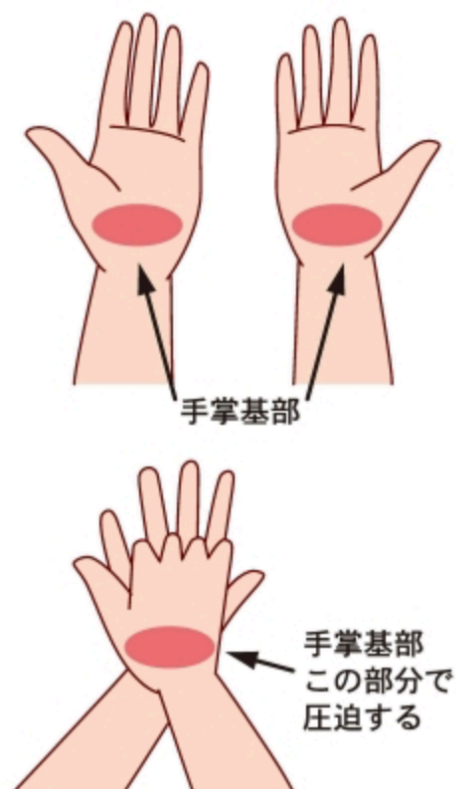
- ① 傷病者を固い床面に上向きで寝かせる。
- ② 救助者は傷病者の片側、胸のあたりに両膝をつき、傷病者の胸骨の下半分（目安は胸の真ん中）に片方の手の手掌基部しゅしょうきぶを置き、その上にもう一方の手を重ね、上に重ねた手の指で下の手の指を引き上げる。
- ③ 両肘を伸ばし、脊柱に向かって垂直に体重をかけて、胸骨を約5cm（成人の場合）沈み込む程度に圧迫する。
- ④ 手を胸骨から離さずに、速やかに力を緩めて元の高さに戻す。
- ⑤ 胸骨圧迫は1分間あたり100～120回のテンポで30回続けて行う。



圧迫部位



手掌基部

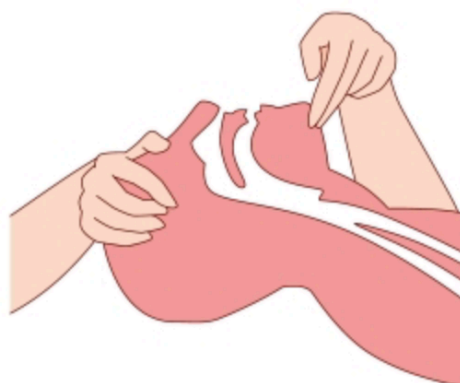


気道確保(頭部後屈あご先挙上法)

(4) 気道確保 (頭部後屈あご先挙上法)

一方の手を傷病者の額に、他方の手の人差し指と中指を下あごの先に当て、下あごを引き上げるようにして、額に置いた手で頭部を後方に傾けます。(頭部後屈あご先挙上法)

頸椎損傷が疑われる場合は、特に注意して静かに行います。



人工呼吸(呼気吹き込み法)

(5) 人工呼吸(呼気吹き込み法)

- ① 救助者は、気道を確保したまま、額に置いた手のおや指とひとさし指で傷病者の鼻をつまむ。
- ② 救助者は自分の口を大きく開けて、傷病者の口を覆う。
- ③ 約1秒かけて傷病者の胸が上がるのがわかる程度の吹き込みを行う。これを2回続けて行う。(1回吹き込んだらいったん口を離し換気させる)
- ④ 直ちに次の胸骨圧迫に移る。



※人工呼吸には特別な用具を必要としませんが、一方向弁付き呼気吹き込み用具などの使用が可能であれば、使用します。

胸骨圧迫と人工呼吸

(6) 胸骨圧迫と人工呼吸

心肺蘇生を効果的に行うために胸骨圧迫と人工呼吸を組み合わせて行います。

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返します。AEDを使用するとき以外は、心肺蘇生(特に胸骨圧迫)を中断なく続けることが大切です。人工呼吸をする技術または意思を持たない場合は、胸骨圧迫だけでも構いません。

乳児・小児に対する心肺蘇生

子どもに対する心肺蘇生は、基本的には成人の場合と同じですが、年齢によって体の大きさや体型が異なるために、多少手技の違いがあります。

また、子どもは大人に比べ、窒息や溺水など呼吸器系の障害によって起きる心停止の割合が多く、この場合は人工呼吸がより重要となります。

★注意事項

○胸骨圧迫

乳児は、2本指を立てて、小児は、片手または両手で、胸の厚さの約1/3沈み込む程度、押し下げる。圧迫のテンポは成人と同じ。

○気道確保

子どもの首は柔らかいので、後方に傾け過ぎないようにする。

○人工呼吸

肺容量が少ないので、吹き込む量の目安は、胸が上がるのがわかる程度にする。



(乳児の場合)



(小児の場合)

気道異物除去

気道異物の除去

のどに異物が詰まると、話しかけても返答ができないとか、のどをつかむような仕草をして、苦しい状態を示そうとします。傷病者が咳をすることが可能であれば、咳が最も効果的です。声が出ないか、十分に強い咳ができない場合は119番通報をしたうえで以下の手当を①②の順に試みます。



✓ ①背中をたたく

立っているか座っている場合

傷病者の頭をできるだけ低くし、胸を一方の手で支え、他方の手で左右肩甲骨の間を続けてたたきます。



寝ている場合

傷病者を横向きにし、胸と上腹部を救助者の大腿部で支え、左右肩甲骨の間を続けてたたきます。



小児・乳児の場合

基本的には成人の場合と同じ要領で行いますが、いずれも力を加減して行うことが大切です。

★小児の場合

素早く抱きかかえるか又は大腿部で支え、頭を低くして平手(手掌基部)で背中をたたきます。



★乳児の場合

救助者は、自分の手で乳児のあごを支え、前腕にのせて頭の方を下げ、もう一方の手の手掌基部で背中の中をたたきます。



✓ ②上腹部を圧迫する

立っているか座っている場合

傷病者を後ろから抱くような形で、上腹部（へそより少し上）に握りこぶしを当て、もう一方の手でその握りこぶしを上から握り、瞬間的に手前上方に突き上げます。



この方法は小児の場合も同じですが、乳児や妊婦には行いません。なお、行った場合は内臓を損傷している可能性があるので、窒息の状態がおさまっても必ず医師の診療を受けさせましょう。

✓ 胸部を圧迫する

★乳児の場合

乳児を仰向けにし、頭を下げ、後頭部と首（頸部）を支え、指2本で胸の真ん中（胸骨の下半分）を数回強く圧迫します。



これらの方法を行っている間に傷病者が反応（意識）を失ったときは、直ちに心肺蘇生（特に胸骨圧迫）を行います。

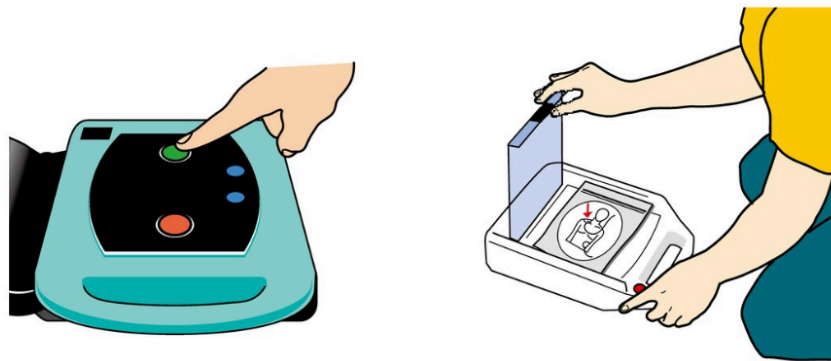
AED(自動体外式除細動器)を用いた電気ショック

突然の心停止は、心臓が細かく震えだす心室細動という不整脈によって生じることが多く、救命のためには、電気ショックによる「除細動」が必要となります。

心停止から電気ショックまでの時間が、救命の成否を決定する最も重要な因子となります。

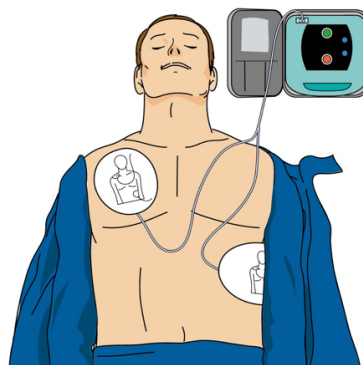
AEDは、自動的に心室細動の有無を解析し、電気ショックの要否を指示する機械であり、市民でも扱うことができます。

電源を入れる



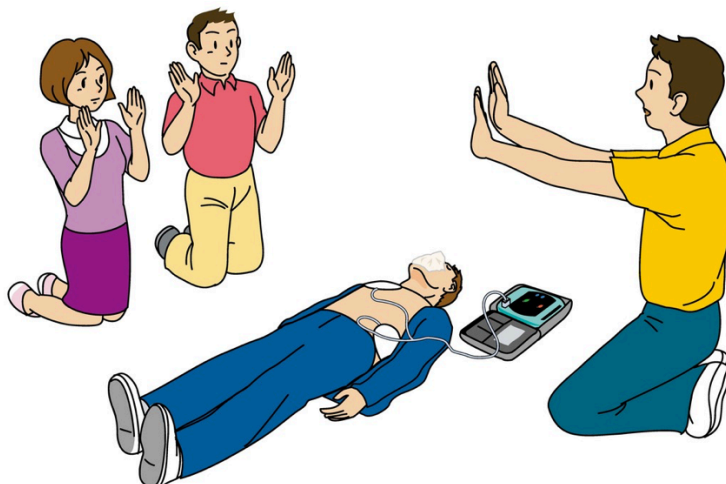
- ・AED本体のフタを開けて電源スイッチを押します。
- ・機種によってはAEDのフタを開けると自動的に電源が入るものもあります。
- ・その後は、音声メッセージに従って操作します。

電極パッドを貼り付ける



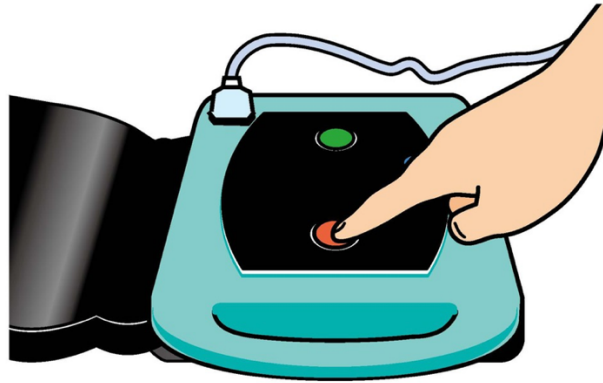
- ・傷病者の胸をはだけさせます。
- ・電極パッドを袋から取り出し、一枚を胸の右上（鎖骨の下で胸骨の上）、もう一枚を胸の左下側（わきの5cm～8cm下）に貼り付けます。
- ・コネクターをAED本体の（点滅している）差込口に入れます。機種によっては、コネクターが予め本体に接続されているものもあります。
- ・女性の胸を露出することはためらいがちですが、できる限り人目にさらさない配慮をしたうえで、電極パッドを適切な位置に貼り付けます。その際、ブラジャーなどの下着の上に貼ってはいけません。下着が邪魔になる場合は、下着を切るか、ずらして貼り付けます。

心電図の解析



- ・電極パッドを貼り付けると、傷病者から離れるようにとの音声メッセージが流れ、自動的に傷病者の心電図解析が始まるので、解析の妨げにならないように、周囲の者は傷病者から離れます。

電気ショックの実施



- ・心電図の自動解析の結果、電気ショックが必要な場合には、音声メッセージとともに、AEDは自動的に充電を開始します。
- ・連続音やショックボタンの点滅とともに電気ショックを実施するように音声メッセージが流れるので、「みんな離れてください」と大声で叫び、周囲を見回して、傷病者に誰も触れていないことを確認してからボタンを押します。

多量の出血

多量の出血－止血法－

大人の体には約4～5L(体重のおよそ8%)の血液があり、出血によって1L以上の血液が失われると生命に危険が及びます。

体が小さい子どもなどでは、それ以下でも危険です。

きずからの大出血は直ちに止血をしなければなりません。

止血の方法には、①直接圧迫止血法 ②止血帯止血法 があります。

直接圧迫止血法



出血しているきず口をガーゼやハンカチなどで直接強く押さえて、しばらく圧迫することで止血を行います。この方法が最も基本的な止血法であり、多くの出血は、この方法で止血できます。

まず直接圧迫止血法を行い、さらに医師の診療を受けるようにします。

※止血するとき、救助者はできる限りビニール手袋やビニール袋を使用し、感染予防に努めます。

止血帯止血法

出血が激しい場合など、直接圧迫止血法でも効果がない場合に、出血している上肢または下肢に対して帯状のもの（止血帯）を使用して止血する方法です。

この方法は、神経などを痛める危険性がありますので、

安全かつ適切に実施できるよう、手当について十分習熟しておく必要があります。

鼻出血

鼻出血の大部分は、鼻の入口に近い鼻中隔粘膜の細い血管が、

外傷（ひっかくことやぶつかることなど）や血圧、気圧の 変化などで腫れて出血します。



手当

- 座って軽く下を向き、鼻を強くつまみます。これで大部分は止まります。
- 額から鼻の部分をやや冷やし、ネクタイなどはゆるめ、静かに座らせておきます。
- ガーゼを切って軽く鼻孔に詰め、鼻を強くつまみます。
- 出血が止まっても、すぐに鼻をかんではいけません。
- このような手当で止まらない場合は、

もっと深い部分からの出血を考えて、医師の診療を受けさせます

※鼻出血の場合、頭を後ろにそらせると、温かい血液が喉に回り、苦しくなったり、飲み込んで気分を悪くすることがあるので、上を向かせないようにします。

※頭を打って鼻出血のある場合は、止めようとむやみに時間をかけるのではなく、手当とあわせて直ちに119番通報します。

包帯

保護ガーゼ(きずの覆い)

包帯をする前に、きずには、適当な大きさと厚みのある保護ガーゼを当てます。

保護ガーゼは、圧迫による出血防止(止血)、血液や分泌物の吸収、

きずの清潔保持(感染防止)、きずの安静による苦痛の軽減に効果があります。

包帯

包帯は、きずに当てた保護ガーゼの支持固定、副子の固定、手や腕を吊るために用います。

また、強く巻くことにより再出血を防ぐこともできます。

巻軸帯、弾性包帯、救急絆創膏、三角巾、ネット包帯など、いろいろ市販されていますが、目的にかなったものであれば何を用いてもかまいません。

例えば、顔面、頭部、あるいは曲げ伸ばしする関節部に保護ガーゼを固定するには、弾性包帯のほか、ストッキングを切ったものなども便利です。

三角巾

三角巾は、きずの大きさに応じて使用でき、広範囲のきずや関節を包帯したり、手や腕を吊るのに適しています。三角巾の使用方法を知っていると、ふろしき、スカーフ、シーツなどを応用することができます。

三角巾の使用例



1. 額、頭の周囲

三角巾を適当な幅にたたみ、患部に保護ガーゼを当て、その上を押さえます。端を、それぞれ後頭部に回して前に持ってきて、患部を避けたところで結びます。



2. 膝

三角巾を、膝を十分に覆うくらいの幅にたたみ、患部に当てた保護ガーゼの上を覆い、膝の後ろに回して交差させます。



3. 腕の吊り方

吊ろうとする腕の肘側に頂点を置き、健側（患部のある腕と反対側）の肩に底辺の一端をかけ、もう一方の端を、患側（患部のある腕）の肩に向かって折り上げ、他方の端と結びます。

熱傷（やけど）

熱傷の程度は、その広さ、深さ、場所によって決まります。

成人は体の表面積の20～30%以上、

乳幼児は10～15%以上にわたる広い範囲の熱傷を受けると重症です。

熱傷の程度

- 1度 皮膚の色が赤くなり、ひりひりする。
- 2度 腫れぼったく赤くなり、水ぶくれになり、痛みが強い。
- 3度 皮膚が黒く焦げていたり、蒼白になり、感覚がなくなる。

手当

- 1度、2度の熱傷で範囲が狭いときは、冷たい水や水道水で痛みが取れるまで冷やします。
- 水疱（水ぶくれ）ができているときは、水疱をつぶさないように、蛇口から勢いよく出ている：

蛇口から勢いよく出ている水道水などを直接熱傷部にあてることを避け、

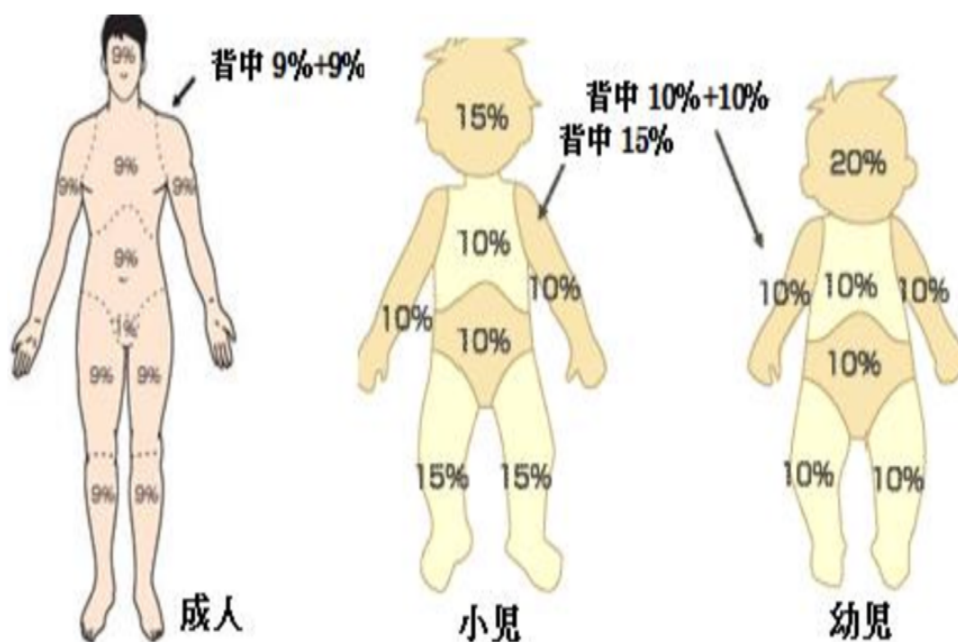
熱傷部を消毒した布か洗濯した布で覆い、その上から冷やしながら医療機関に搬送します。

- 熱傷部が衣類で覆われている場合は、無理に脱がさずそのままの状態ですぐ冷やします。

- 2度、3度の場合、冷たい水、水道水で冷やし、その後濡れたタオルなどで冷やします。
- 熱傷の範囲が広い場合、全体を冷却し続けることは、体温をひどく下げる危険性があるので、10分以上広範囲を冷却することは避けて手当します。

特に、子どもや高齢者では低体温に注意します。

- 意識がはっきりとしていて、吐き気がなく、医療機関まで時間がかかるようであれば、少しずつ水分を与えます。



動物にかまれた・蜂に刺された

咬創（動物にかまれたきず）に対する共通の手当

動物（ヒトも含む）の歯は不潔なので特殊な病気ばかりでなく、一般の感染にも注意する必要があります。

- どんなに小さなきずでも、石けんを使って水でよく洗います。

きずの周りも唾液がついているところはよく洗い流します。

- 清潔なガーゼを当てて包帯をします。
- 動物などによる咬創は化膿しやすく、動物が病気に感染していることもあるので、必ず医師の診療を受けるようにします。

イヌにかまれた

するどい歯でかまれると、深いきずや裂ききず(裂創)ができ、こどもがかみ殺された例もあります。

イヌにかまれると、すぐ狂犬病を心配しますが、現在、わが国では狂犬病の発生はありません。

しかし、狂犬病流行国を旅行中に感染したり、

流行国から短時間で航空機によって運ばれたペットから感染する危険があります。

狂犬病流行国などでイヌなどにかまれた事案があれば、

できるだけ早く医療機関でワクチンを接種するようにします。

狂犬病ウイルスは、必ずしもイヌばかりでなく、

ネコ、キツネ、オオカミ、スカンクなどによっても感染します。

注意事項

- 感染の危険があるので、必ず医師の診療を受けさせます。
- 飼い主のわからないイヌのときには、イヌの特徴などを保健所に届けて、捕獲してもらいます
(2週間イヌを隔離して観察します。狂犬ならば発病して死に至ることもあります)。

ネコにかまれた

ネコにひっかかれたり、かまれたりした数日から数週間後に、きず口の周囲に赤紫色の隆起、

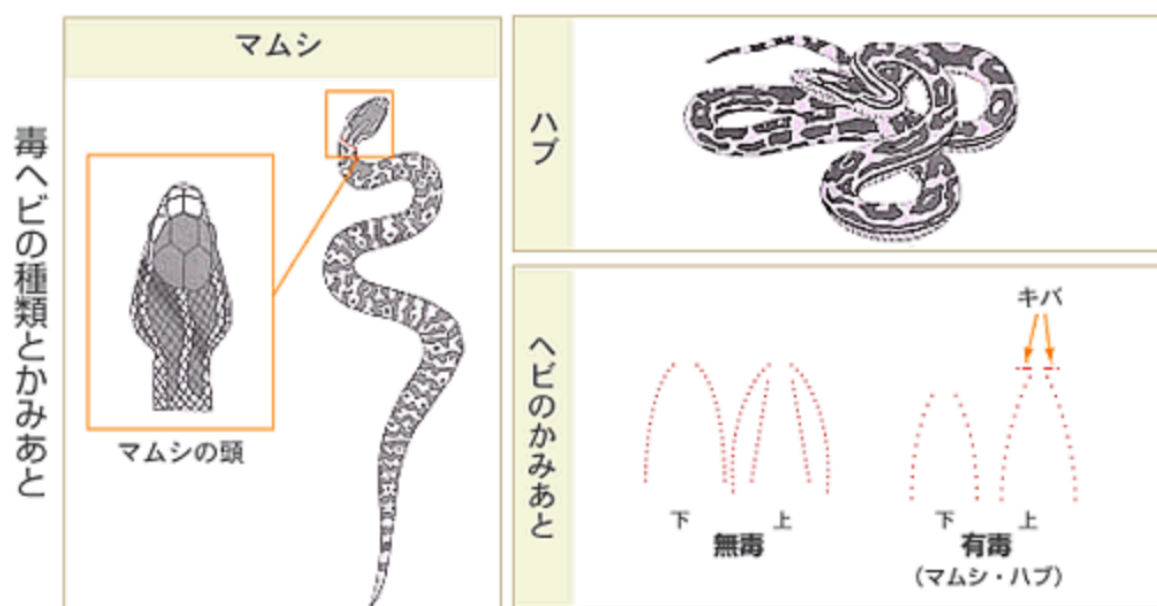
リンパ節の痛みや腫れ、発熱がみられることがあります。

これは、猫ひっかき病といって、特定の細菌がネコノミからネコ、人に感染する人畜共通感染症で、夏から初冬に多く発生します。

注意事項

- リンパ節の腫大や発熱は、他の病気でもみられる症状ですが、発熱が続くようなら、必ず医師の診療を受けるようにします。

ヘビにかまれた



普段から、無毒と有毒ヘビの見分け方を知っておくとよいのですが、とっさの場合、区別がつかないことが多いです。日本での毒ヘビは、マムシ（北海道から九州）、ハブ（沖縄、奄美諸島）、ヤマカガシ（本州、四国、九州など）です。

マムシやハブは、かまれると10分前後で口が腫れてきます。痛みが起こり、適切な応急手当をしないと全身状態が悪くなり死亡する危険があります。

ヤマカガシにかまれたときは、数時間くらいたった後で、きず口から出血し、歯茎や皮下、内臓、粘膜からも出血するのが特徴です。毒液が直接目に入ると失明することがあります。

野外活動やキャンプなどでかまれないようにするため、なるべく長ズボン、長袖、厚手の靴下、手袋をつけ皮膚を露出しないようにしましょう。

また、ヘビは湿った陽の当たらない場所を好むため、倒れた枯木、岩かげ、川や沼に近い草むらなど、じめじめしたところでの作業には特に注意が必要です。

手当

- 急いで医療機関に搬送します。

(毒ヘビの場合、血清の投与など適切な治療をしないと、死亡する危険があります。)

- 安静にします。手足を曲げ伸ばしたり走ったりしないようにします。
- ヤマカガシなどの毒液が目に入ったときには、すぐに水でよく洗い流します。

(ただし、水で洗っただけでは、毒は取り除けません)

- ヘビの毒素により脱水症状を起こしやすいので、水分を与えます。
- かまれたきず口に口をつけて吸い出すことは、推奨されません。

ハチ(スズメバチ、アシナガバチ)に刺された

ハチに刺されると痛みと腫れが起こり、ハチ毒に過敏な人は、一匹に刺されてもショック状態になったり、呼吸停止を起こし死亡することがあります。

手当

- 医師の診療を受けさせます。
- 針が残っているものは、根元から毛抜きで抜くか、横に払って落とす

(針をつかむと、針の中の毒がさらに注入されることがあります)。

- 冷湿布をします。

中毒

食中毒

調理してから食べるまでに時間がたった食物や、生の食品が細菌で汚染されると、増殖した細菌そのもの、または細菌の出す毒素が中毒の原因となります。これを食中毒といいます。

症状

- 腹痛、おう吐、下痢で始まり熱が出る。
- ボツリヌス菌中毒では、眼球、喉、食道の筋肉麻痺などの神経系の症状として、物が2つに見えたり、飲み込むことや呼吸ができなくなったりする。

手当

- おう吐・下痢がある場合は脱水を防止するため、嘔吐を誘発しないように水分を少量ずつ頻回に与えます。
 - おう吐物が気管に入らないような体位(回復体位)をとらせます。
 - できるだけ早く医師の診療を受けさせます。
- ※おう吐物や便などは医師に見せます。

事故防止

清潔

- 食品をよく洗います。
- 手洗いを十分に行います。
- 手指にきずがある場合は素手で調理せずビニール手袋などを使います。
- まな板・包丁・布巾などは消毒と乾燥を行います。

調理

- 食品は十分に加熱してから食べます。
- 調理後はすぐ食べるようにし、室温放置を避けます。

保存

- 冷蔵庫内の温度は5°C以下に保ちます。

その他

- 家族で下痢をしている者がいたら、シャワー浴とするか、最後に入浴させます。

ガス中毒

自動車の排気ガス、天然ガス、液化石油ガス（プロパンガスなど）、一酸化炭素、亜硫酸ガス、塩素、シンナー、石油化学製品のほか、新建材 その他が燃焼して発生する有毒ガスなどの吸入によって起こります。

また、火山や温泉地で発生する火山ガスを吸い込むことで火山性ガス中毒を起こすことがあります。

症状

- 気分が悪くなり、あくびが出て、頭痛、めまい、吐き気を起こす。
- 手足がしびれて動けなくなる。
- 有毒ガスを吸い込むと気道閉塞を起こす場合がある。
- 重症になると、意識障害を起こし、呼吸が停止し、死に至ることもある。
- すぐに意識が戻り、症状がなくなっても、数日あるいは数週間後に、記憶障害など神経症状があらわれることがある。

手当

- 直ちに119番通報します（意識がはっきりしていて症状が治まっても、できるだけ早く医師の診療を受けさせます）。
- 新鮮な空気のところへ傷病者を運び出し、衣類をゆるめます。
※意識があっても、歩かせてはいけません。
※体を起こしたり、ゆすったりすると、吐くことが多いので、静かに運びます。
- 保温します。
- 反応（意識）がなければ、一次救命処置の手順により手当を行います。

事故防止

- 暖房器具や調理器具、各種スプレー類などを室内で使用する際には、

窓を開けて常に室外の新鮮な空気を取り入れてガス中毒の予防に心がけます。

- 火山や温泉地などで、火山性ガスの危険を知らせる柵や看板などに注意します。

また、一定の濃度を超えた場合は、危険を知らせるアナウンスが流れますので、安全な場所に移動します。

薬物中毒

医薬品で中毒を起こし、手当が必要になる例の主なもの、鎮静睡眠薬（精神安定薬を含む）や解熱鎮痛剤などです。

化学薬品には、化粧品、洗剤、塗料や接着剤からの揮発性物質などがあります。

症状

- 健康であった人に急にさまざまな症状が現れる

（頭痛、吐き気、おう吐、下痢、腹痛、呼吸困難、血圧低下、意識レベルの低下、けいれんなど）。

- 唇や口の周りのただれや、吐く息のにおいの異常など。

手当

- 傷病者が飲んだ薬品の容器に中毒に対する注意書があったら、その指示に従います。
- 原則として、水や牛乳を飲ませたり、吐かせることはしません。

反応（意識）がないとき

- 気道を確保します。
- おう吐物などが気管に入らないよう、回復体位をとらせます。
- 保温します。
- 普段どおりの呼吸がない場合は、一次救命処置の手順により手当を行います。二次事故を防ぐため、人工呼吸は実施せず、胸骨圧迫だけを行います。

注意事項

- 反応（意識）がないときは、直ちに119番通報します。
- 反応（意識）があるときは、119番、医療機関あるいは日本中毒情報センターに電話して指示を受けます。
- 医療機関に搬送するときは、薬品の容器や傷病者のおう吐物を持って行きます。

連絡先

大阪中毒110番：072-727-2499（毎日24時間、年中無休）

つくば中毒110番：029-852-9999（毎日9～21時、年中無休）

たばこ誤飲事故専用電話：072-726-9922（毎日24時間、年中無休、自動音声応答による情報提供）

[公益財団法人 日本中毒情報センター](#)

熱中症

高温、多湿、風が弱い、輻射熱（地面や壁などからの放射により伝わる熱）があるなどの環境では、体から外気への熱放散が減少し、汗の蒸発も不十分となり、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れるなど体温や体液の調整機能が破綻します。このことが原因で起る障害を熱中症といいます。死に至る危険性のある病態ですが、予防の方法を知っていれば防ぐことができます。

熱中症の症状

「暑熱環境にさらされた」という条件が明らかで、立ちくらみ、こむらがえり、倦怠感といった症状がみられれば熱中症の疑いがあります。ひどくなると、意識がもうろうとしたり、体温が極端に高いなどの症状もみられます。また、気温が低くても、湿度が高い場合は、同様の症状が見られる場合があります。

手当

- できるだけ早く風通しのよい日陰や、冷房が効いている室内などに避難させます。
- 原則として水平にしますが、本人が楽な体位にします。
- 厚い衣服は脱がせて、体から熱の放散を助けます。
- 意識があり、吐き気やおう吐などがなければ、水分補給をさせます。経口補水液、

スポーツ飲料か、薄い食塩水などを飲ませます。

- 胸や腹の体の表面に水をかけたり、濡れたタオルで覆ったりして、うちわや扇風機などで扇ぐことにより体を冷やします。市販のアイスパックなどがあれば、それを頸部、腋窩部(わきの下)、鼠径部(大腿の付け根、股関節部)に当てて皮膚の直下を流れている血液を冷やしたり、また、頬、手のひら、足の裏を冷やすことも有効です。¹⁾
体の冷却はできるだけ早く行う必要があります、重症者を救命できるかどうかは、いかに早く体温を下げることができるかにかかっています。
- 水分が補給できない、症状に改善が見られない、様子がおかしい、全身のけいれんがあるなど、手当の判断に迷う場合は、直ちに119番通報します。
- 119番通報後も、救急隊の到着前から冷却を開始することが求められます。
- 反応(意識)がなく、普段どおりの呼吸がない場合は、一次救命処置の手順により手当を行います。

事故防止

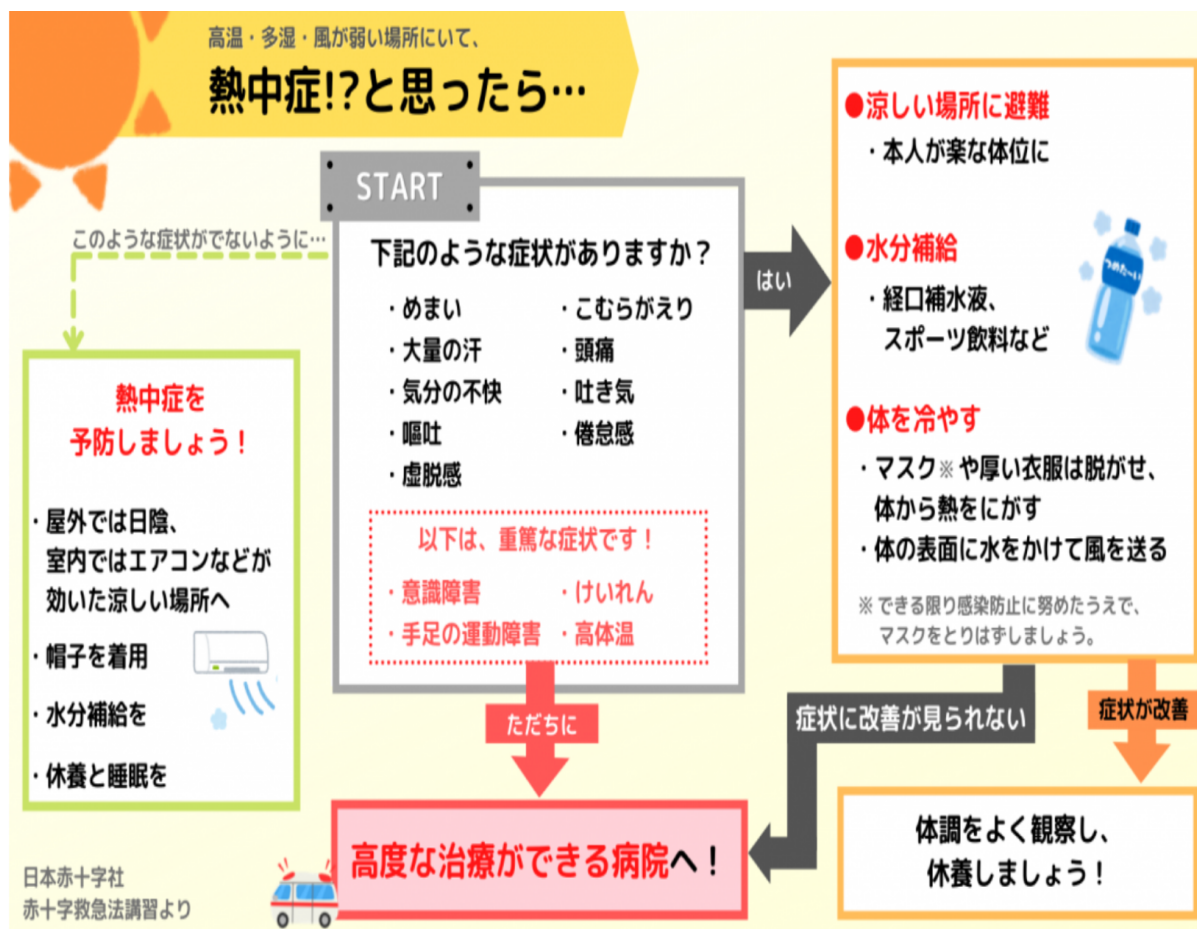
熱中症を防ぐためには、日常生活における工夫が必要です。

特に高齢者や子どもなどは熱中症に陥りやすいので、注意が必要です。

- 屋外では日陰を選び、屋内では扇風機や空調(エアコン)などを使用します。
- 濡れたタオルなどでこまめに汗を拭き、吸汗・速乾素材や通気性のある衣類、帽子を着用する
- 喉が渴いた時はもちろん、喉が渴く前、あるいは暑いところに出る前からこまめに水分を補給することが必要です(アルコールは体内の水分を排泄するので、特に注意が必要です)。
- 急に暑くなる日に屋外で過ごしたり、久しぶりに暑い環境で活動する場合は熱中症になりやすいので注意が必要です。暑さに徐々に慣れる工夫が必要です。
- 日頃から運動で汗をかく習慣を身につけて、暑さに備えた体づくりを心がけます。

- 疲労や睡眠不足、肥満、慢性疾患、薬剤服用など個人の条件も考慮が必要です。
- 個人の予防努力に加えて、集団活動の間ではお互いに配慮する必要があります。

熱中症!?と思ったら...



脳卒中

脳の中またはその近くの血管が突然破れたり、血管の中に血のかたまり(血栓)などができて脳の血液循環が悪くなると、急激に意識障害や運動障害などを起こします。このような病気を脳卒中といいます。脳卒中は、我が国の死因の高順位を占める病気です。

症状

- 顔、手及び言葉を観察し、下記のいずれかがあれば脳卒中を疑い、すぐに119番通報します。

その際は、「いつまで普通の状態であったか」という情報を救急隊員に伝えます。

顔...口角など顔の片側が下がり、ゆがみがあります。

手...片手に力が入らず、だらりと下がります。

言葉...言葉が出てこなかったり、ろれつが回りません。

※症状に気づいた時刻を確認します。

※重い脳卒中の場合は、意識障害が生じることもあります。

- 突然の歩行困難、めまい、平衡失調

(歩く足がもつれたり、立っていられなくなったりします)。

- 突然の激しい頭痛

(くも膜下出血では、激しい頭痛や後頭部をバットで殴られたような激痛とともに、嘔吐を伴うことがあります)。

- 急激に意識障害を起こし、意識がもうろうとしたり意識不明になったりします。

- 呼吸が不規則になったり、いびきをかいったり、重症では呼吸が停止します。

- 眼球の動きが異常になり、両眼が一方に寄ったり、片側が外を向いたりします。

※アルコールを飲んでいても、脳卒中を起こす場合があります。酔っ払っているからといって

脳卒中ではないと早まった判断をしてはなりません。

手当

- 直ちに119番通報します。※初期症状を見逃さずに早く医療機関へ搬送し、後遺症を

残さないようにすることが重要です。

- 急激に意識障害を起こし倒れて体を強く打つことが多いので、全身、特に頭を打って

いないかよく調べます。

- 心身ともに安静にします。

- ネクタイ、ベルトなどを緩め、楽に呼吸ができるようにします。

- 水平に寝かせ、毛布などで保温をします。
 - 嘔吐があるときには、吐いたものを誤って気管に吸い込まないように、回復体位をとらせます。
 - 意識障害があるときは、一次救命処置の手順により手当を行います。
- ※倒れた場所がトイレや浴室または戸外などの場合には、数人の手を借りて、近くで安静を保てる場所に静かに移します。
その際、頭部と胴体を水平に保ち、特に頭が動揺しないように注意します。

手に入らなくなるもの

以下は、優先事項のリストです。大災害が発生した場合、すぐに手に入らなくなってしまうものです。項目は順不同で記載しています。これらの物資は、できるだけストックしておくことをお勧めします。

食料・消耗品

- ペットボトルの水は、まず間違いなくなくなります。
- 缶詰。ラベルも見ずにカートに押し込みます。物々交換に最適なアイテム。
- 米、豆、小麦、小麦粉、イースト。これらの基本的な材料はすべて大量に取引され、すぐに買いだめされます。
- その他の穀物は、人間用、動物用を問わず、食用とされています。
- 浄水器・フィルター類/漂白剤を含むは、最初の数日間後は入手困難になります。
- 木炭。薪を手に入れることができない人は、食べ物を調理する唯一の方法として、すぐにこれを買いだめし始めるでしょう。
- ニワトリ、ヤギ、牛、豚など、あらゆる家畜が貴重品になります。家畜を守るための対策が必要です。
- 食用油。オイルランプの材料にもなります。
- 牛乳（粉ミルク、コンデンスミルクの両方）。
- 塩
- 鋳鉄製の鍋やダッチオーブンは長持ちし、直火で使うことを前提に作られています。
- 種、本、道具などのガーデニング用品
- 缶詰の瓶、蓋、ペクチンなど缶詰用品
- ジャーキーなど、日持ちのする肉類
- 紅茶、コーヒー、スポールドリンク、粉末のスポーツドリンクなど

医療・衛生関連

- シャンプー、歯ブラシ、歯磨き粉、女性用生理用品、マウスウォッシュ、フロスなどの衛生用品。
- 救急箱
- 市販薬。風邪薬・インフルエンザ薬、咳止めシロップなど。
- トイレットペーパー、ティッシュ、ペーパータオル
- ビタミン、ハーブサプリメント
- アルコール類
- 赤ちゃん/幼児用品。粉ミルク、オムツ、哺乳瓶など
- より高度な外科的処置や医薬品。歯列矯正器具、抗生物質、ヨウ素剤、抗菌軟膏など。

キャンプ・アウトドア用品

- 懐中電灯、ランタン、蛍光灯。また、予備の電池
- 燃料とオイル
- 弓のこ、斧、手斧、楔、ナタ、狩猟用ナイフ、研ぎ石、研ぎ油
- 釣り用具
- 迷彩服や狩猟服
- 寝袋
- 手袋、ウールの靴下、帽子
- タープ（ブルーシート）、プラスチックロール、杭、ダクトテープ、麻ひも、釘、ロープ、ハンマー/即席シェルターとして使用できるものなら何でも
- サバイバルや医療関連の雑誌、書籍、ガイドブックなど
- ガソリンや水の容器
- 木材やその他の建築資材
- 洗濯バサミやハンガーは、見落とされがちですが、重要な準備用品です。洗濯機や乾燥機のない生活では、とても便利です。
- 断熱材入りの保冷箱は、その場しのぎのバスケットのようなもので、冬に凍らないようにすることができます。

家庭用雑貨

- ロウソク： 無香料・長時間燃焼のもの
- 漂白剤。香りのないもの：4～6%の次亜塩素酸ナトリウムの漂白剤。飲料水の浄化に使用できます。
- ナイフ、研ぎ器
- リュックサック、ダッフルバッグ
- 大型のゴミ箱とゴミ袋は、ゴミ捨て、保管、水汲み、荷物の運搬などに使用できます。
- 清掃・消毒用品
- 紙、メモ用紙、鉛筆、シャープペン、ペン、太陽電池式計算機
- 寝袋、毛布、枕、マット、膨張式マットレスなど
- あらゆるサイズと形状のバケツ
- ラップや断熱材
- 携帯トイレまたは20Lバケツ型トイレの蓋
- 武器（銃や弾薬だけでなく、ペッパーズプレー、ナイフ、クラブ、バット、スタンガン、パチンコ、ペレットライフルなど）
- 洗濯板、トイレ用スポン、洗濯用にしぼり器付きモップバケツ
- アルミホイル。レギュラーと厚手のものは調理に使用できます。
- シャベル、ピックアックス、鍬、一般的なガーデニングツール

その他、あると便利なもの

- 聖書、ノート
- 注解書、聖書辞典、聖書百科事典、コンコードダンスなどの神学書
- 粘着テープ、養生テープ、電気用テープ（ビニールテープ）など。
- 自転車、予備のタイヤ、チューブ、修理キット、ポンプ、チェーンなど
- ガス、水、オイル用のハンドポンプとサイフォン
- 発電機
- ライター、マッチ、火打ち石と鉄製ファイヤースターター
- 電池 すべてのサイズを購入する。使用期限を確認
充電式バッテリーが理想的ですが、コストがかかります。12V のカーバッテリー
やソーラー充電器も用意しましょう。
- 太陽光発電 完全な太陽光発電は無理でも、数万円で基本的な（持ち運び可能な）
システムを構築でき、必要に応じて基本的な必需品に電力を供給できる。
- 金と銀

勇気を出す方法・勇敢である方法

私は若い頃、競技スポーツに参加して、勝利は必ずしも強い者、速い者にもたらされるのではないことを学びました。しかし、Xファクター、すなわち心、決意、そして集中力が、しばしば力強さに勝るのです。精神世界では、**勇気**が主要なXファクターとなるのです。多くの人は、学位や訓練、暗記した聖句の数、奉仕の経験などが、その人の霊的な歩みと召命における効果を保証してくれると信じています。しかし、勇気がなければ、どんなに才能があり、能力のある人でも、神が召された者となり、神が望まれることを成し遂げるには至らないのです。

勇気は、神が評価される属性であり、信者はそれを示さなければなりません。ある意味で、これはこの小冊子の中で最も重要な箇所の一つです。確かに、救われ、赦されることは第一に重要ですが、勇気を持って生きることが重要なのです。このことは、いつの時代にも言えることですが、この最後の暗い時代には特に言えることです。以下は、あなたが勇気を持ち、他の人に勇気を与えるために役立つ考えや提案です。

- **恐れは状況を拡大させ、信仰は状況を管理するのに役立つということを知っておいてください：**恐れは、しばしば状況を実際よりも悪化させ、より恐ろしくします。恐怖は勇気とは正反対のものです。恐怖によって私たちの勇気を損なうことができれば、サタンは半分以上勝利したようなものだからです。信仰は勇気のための防御壁です。もし私たちが信仰を強めるために祈り、努力するならば、勇気が守られ、軌道に乗ることが出来ます。私たちの心が迷い、平和からパニックに移行するとき、私たちは集中力、心、意欲、そして継続する力を失います。
- **恐れと心配は、互いに影響し合い、状況を悪化させる従兄弟のようなものです：**恐れや心配が大きくなっても、決して助けにはならず、必ず傷つくことを知っておいてください。そうです。恐怖や心配は自然な感情であり、何らかの価値がありますが、これらの感情が私たちの精神の中で暴れ回るのを許すと、あなたの喜びを奪い、あなたの証しを危険にさらすことになります。心配し始めたら、礼拝を始めましょう。神をほめたたえましょう。歌い、聖句を引用し、他の人のために祈り、御言葉を学びましょう。心配の種を与えず、恐れや心配の種が燃え上がる前に消し去るようにしましょう。
- **もし〇〇だったら、という考えに陥らないようにしましょう。**：サタンはこのような考え方を魅力的で有益なものに聞こえるように仕向ける方法をもっています。サタンは「あらゆる選択肢と可能性を考慮するのが賢明ではないか」と言うでしょう。そうです、賢明な人は選択肢を検討し、緊急時対応策を立てます。しかし、「でも、こうなったらどうしよう」「ああなったらどうしよう」と問い続けることは、勝ち目のないシナリオです。私たちは、もし〇〇だったら、100万ドル当たったら、と良いシナリオで空欄を埋めるようなことはなかなかしません。それよりも、もし明日、私のところに悲劇がやってきたらどうしよう、ということがよくあります。サタンはこのことを知っていて、私たちの心を攻撃するのが大好きです。彼は、疑いや絶望の思いを持ち込むのが好きなのです。彼に何

の根拠も与えてはいけません。そのような滑りやすい坂を下ることを許さないように、最善を尽くしましょう。

- **思考を転換させる：**サタンは心を攻撃しますから（Ⅱコリント 10：5）、私たちは心を守る方法を学ばなければなりません。最善の防御策は、パウロがピリピ教会に書いたように、純粹で、高貴で、役に立つ良いことに焦点を当てることです（ピリピ 4:8）。以下に、いくつかの提案を記します。

»» **祈ること：**常に祈り続けましょう。「あなたがたのあらゆる願いを、神に知っていただきなさい。」（ピリピ 4:6）。「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。」（Ⅰペテロ 5:7）。あなたが祈りに集中すればするほど、サタンはあなたの喜び、焦点、勇気を奪うことができなくなります。

»» **何が起こるかを知る：**牧師として私は、多くの人が預言の勉強や黙示録を読みながらないことに気づきました。なぜなら、これらの聖句は戦争や艱難について述べているからです。しかし、未来について知らないということは、私たちの恐れを増幅させるだけです。無知であることは、私たちを弱くします。神は、あなたを怖がらせるために未来についての洞察を与えたのではなく、あなたを準備させるために与えられたのです。考えてみてください：もしあなたが試合中にフットボール場に出て、誰かにタックルされることに対して何の準備もできていなかったら、痛い思いをするでしょう。偉大な選手たちは、タックルされることを想定して準備しているのです。彼らはタックルされることを予期し、その衝撃に対抗したり、最小限に抑えたりする方法を知っているのです。神様が、またサタンもこれから何をしようとしているのかを知ることを恐れてはいけません。確かに不安にはなるでしょうが、知らないということは敵に有利に働きます。（エペソ 4：27）

»» **一人で抱え込まないでください：**神は、私たちが一緒にいた方が良いように物事を設計されました。二人が一緒に働くと、二人が別々に働くより多くのことを成し遂げることができます。主にある兄弟姉妹となる信者、一緒に奉仕し、一緒に学び、一緒に祈り、あなたを励ましてくれる人を見つけることです。勇気と恐れは伝染するものであり、常に強い人はいません。厳しい時に、あなたにバランスを与えてくれる人（できれば1人以上の人）を見つけてください。

»» **御言葉を知る：**ルカの福音書 4 章では、イエス様の宣教の始まりに、サタンが巧みに主を誘惑して攻撃してきました。イエス様は聖句を引用して、数々の誘惑に打ち勝ちました。聖書は生きていて、力があります（ヘブル 4：12）。聖書を読むことは、ストレスを和らげ、集中力を高めることができます。聖句を思い出し、引用することによって、困難や誘惑に対応することは、知恵を示し、神を称えることになります。

»» **長い目で見てください：**長い目で見ると、艱難は7年しか続かず、神の御国と天国の栄光は永遠に続くのです。この世の痛みや苦しみは、すぐになくなります。このことをよく考えてみてください。もしあなたが時間を計るとき、100万年を1メートルとすると、時間の基準を二分する最も細い線は、世界が耐える7年の艱難時代よりもさらに大きな幅を持つことになるのです。しかも、それは100万年の間だけです。私たちが天国で過ごす時間は、何百万年、何千万年という単位になるのです。パウロは、「**見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。**」（Ⅱコリント 4:18）と言って、それをうまく表現しています。

»» **ポジティブなことに目を向けよう：**祝福を記録しましょう。答えられた祈りを記録しましょう。神のすばらしさと働きについての証しを分かち合しましょう。どんなに小さくても、すべての祝福を喜びましょう。第二次世界大戦の恐怖の中、幼いコリー・テン・ブームとその妹はナチスに逮捕され、強制収容所に入れられたと言われています。多くの人はその収容所で諦めて死んでいきましたが、コリー・テン・ブームは死にませんでした。その理由があります。コリーはポジティブなことに目を向けていたのです。食料が不足し、ネズミが蔓延し、看守が昼夜を問わず寮に入り込み、手当たり次第に収容者を殴っていたある時、コリーは妹と床に座って、妹が抱える傷や恐怖を打ち明けるのに耳を傾けたのだそうです。確かにそれらは正当なものでしたが、コリーは「少し時間をとって、私たちが神に感謝できることは何かを考えよう」と言って、話を切り出しました。静寂。妹は、自分たちの痛みや必要について何時間も話すのは簡単だが、神に感謝することは何だろうかと考えました。最後にコリーは、「ノミに感謝しよう」と言った。確かにノミは恐ろしくて、生活を不快にさせましたが、キャンプの警備員は彼らの寮にノミがいることを知っていて、ノミを恐れることで夜は比較的安全でした（他の寮のエリアはそうではありませんでした）。ノミのことを神に感謝するにつれ、他の恵み、つまり、互いに助け合っていること、まだ生きていること、信仰があることなどにも目を向け、神に感謝することが容易になったのです。やがて、コリーの妹は、信者がなすべきことである肯定的な見方をすることが容易になりました。パウロは「**すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。**」（Ⅰテサロニケ 5:18）と励ましています。なぜなら、神（と神の多くの約束）は決して神の民から遠ざかることがないからです。

»» **起こりそうなことを知る：**これは書きにくいことですし、皆さんの気持ちを考えずに書いているわけではありません。しかし、ほとんどの人は艱難時代の終わりまで生き残れないということを心に留めておいた方が良いでしょう。ハルマゲドンの戦いの終わりに「栄光の出現」と主の再臨を見るために生き残ることを祈るのはいいのですが、それが神の御心でないなら、心や信仰を失うような位置づけになるのは間違いなのです。もし、私が信仰を持ったら、もし信じたら、もし神に仕えたら...というような考え方をしてはいけな

いのです。神に対する私たちの信仰と愛は、条件付き（神が私を救ってくれたら、私を守ってくれたら、食べ物を提供してくれたら、刑務所から遠ざけてくれたら、など）であってはならないのです。生き残りたいという願望や、良い神と良い時代や祝福を結びつけたい気持ちは分かりますが、艱難時代には大きな悪がこの地を席卷することになります。善と悪の壮大な戦いが繰り広げられていますが、安心してください、神は勝利されます。

»» **正しい目標を持つ：** 歴史のこの時点で、目標は、良い引退をすること、富を蓄積すること、地位を得ること、良い家に引っ越すこと、学位を取得すること、あるいは生き残ることであってはなりません—目標は、神のために仕え、証人となることでなければなりません。忠実な人は、与えられた時間の中で、できるだけ多くの人に証人となるよう努力します。あなたの目標は、長生きすることではなく、よく生き、よくやり遂げることです。逃げたり隠れたりする誘惑もあるでしょう（そしておそらくチャンスもあるでしょう）。そして、神様がそうするようにと召される方もいらっしゃるでしょうし、そうするようにと導かれるのであれば、ぜひそうしてください。しかし、私は、ほとんどの人が、逃げるようにではなく、戦うようにと呼ばれるだろうと信じています。多くの人は、光となり、神の声となり、神の証人となるように召されると信じています。神のために生き、神に仕え、神の証人となることを中心とした目標は達成可能であり、目標を達成することで深い満足感を得ることができます。もし、フットボール選手の目標が、ボールを持つたびにタッチダウンを決めることや、毎試合 MVP になることだったとしたら、その選手はすぐに失望し、落胆してしまうでしょう。賢明な選手は、賢明な目標を設定します。それと同じように、あなたの目標も、神様の御心に沿うものでなければなりませんし、この歴史の局面で起こることが預言されていることに沿ったものでなければなりません。世界はかつてない苦難に遭遇しますが、霊的な目標を達成するために苦難に遭遇するとき、誰にも、何ものにも奪われない平安と喜びと満足を得ることができます。

»» **神様が助けてくださる：** 悪に抵抗し、神の証人となるために困難な決断をする場合、神は信者が大胆で勇敢であるように助けてくださると信じています。聖書には、反キリストを拝むことを拒否したために、多くの人が殉教すると書かれています。きっと多くの人が、刻印を受ければ、命を救われる機会を与えられると思います。"神は存在しないが、仮に存在したとしても、神はあなたが命を救い、この国の法律に従うことを望んでいるのではないだろうか？"と言う人も出てくるかもしれません。自分の信仰と証しを妥協することは賢明な判断のように思えるかもしれませんが、厳しい罰を受けるとわかっていながら、どうして絞首台へ行く勇気やキリストのために話すことができるのだろうと思う人もいるかもしれません。私はあなたにこう言います： イエス・キリストは、そのような人生の非常に困難な時に、従順であると真摯に誓う人を助けてくださるのです。だから、後でイエス・キリストのために勇敢になることを今約束し、イエス・キリストがあなたとともに立ち、あなたがイエス・キリ

ストのための大胆で勇敢で強い証人となるのを助けてくださることを信じてください。

»» **報酬について考えてみましょう：** 艱難時代に殉教者として死んだ人は、神から認められ、報いを受けます（黙示録 7:15-17）。これらの聖徒は白い衣を与えられ（黙示録 6:11）、キリストとともに地上に戻り、キリストの千年王国を先導します（ダニ 7:18-27）。さらに、キリストの千年王国支配の間、艱難時代の殉教者は、神の仕事を管理する栄誉を共有することになります。（ヨブ 36：7、イザ 60：17、詩 37：29-31、エレ 3：15）

»» **未来は：** ある人は、未来は暗いと言うかもしれませんが、地上から見ればその通りかもしれません。しかし、信者は信仰の目で見よう求められています（Ⅱコリント 5:7）。今現在の痛みに目を向けるのではなく、将来に対する神の輝かしい約束に目を向けるのです。ある信者は、家や仕事、命を失うかもしれませんが、よくやり遂げたクリスチャンは、永遠で素晴らしい報酬を受け取ることができます。パウロが「死ぬことは益です」（ピリピ 1:21）と言ったことを思い出してください。忠実な者は、イエス様が「よくやった、私の良き忠実な僕」（マタイ 25 章）と言うのを聞くでしょう。キリストに信仰を置く人は、千年王国時代にキリストと共に統治することになります。勇気あるクリスチャンは、その生涯の仕事が神の聖なる評価の火を通るとき、欠けることはありません（Ⅰコリント 3:13-15）。勇気ある忠実な人には、大きなことが待ち受けています。ですから、大胆になりましょう。強くあれ。目を離さないでください。サタンにはその日があっても、永遠は主のものなのです。この聖書の約束に慰められましょう。「... 目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」（Ⅰコリント 2：9）。

危機的な状況において、行動計画を立てることはしばしば困難です。このセクションでは、次のステップのためのいくつかの提案をご覧いただけます。

1. **良い聖書を手に入れましょう：** 多くの学習メモが含まれている聖書を手に入れることをお勧めします。これらはしばしばスタディ・バイブルと呼ばれています。注釈は、難しい箇所やよくわからない文献を説明するのに役立ちます。日本語訳の聖書には、おもに文語訳、口語訳、新改訳、新共同訳、リビングバイブルがあります。おすすめは、新改訳聖書（注解・牽引・チェーン式引照付きであればなお良い）です。リビングバイブルは読みやすいですが、原文を忠実に訳した聖書ではないので、深く学ぶ際には適していません。
2. **偽教師に注意しましょう：** 聖書には、「多くの人がやってきて、ある人は奇跡を起こす能力を持ってやってくる」と記されています。彼らのプレゼンテーションは洗練され、説得力があります。彼らは、誤った教えと妥協したメッセージを提示します。彼らは、人々を真理から遠ざけようとします。神の言葉である聖書は、真理の最良の源であることを忘れないでください。艱難辛苦や反キリストを

扱った興味深いクリスチャンの推理小説が数多くありますが（「レフトビハインド」シリーズがその一例です）、それらはフィクションであることを認識しておいてください。フィクションから特定の結論を引き出したり、霊的な答えを求めたりしないでください。聖書の中に答えを探しましょう。聖書は、この最後の日において、真理と事実を知るための重要な情報源となる必要があるのです。

3. **他の信者とつながり、自分の信仰を分かち合いましょう：** 真の信者を見つけ、できるだけ多くの時間を彼らと一緒に過ごしましょう。難難時代の試練が増えるにつれ、お互いが必要になります。
4. **出来るだけ早く、出来るだけ多くのことを学びましょう：** 霊的なことが最優先ですが、応急処置のような実践的なスキルも磨いてください。CPR（心肺蘇生法）や緊急事態への対処法を学びましょう、なぜならその必要が来るからです。医学や代替医療を研究しましょう。医療サービスや医薬品へのアクセスは、将来的に管理され、制限されることを知っておきましょう。地震、汚染水、戦争、統制された経済がやってくるので、食料の栽培、保存、発電機や太陽光発電の操作、水の浄化の方法を学びましょう。自給自足のための対策をとり、可能な限り、社会サービスに頼らない自給自足の生活しましょう。しかし、何よりも、御言葉を学ぶことです。聖書を勉強すること。これから起こる聖書預言の注釈を学びましょう。勉強や祈りのパートナーを見つけましょう。神様のものに囲まれてください。そして、オンラインや電力サービスの中断、あらゆる種類のキリスト教文献の禁止が予想されるため、I Am A Watchman ミニストリーが提供する学習リソースをダウンロードして印刷することをお勧めします。もし可能であれば、デジタルではない学習資料（物理的な本や DVD）を購入すること。いのちのこば社などの福音主義出版社から出版されている本を探してみてください。聖書の百科事典や辞書、トピカルバイブル、そして聖書注解書なども参考になります。特に、福音書（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）の解説書、使徒の働きとパウロの著作（エペソ、ローマ、I・II コリント、ガラテヤ、ピリピ、ピレモン、コロサイ）の解説書、黙示録、イザヤ、ダニエル、エゼキエル、ザカリヤの預言書に関する解説書が役に立つでしょう。
5. **獣の刻印を受けないよう、人々に呼びかけましょう！** 獣とは、反キリストのことです。先ほど、反キリストは最終的に世界のすべてのシステム（経済も含む）を支配することになるとお話ししました。難難時代の中頃には、言葉は悪いですが、反キリストへの忠誠を示す刻印が必要になります。その刻印は、額、手または手首につけられることが多く、その刻印がなければ、公開市場で売買することができなくなります。この刻印を受けることは、おそらく経済的な判断として、世界の統一を促進したり、個人の安全保障をより良く守ったりするものとして紹介されるでしょうが、それは嘘です。刻印を受けた者は、反キリストと一体となり、神の贖いを受けられなくなります。刻印を受けた人が後で考えを変えて、イエス・キリストの信者になることは不可能です。刻印を受けないこと！刻印を受

けることを拒否した者の多く、おそらくほとんどが死刑に処されます。医療品を蓄えていて、食料と水のための地下ネットワークを持っている人は、最も生き残る可能性が高いでしょう。ですから、食料や医薬品、サバイバル用品を保管し、キリスト教の学習資料のハードコピーを印刷して保管することをお勧めします。それらを隠してください。大切にしてください。共有と物々交換のためのネットワークを確立すること、そして、ある時点で、あなたの人生は、あなたが誰と協力し、コミュニケーションをとるかによって決まるので、これらは、強いクリスチャンとでなければならないことに注意しましょう。

6. **資産を流動化しましょう：** 新しい世界通貨がやってきます。自然災害やサービス（電力や水）の途絶がやってきます。売却できるものは売却しましょう。株式、債券、退職金などは、すぐに価値がなくなり、アクセスも制限されるでしょう。売れる商品、あるいは金、銀、薬、燃料など、本来の価値があるものに投資しましょう。ダウンサイジングしましょう。移動できるように準備しましょう。そうです。生きるには、非常に困難な時が来ますが、神はあなたを見捨てないし、あなたを忘れてもいません。あなたがよく生き、よく終えることを決心するならば、神はあなたが強く勇敢であるように助けてくださるでしょう。覚えておいてください、今の目標は生き残ることではありません、目標は最後まで神に忠実であることです。

7. **毎日、御言葉を読みましょう：** 神の民が、御言葉に何が書かれているか、それをどのように伝え、日々の歩みにどのように取り入れるかを学ぼうと努力することは、神を称えることになります。時系列に沿った通読ガイド、聖書に記されている順に沿った通読ガイドを次に記しています。

<https://ezekiel.zashiki.com/plan/>より

時系列に沿った聖書ガイド

聖書通読表 : Read the Bible in a Year				
— 時系列 [Chronological] 聖書全体を出来事の起こった順に読む —				
第1週 <input type="checkbox"/> 創世記 1-3 <input type="checkbox"/> 創世記 4-7 <input type="checkbox"/> 創世記 8-11 <input type="checkbox"/> ヨブ 1-5 <input type="checkbox"/> ヨブ 6-9 <input type="checkbox"/> ヨブ 10-13 <input type="checkbox"/> ヨブ 14-16	<input type="checkbox"/> レビ 16-18 第8週 <input type="checkbox"/> レビ 19-21 <input type="checkbox"/> レビ 22-23 <input type="checkbox"/> レビ 24-25 <input type="checkbox"/> レビ 26-27 <input type="checkbox"/> 民数記 1-2 <input type="checkbox"/> 民数記 3-4 <input type="checkbox"/> 民数記 5-6	<input type="checkbox"/> 士師記 19-21 <input type="checkbox"/> ルツ <input type="checkbox"/> 1サムエル 1-3 第15週 <input type="checkbox"/> 1サムエル 4-8 <input type="checkbox"/> 1サムエル 9-12 <input type="checkbox"/> 1サムエル 13-14 <input type="checkbox"/> 1サムエル 15-17 <input type="checkbox"/> 1サムエル 18-20 詩篇 11 詩篇 59 <input type="checkbox"/> 1サムエル 21-24 <input type="checkbox"/> 詩篇 7 詩篇 27 詩篇 31 詩篇 34 詩篇 52	<input type="checkbox"/> 2サムエル 5:11-25 2サムエル 6 1歴代誌 13-16 <input type="checkbox"/> 詩篇 1-2 詩篇 15 詩篇 22-24 詩篇 47 詩篇 68 <input type="checkbox"/> 詩篇 89 詩篇 96 詩篇 100-101 詩篇 105 詩篇 132	<input type="checkbox"/> 2サムエル 24 1歴代誌 21-22 詩篇 30 <input type="checkbox"/> 詩篇 108-110 <input type="checkbox"/> 1歴代誌 23-25 <input type="checkbox"/> 詩篇 131 詩篇 138-139 詩篇 143-145 <input type="checkbox"/> 1歴代誌 26-29 詩篇 127
第2週 <input type="checkbox"/> ヨブ 17-20 <input type="checkbox"/> ヨブ 21-23 <input type="checkbox"/> ヨブ 24-28 <input type="checkbox"/> ヨブ 29-31 <input type="checkbox"/> ヨブ 32-34 <input type="checkbox"/> ヨブ 35-37 <input type="checkbox"/> ヨブ 38-39	第9週 <input type="checkbox"/> 民数記 7 <input type="checkbox"/> 民数記 8-10 <input type="checkbox"/> 民数記 11-13 <input type="checkbox"/> 民数記 14-15 詩篇 90 <input type="checkbox"/> 民数記 16-17 <input type="checkbox"/> 民数記 18-20 <input type="checkbox"/> 民数記 21-22	第16週 <input type="checkbox"/> 詩篇 56 詩篇 120 詩篇 140-142 <input type="checkbox"/> 1サムエル 25-27 <input type="checkbox"/> 詩篇 17 詩篇 35 詩篇 54 詩篇 63 <input type="checkbox"/> 1サムエル 28-31 詩篇 18 <input type="checkbox"/> 詩篇 121 詩篇 123-125 詩篇 128-130 <input type="checkbox"/> 2サムエル 1-4 <input type="checkbox"/> 詩篇 6 詩篇 8-10 詩篇 14 詩篇 16 詩篇 19 詩篇 21	第19週 <input type="checkbox"/> 2サムエル 7 1歴代誌 17 <input type="checkbox"/> 詩篇 25 詩篇 29 詩篇 33 詩篇 36 詩篇 39	第22週 <input type="checkbox"/> 詩篇 111-118 <input type="checkbox"/> 1列王記 1-2 詩篇 37 詩篇 71 詩篇 94 <input type="checkbox"/> 詩篇 119:1-88 <input type="checkbox"/> 1列王記 3-4 2歴代誌 1 詩篇 72
第3週 <input type="checkbox"/> ヨブ 40-42 <input type="checkbox"/> 創世記 12-15 <input type="checkbox"/> 創世記 16-18 <input type="checkbox"/> 創世記 19-21 <input type="checkbox"/> 創世記 22-24 <input type="checkbox"/> 創世記 25-26 <input type="checkbox"/> 創世記 27-29	第10週 <input type="checkbox"/> 民数記 23-25 <input type="checkbox"/> 民数記 26-27 <input type="checkbox"/> 民数記 28-30 <input type="checkbox"/> 民数記 31-32 <input type="checkbox"/> 民数記 33-34 <input type="checkbox"/> 民数記 35-36 <input type="checkbox"/> 申命記 1-2	<input type="checkbox"/> 詩篇 56 詩篇 120 詩篇 140-142 <input type="checkbox"/> 1サムエル 25-27 <input type="checkbox"/> 詩篇 17 詩篇 35 詩篇 54 詩篇 63 <input type="checkbox"/> 1サムエル 28-31 詩篇 18 <input type="checkbox"/> 詩篇 121 詩篇 123-125 詩篇 128-130 <input type="checkbox"/> 2サムエル 1-4 <input type="checkbox"/> 詩篇 6 詩篇 8-10 詩篇 14 詩篇 16 詩篇 19 詩篇 21	<input type="checkbox"/> 2サムエル 8-9 1歴代誌 18 <input type="checkbox"/> 詩篇 50 詩篇 53 詩篇 60 詩篇 75	<input type="checkbox"/> 詩篇 119:89-176 <input type="checkbox"/> 雅歌 <input type="checkbox"/> 箴言 1-3
第4週 <input type="checkbox"/> 創世記 30-31 <input type="checkbox"/> 創世記 32-34 <input type="checkbox"/> 創世記 35-37 <input type="checkbox"/> 創世記 38-40 <input type="checkbox"/> 創世記 41-42 <input type="checkbox"/> 創世記 43-45 <input type="checkbox"/> 創世記 46-47	<input type="checkbox"/> 申命記 1-2 第11週 <input type="checkbox"/> 申命記 3-4 <input type="checkbox"/> 申命記 5-7 <input type="checkbox"/> 申命記 8-10 <input type="checkbox"/> 申命記 11-13 <input type="checkbox"/> 申命記 14-16 <input type="checkbox"/> 申命記 17-20 <input type="checkbox"/> 申命記 21-23	<input type="checkbox"/> 詩篇 121 詩篇 123-125 詩篇 128-130 <input type="checkbox"/> 2サムエル 1-4 <input type="checkbox"/> 詩篇 6 詩篇 8-10 詩篇 14 詩篇 16 詩篇 19 詩篇 21	<input type="checkbox"/> 2サムエル 10 1歴代誌 19 詩篇 20 <input type="checkbox"/> 詩篇 65-67 詩篇 69-70 <input type="checkbox"/> 2サムエル 11-12 1歴代誌 20	<input type="checkbox"/> 箴言 1-3 第23週 <input type="checkbox"/> 箴言 4-6 <input type="checkbox"/> 箴言 7-9 <input type="checkbox"/> 箴言 10-12 <input type="checkbox"/> 箴言 13-15 <input type="checkbox"/> 箴言 16-18 <input type="checkbox"/> 箴言 19-21 <input type="checkbox"/> 箴言 22-24
第5週 <input type="checkbox"/> 創世記 48-50 <input type="checkbox"/> 出エジプト 1-3 <input type="checkbox"/> 出エジプト 4-6 <input type="checkbox"/> 出エジプト 7-9 <input type="checkbox"/> 出エジプト 10-12 <input type="checkbox"/> 出エジプト 13-15 <input type="checkbox"/> 出エジプト 16-18	<input type="checkbox"/> 申命記 24-27 <input type="checkbox"/> 申命記 28-29 <input type="checkbox"/> 申命記 30-31 <input type="checkbox"/> 申命記 32-34 詩篇 91 <input type="checkbox"/> ヨシュア 1-4 <input type="checkbox"/> ヨシュア 5-8 <input type="checkbox"/> ヨシュア 9-11	<input type="checkbox"/> 詩篇 121 詩篇 123-125 詩篇 128-130 <input type="checkbox"/> 2サムエル 1-4 <input type="checkbox"/> 詩篇 6 詩篇 8-10 詩篇 14 詩篇 16 詩篇 19 詩篇 21	<input type="checkbox"/> 2サムエル 11-12 1歴代誌 20 第20週 <input type="checkbox"/> 詩篇 32 詩篇 51 詩篇 86 詩篇 122	<input type="checkbox"/> 箴言 25-26 第24週 <input type="checkbox"/> 1列王記 5-6 2歴代誌 2-3 <input type="checkbox"/> 1列王記 7 2歴代誌 4 <input type="checkbox"/> 1列王記 8 2歴代誌 5
第6週 <input type="checkbox"/> 出エジプト 19-21 <input type="checkbox"/> 出エジプト 22-24 <input type="checkbox"/> 出エジプト 25-27 <input type="checkbox"/> 出エジプト 28-29 <input type="checkbox"/> 出エジプト 30-32 <input type="checkbox"/> 出エジプト 33-35 <input type="checkbox"/> 出エジプト 36-38	<input type="checkbox"/> ヨシュア 12-15 <input type="checkbox"/> ヨシュア 16-18 <input type="checkbox"/> ヨシュア 19-21 <input type="checkbox"/> ヨシュア 22-24 <input type="checkbox"/> 士師記 1-2 <input type="checkbox"/> 士師記 3-5 <input type="checkbox"/> 士師記 6-7	<input type="checkbox"/> 1歴代誌 1-2 <input type="checkbox"/> 詩篇 43-45 詩篇 49 詩篇 84-85 詩篇 87 <input type="checkbox"/> 1歴代誌 3-5 <input type="checkbox"/> 詩篇 73 詩篇 77-78 <input type="checkbox"/> 1歴代誌 6 <input type="checkbox"/> 詩篇 81 詩篇 88 詩篇 92-93 <input type="checkbox"/> 1歴代誌 7-10	<input type="checkbox"/> 2サムエル 13-15 <input type="checkbox"/> 詩篇 3-4 詩篇 12-13 詩篇 28 詩篇 55 <input type="checkbox"/> 2サムエル 16-18 <input type="checkbox"/> 詩篇 26 詩篇 40 詩篇 58 詩篇 61-62 詩篇 64	<input type="checkbox"/> 2歴代誌 6-7 詩篇 136 <input type="checkbox"/> 詩篇 134 詩篇 146-150 <input type="checkbox"/> 1列王記 9 2歴代誌 8 <input type="checkbox"/> 箴言 25-26
第7週 <input type="checkbox"/> 出エジプト 39-40 <input type="checkbox"/> レビ 1-4 <input type="checkbox"/> レビ 5-7 <input type="checkbox"/> レビ 8-10 <input type="checkbox"/> レビ 11-13 <input type="checkbox"/> レビ 14-15	<input type="checkbox"/> ヨシュア 22-24 <input type="checkbox"/> 士師記 1-2 <input type="checkbox"/> 士師記 3-5 <input type="checkbox"/> 士師記 6-7 第14週 <input type="checkbox"/> 士師記 8-9 <input type="checkbox"/> 士師記 10-12 <input type="checkbox"/> 士師記 13-15 <input type="checkbox"/> 士師記 16-18	<input type="checkbox"/> 1歴代誌 11-12 第18週 <input type="checkbox"/> 詩篇 102-104 <input type="checkbox"/> 2サムエル 5:1-10 1歴代誌 11-12 <input type="checkbox"/> 詩篇 133 <input type="checkbox"/> 詩篇 106-107	<input type="checkbox"/> 2サムエル 19-21 <input type="checkbox"/> 詩篇 5 詩篇 38 詩篇 41-42 第21週 <input type="checkbox"/> 2サムエル 22-23 詩篇 57 <input type="checkbox"/> 詩篇 95 詩篇 97-99	<input type="checkbox"/> 2歴代誌 9 <input type="checkbox"/> 箴言 30-31 <input type="checkbox"/> 1列王記 12-14 <input type="checkbox"/> 2歴代誌 10-12 第26週 <input type="checkbox"/> 1列王記 15:1-24 2歴代誌 13-16

聖書通読表 : Read the Bible in a Year

— 時系列 [Chronological] 聖書全体を出来事の起こった順に読む —

<input type="checkbox"/> 1 列王記 15:25-34 1 列王記 16 2 歴代誌 17	<input type="checkbox"/> イザヤ 64-66 <input type="checkbox"/> 2 列王記 20-21 <input type="checkbox"/> 2 歴代誌 32-33	<input type="checkbox"/> ダニエル 1-3 <input type="checkbox"/> ダニエル 4-6 <input type="checkbox"/> ダニエル 7-9	<input type="checkbox"/> マタイ 15 マルコ 7	<input type="checkbox"/> 使徒 13-14
<input type="checkbox"/> 1 列王記 17-19	<input type="checkbox"/> ナホム	第 38 週	<input type="checkbox"/> マタイ 16 マルコ 8 ルカ 9:18-27	<input type="checkbox"/> ヤコブ <input type="checkbox"/> 使徒 15-16 <input type="checkbox"/> ガラテヤ 1-3 <input type="checkbox"/> ガラテヤ 4-6
<input type="checkbox"/> 1 列王記 20-21	<input type="checkbox"/> 2 列王記 22-23 2 歴代誌 34-35	<input type="checkbox"/> ダニエル 10-12 <input type="checkbox"/> エズラ 1-3 <input type="checkbox"/> エズラ 4-6 詩篇 137	<input type="checkbox"/> マタイ 17 マルコ 9 ルカ 9:28-62	第 48 週
<input type="checkbox"/> 1 列王記 22 2 歴代誌 18	第 32 週	<input type="checkbox"/> ハガイ	第 43 週	<input type="checkbox"/> 使徒 17 使徒 18:1-18
<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 19-23	<input type="checkbox"/> ゼバニヤ	<input type="checkbox"/> ゼカリヤ 1-7 <input type="checkbox"/> ゼカリヤ 8-14 <input type="checkbox"/> エステル 1-5	<input type="checkbox"/> マタイ 18 ヨハネ 7-8	<input type="checkbox"/> 1 テサロニケ 2 テサロニケ
<input type="checkbox"/> オバデヤ 詩篇 82-83	<input type="checkbox"/> エレミア 1-3 <input type="checkbox"/> エレミア 4-6 <input type="checkbox"/> エレミア 7-9 <input type="checkbox"/> エレミア 10-13 <input type="checkbox"/> エレミア 14-17 <input type="checkbox"/> エレミア 18-22	第 39 週	<input type="checkbox"/> ヨハネ 9 ヨハネ 10:1-21	<input type="checkbox"/> 使徒 18:19-28 使徒 19
第 27 週	第 33 週	<input type="checkbox"/> エステル 6-10 <input type="checkbox"/> エズラ 7-10 <input type="checkbox"/> ネヘミア 1-5 <input type="checkbox"/> ネヘミア 6-7 <input type="checkbox"/> ネヘミア 8-10 <input type="checkbox"/> ネヘミア 11-13 詩篇 126	<input type="checkbox"/> ルカ 10-11 ヨハネ 10:22-42	<input type="checkbox"/> 1 コリント 1-4 <input type="checkbox"/> 1 コリント 5-8 <input type="checkbox"/> 1 コリント 9-11 <input type="checkbox"/> 1 コリント 12-14
<input type="checkbox"/> 2 列王記 1-4 <input type="checkbox"/> 2 列王記 5-8 <input type="checkbox"/> 2 列王記 9-11	<input type="checkbox"/> エレミア 23-25 <input type="checkbox"/> エレミア 26-29 <input type="checkbox"/> エレミア 30-31 <input type="checkbox"/> エレミア 32-34 <input type="checkbox"/> エレミア 35-37 <input type="checkbox"/> エレミア 38-40 詩篇 74 詩篇 79	<input type="checkbox"/> マラキ	<input type="checkbox"/> ルカ 12-13 <input type="checkbox"/> ルカ 14-15 <input type="checkbox"/> ルカ 16 ルカ 17:1-10	第 49 週
<input type="checkbox"/> 2 列王記 12-13 2 歴代誌 24	第 34 週	第 40 週	第 44 週	<input type="checkbox"/> 1 コリント 15-16 <input type="checkbox"/> 2 コリント 1-4 <input type="checkbox"/> 2 コリント 5-9 <input type="checkbox"/> 2 コリント 10-13
<input type="checkbox"/> 2 列王記 14 2 歴代誌 25	<input type="checkbox"/> ハバクク	<input type="checkbox"/> ルカ 1 ヨハネ 1:1-14	<input type="checkbox"/> ヨハネ 11	<input type="checkbox"/> 使徒 20:1-3 ローマ 1-3
<input type="checkbox"/> ヨナ	<input type="checkbox"/> エレミア 41-45 <input type="checkbox"/> エレミア 46-48 <input type="checkbox"/> エレミア 49-50 <input type="checkbox"/> エレミア 51-52	<input type="checkbox"/> マタイ 1 ルカ 2:1-38	<input type="checkbox"/> ルカ 17:11-37 ルカ 18:1-14	<input type="checkbox"/> ローマ 4-7 <input type="checkbox"/> ローマ 8-10
<input type="checkbox"/> 2 列王記 15 2 歴代誌 26	第 35 週	<input type="checkbox"/> マタイ 2 ルカ 2:39-52 <input type="checkbox"/> マタイ 3 マルコ 1 ルカ 3	<input type="checkbox"/> マタイ 19 マルコ 10 マタイ 20-21 ルカ 18:15-43 ルカ 19	第 50 週
第 28 週	<input type="checkbox"/> 哀歌 1-2 哀歌 3:1-36 哀歌 3:37-66 哀歌 4-5	<input type="checkbox"/> マタイ 4 ルカ 4-5 ヨハネ 1:15-51	<input type="checkbox"/> マルコ 11 ヨハネ 12 マタイ 22 マルコ 12	<input type="checkbox"/> 使徒 20:4-38 使徒 21-23 <input type="checkbox"/> 使徒 24-26 <input type="checkbox"/> 使徒 27-28
<input type="checkbox"/> イザヤ 1-4 <input type="checkbox"/> イザヤ 5-8 <input type="checkbox"/> アモス 1-5 <input type="checkbox"/> アモス 6-9 <input type="checkbox"/> 2 歴代誌 27 イザヤ 9-12	第 36 週	<input type="checkbox"/> ヨハネ 2-4 <input type="checkbox"/> マルコ 2	第 45 週	<input type="checkbox"/> コロサイ ピレモン
<input type="checkbox"/> ミカ	<input type="checkbox"/> エゼキエル 1-4 <input type="checkbox"/> エゼキエル 5-8 <input type="checkbox"/> エゼキエル 9-12 <input type="checkbox"/> エゼキエル 13-15 <input type="checkbox"/> エゼキエル 16-17 <input type="checkbox"/> エゼキエル 18-19 <input type="checkbox"/> エゼキエル 20-21	第 41 週	<input type="checkbox"/> マタイ 23 ルカ 20-21 <input type="checkbox"/> マルコ 13 マタイ 24 <input type="checkbox"/> マタイ 25 マタイ 26 マルコ 14	第 51 週
<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 28 2 列王記 16-17	第 37 週	<input type="checkbox"/> マタイ 5-7 <input type="checkbox"/> マタイ 8:1-13 ルカ 7	<input type="checkbox"/> マタイ 22 ルカ 22 ヨハネ 13	<input type="checkbox"/> ビリビ <input type="checkbox"/> 1 テモテ <input type="checkbox"/> テトス <input type="checkbox"/> 1 ペテロ <input type="checkbox"/> ヘブル 1-6 <input type="checkbox"/> ヘブル 7-10 <input type="checkbox"/> ヘブル 11-13
第 29 週	<input type="checkbox"/> エゼキエル 22-23 <input type="checkbox"/> エゼキエル 24-27 <input type="checkbox"/> エゼキエル 28-31 <input type="checkbox"/> エゼキエル 32-34 <input type="checkbox"/> エゼキエル 35-37 <input type="checkbox"/> エゼキエル 38-39 <input type="checkbox"/> エゼキエル 40-41	<input type="checkbox"/> ヨハネ 5 <input type="checkbox"/> マタイ 12:1-21 マルコ 3 ルカ 6 <input type="checkbox"/> マタイ 9-10 <input type="checkbox"/> マタイ 11 マルコ 4-5 マタイ 12:22-50 マタイ 13 ルカ 8	<input type="checkbox"/> ヨハネ 14-17	第 52 週
<input type="checkbox"/> イザヤ 13-17 <input type="checkbox"/> イザヤ 18-22 <input type="checkbox"/> イザヤ 23-27	第 38 週	第 42 週	第 46 週	<input type="checkbox"/> 2 テモテ <input type="checkbox"/> 2 ペテロ ユダ
<input type="checkbox"/> 2 列王記 18:1-8 2 歴代誌 29-31 詩篇 48	<input type="checkbox"/> イザヤ 28-30	<input type="checkbox"/> マタイ 12 マルコ 6 ルカ 9	<input type="checkbox"/> マタイ 28 マルコ 16	<input type="checkbox"/> 1 ヨハネ <input type="checkbox"/> 2 ヨハネ 3 ヨハネ
<input type="checkbox"/> ホセア 1-7 <input type="checkbox"/> ホセア 8-14	第 30 週	<input type="checkbox"/> マタイ 11 マタイ 12:1-21 マルコ 3 ルカ 6	<input type="checkbox"/> ヨハネ 20-21 <input type="checkbox"/> 使徒 1-3 <input type="checkbox"/> 使徒 4-6 <input type="checkbox"/> 使徒 7-8	<input type="checkbox"/> 黙示録 1-5 <input type="checkbox"/> 黙示録 6-11 <input type="checkbox"/> 黙示録 12-18
<input type="checkbox"/> イザヤ 28-30	<input type="checkbox"/> イザヤ 31-34 <input type="checkbox"/> イザヤ 35-36 <input type="checkbox"/> イザヤ 37-39 詩篇 76	<input type="checkbox"/> マタイ 12 マルコ 3 ルカ 6	第 47 週	第 53 週
<input type="checkbox"/> 2 列王記 18:9-37 2 列王記 19 詩篇 46 詩篇 80 詩篇 135	第 31 週	<input type="checkbox"/> ヨハネ 6	<input type="checkbox"/> 使徒 9-10 <input type="checkbox"/> 使徒 11-12	<input type="checkbox"/> 黙示録 19-22
<input type="checkbox"/> イザヤ 49-53	<input type="checkbox"/> イザヤ 54-58 <input type="checkbox"/> イザヤ 59-63			

聖書に記されている順に沿った通読ガイド

聖書通読表 : Read the Bible in a Year

— 全巻を通読 [Book Order] 聖書の順序とおりに全巻を読む —

第1週		民数記 25-26		2 サムエル 14-16		ネヘミア 4-7	
<input type="checkbox"/> 創世記 1-4		<input type="checkbox"/> 民数記 27-29		<input type="checkbox"/> 2 サムエル 17-19		<input type="checkbox"/> ネヘミア 8-10	
<input type="checkbox"/> 創世記 5-8		第8週		<input type="checkbox"/> 2 サムエル 20-22		<input type="checkbox"/> ネヘミア 11-13	
<input type="checkbox"/> 創世記 9-12		<input type="checkbox"/> 民数記 30-32		<input type="checkbox"/> 2 サムエル 23-24		<input type="checkbox"/> エステル 1-5	
<input type="checkbox"/> 創世記 13-17		<input type="checkbox"/> 民数記 33-36		第15週		<input type="checkbox"/> エステル 6-10	
<input type="checkbox"/> 創世記 18-20		<input type="checkbox"/> 申命記 1-2		<input type="checkbox"/> 1 列王記 1-2		<input type="checkbox"/> ヨブ 1-4	
<input type="checkbox"/> 創世記 21-23		<input type="checkbox"/> 申命記 3-4		<input type="checkbox"/> 1 列王記 3-5		第22週	
<input type="checkbox"/> 創世記 24-25		<input type="checkbox"/> 申命記 5-8		<input type="checkbox"/> 1 列王記 6-7		<input type="checkbox"/> ヨブ 5-8	
第2週		<input type="checkbox"/> 申命記 9-11		<input type="checkbox"/> 1 列王記 8-9		<input type="checkbox"/> ヨブ 9-12	
<input type="checkbox"/> 創世記 26-28		<input type="checkbox"/> 申命記 12-15		<input type="checkbox"/> 1 列王記 10-12		<input type="checkbox"/> ヨブ 13-16	
<input type="checkbox"/> 創世記 29-31		第9週		<input type="checkbox"/> 1 列王記 13-15		<input type="checkbox"/> ヨブ 17-20	
<input type="checkbox"/> 創世記 32-35		<input type="checkbox"/> 申命記 16-19		<input type="checkbox"/> 1 列王記 16-18		<input type="checkbox"/> ヨブ 21-24	
<input type="checkbox"/> 創世記 36-38		<input type="checkbox"/> 申命記 20-22		第16週		<input type="checkbox"/> ヨブ 25-30	
<input type="checkbox"/> 創世記 39-41		<input type="checkbox"/> 申命記 23-25		<input type="checkbox"/> 1 列王記 19-20		<input type="checkbox"/> ヨブ 31-34	
<input type="checkbox"/> 創世記 42-43		<input type="checkbox"/> 申命記 26-27		<input type="checkbox"/> 1 列王記 21-22		第23週	
<input type="checkbox"/> 創世記 44-46		<input type="checkbox"/> 申命記 28-29		<input type="checkbox"/> 2 列王記 1-3		<input type="checkbox"/> ヨブ 35-38	
第3週		<input type="checkbox"/> 申命記 30-32		<input type="checkbox"/> 2 列王記 4-5		<input type="checkbox"/> ヨブ 39-42	
<input type="checkbox"/> 創世記 47-50		<input type="checkbox"/> 申命記 33-34		<input type="checkbox"/> 2 列王記 6-8		<input type="checkbox"/> 詩篇 1-8	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 1-4		第10週		<input type="checkbox"/> 2 列王記 9-10		<input type="checkbox"/> 詩篇 9-17	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 5-7		<input type="checkbox"/> ヨシュア 1-4		<input type="checkbox"/> 2 列王記 11-13		<input type="checkbox"/> 詩篇 18-21	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 8-10		<input type="checkbox"/> ヨシュア 5-7		第17週		<input type="checkbox"/> 詩篇 22-27	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 11-13		<input type="checkbox"/> ヨシュア 8-10		<input type="checkbox"/> 2 列王記 14-16		<input type="checkbox"/> 詩篇 28-33	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 14-16		<input type="checkbox"/> ヨシュア 11-13		<input type="checkbox"/> 2 列王記 17-18		第24週	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 17-20		<input type="checkbox"/> ヨシュア 14-17		<input type="checkbox"/> 2 列王記 19-21		<input type="checkbox"/> 詩篇 34-37	
第4週		<input type="checkbox"/> ヨシュア 18-20		<input type="checkbox"/> 2 列王記 22-23		<input type="checkbox"/> 詩篇 38-42	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 21-23		<input type="checkbox"/> ヨシュア 21-22		<input type="checkbox"/> 2 列王記 24-25		<input type="checkbox"/> 詩篇 43-49	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 24-27		第11週		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 1-2		<input type="checkbox"/> 詩篇 50-55	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 28-30		<input type="checkbox"/> ヨシュア 23-24		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 3-4		<input type="checkbox"/> 詩篇 56-61	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 31-34		<input type="checkbox"/> 士師記 1-3		第18週		<input type="checkbox"/> 詩篇 62-68	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 35-37		<input type="checkbox"/> 士師記 4-5		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 5-6		<input type="checkbox"/> 詩篇 69-72	
<input type="checkbox"/> 出エジプト 38-40		<input type="checkbox"/> 士師記 6-8		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 7-9		第25週	
<input type="checkbox"/> レビ 1-4		<input type="checkbox"/> 士師記 9-10		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 10-12		<input type="checkbox"/> 詩篇 73-77	
第5週		<input type="checkbox"/> 士師記 11-13		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 13-16		<input type="checkbox"/> 詩篇 78-80	
<input type="checkbox"/> レビ 5-7		<input type="checkbox"/> 士師記 14-16		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 17-19		<input type="checkbox"/> 詩篇 81-88	
<input type="checkbox"/> レビ 8-10		第12週		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 20-23		<input type="checkbox"/> 詩篇 89-94	
<input type="checkbox"/> レビ 11-13		<input type="checkbox"/> 士師記 17-19		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 24-26		<input type="checkbox"/> 詩篇 95-103	
<input type="checkbox"/> レビ 14-15		<input type="checkbox"/> 士師記 20-21		第19週		<input type="checkbox"/> 詩篇 104-106	
<input type="checkbox"/> レビ 16-18		<input type="checkbox"/> ルツ		<input type="checkbox"/> 1 歴代誌 27-29		<input type="checkbox"/> 詩篇 107-111	
<input type="checkbox"/> レビ 19-21		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 1-3		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 1-4		第26週	
<input type="checkbox"/> レビ 22-23		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 4-7		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 5-7		<input type="checkbox"/> 詩篇 112-118	
第6週		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 8-12		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 8-11		<input type="checkbox"/> 詩篇 119	
<input type="checkbox"/> レビ 24-25		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 13-14		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 12-16		<input type="checkbox"/> 詩篇 120-133	
<input type="checkbox"/> レビ 26-27		第13週		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 17-20		<input type="checkbox"/> 詩篇 134-140	
<input type="checkbox"/> 民数記 1-2		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 15-16		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 21-24		<input type="checkbox"/> 詩篇 141-150	
<input type="checkbox"/> 民数記 3-4		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 17-18		第20週		<input type="checkbox"/> 箴言 1-3	
<input type="checkbox"/> 民数記 5-6		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 19-21		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 25-28		<input type="checkbox"/> 箴言 4-7	
<input type="checkbox"/> 民数記 7		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 22-24		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 29-31			
<input type="checkbox"/> 民数記 8-10		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 25-27		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 32-34			
第7週		<input type="checkbox"/> 1 サムエル 28-31		<input type="checkbox"/> 2 歴代誌 35-36			
<input type="checkbox"/> 民数記 11-13		<input type="checkbox"/> 2 サムエル 1-3		<input type="checkbox"/> エズラ 1-4			
<input type="checkbox"/> 民数記 14-15		第14週		<input type="checkbox"/> エズラ 5-7			
<input type="checkbox"/> 民数記 16-18		<input type="checkbox"/> 2 サムエル 4-7		<input type="checkbox"/> エズラ 8-10			
<input type="checkbox"/> 民数記 19-21		<input type="checkbox"/> 2 サムエル 8-11		第21週			
<input type="checkbox"/> 民数記 22-24		<input type="checkbox"/> 2 サムエル 12-13		<input type="checkbox"/> ネヘミア 1-3			

聖書通読表 : Read the Bible in a Year

— 全巻を通読 [Book Order] 聖書の順序とおりに全巻を読む —

第27週		<input type="checkbox"/> エレミア 47-48	<input type="checkbox"/> マタイ 7-9	<input type="checkbox"/> 使徒 20-21	
<input type="checkbox"/> 箴言 8-11		<input type="checkbox"/> エレミア 49	<input type="checkbox"/> マタイ 10-11	<input type="checkbox"/> 使徒 22-23	
<input type="checkbox"/> 箴言 12-14		第34週		<input type="checkbox"/> 使徒 24-26	
<input type="checkbox"/> 箴言 15-17		<input type="checkbox"/> エレミア 50	<input type="checkbox"/> マタイ 12-13	<input type="checkbox"/> 使徒 27-28	
<input type="checkbox"/> 箴言 18-20		<input type="checkbox"/> エレミア 51-52	<input type="checkbox"/> マタイ 14-17	<input type="checkbox"/> ローマ 1-3	
<input type="checkbox"/> 箴言 21-23		<input type="checkbox"/> 哀歌 1-2	第41週		
<input type="checkbox"/> 箴言 24-26		<input type="checkbox"/> 哀歌 3-5	<input type="checkbox"/> マタイ 18-20	<input type="checkbox"/> ローマ 4-7	
<input type="checkbox"/> 箴言 27-29		<input type="checkbox"/> エゼキエル 1-4	<input type="checkbox"/> マタイ 21-22	第48週	
第28週		<input type="checkbox"/> エゼキエル 5-8	<input type="checkbox"/> マタイ 23-24	<input type="checkbox"/> ローマ 8-10	
<input type="checkbox"/> 箴言 30-31		<input type="checkbox"/> エゼキエル 9-12	<input type="checkbox"/> マタイ 25-26	<input type="checkbox"/> ローマ 11-14	
<input type="checkbox"/> 伝道者 1-4		第35週		<input type="checkbox"/> ローマ 15-16	
<input type="checkbox"/> 伝道者 5-8		<input type="checkbox"/> エゼキエル 13-15	<input type="checkbox"/> マタイ 27-28	<input type="checkbox"/> 1 コリント 1-4	
<input type="checkbox"/> 伝道者 9-12		<input type="checkbox"/> エゼキエル 16-17	<input type="checkbox"/> マルコ 1-3	<input type="checkbox"/> 1 コリント 5-9	
<input type="checkbox"/> 雅歌 1-4		<input type="checkbox"/> エゼキエル 18-20	<input type="checkbox"/> マルコ 4-5	<input type="checkbox"/> 1 コリント 10-13	
<input type="checkbox"/> 雅歌 5-8		<input type="checkbox"/> エゼキエル 21-22	第42週		
<input type="checkbox"/> イザヤ 1-3		<input type="checkbox"/> エゼキエル 23-24	<input type="checkbox"/> マルコ 6-7	<input type="checkbox"/> 1 コリント 14-16	
第29週		<input type="checkbox"/> エゼキエル 25-27	<input type="checkbox"/> マルコ 8-9	第49週	
<input type="checkbox"/> イザヤ 4-8		<input type="checkbox"/> エゼキエル 28-30	<input type="checkbox"/> マルコ 10-11	<input type="checkbox"/> 2 コリント 1-4	
<input type="checkbox"/> イザヤ 9-11		第36週		<input type="checkbox"/> 2 コリント 5-9	
<input type="checkbox"/> イザヤ 12-14		<input type="checkbox"/> エゼキエル 31-32	<input type="checkbox"/> マルコ 12-13	<input type="checkbox"/> 2 コリント 10-13	
<input type="checkbox"/> イザヤ 15-19		<input type="checkbox"/> エゼキエル 33-35	<input type="checkbox"/> マルコ 14	<input type="checkbox"/> ガラテヤ 1-3	
<input type="checkbox"/> イザヤ 20-24		<input type="checkbox"/> エゼキエル 36-38	<input type="checkbox"/> マルコ 15-16	<input type="checkbox"/> ガラテヤ 4-6	
<input type="checkbox"/> イザヤ 25-28		<input type="checkbox"/> エゼキエル 39-40	<input type="checkbox"/> ルカ 1-2	<input type="checkbox"/> エペソ 1-3	
<input type="checkbox"/> イザヤ 29-31		<input type="checkbox"/> エゼキエル 41-43	第43週		
第30週		<input type="checkbox"/> エゼキエル 44-46	<input type="checkbox"/> ルカ 3-4	第50週	
<input type="checkbox"/> イザヤ 32-34		<input type="checkbox"/> エゼキエル 47-48	<input type="checkbox"/> ルカ 5-6		
<input type="checkbox"/> イザヤ 35-37		第37週			<input type="checkbox"/> ビリビ
<input type="checkbox"/> イザヤ 38-40		<input type="checkbox"/> ダニエル 1-3	<input type="checkbox"/> ルカ 7-8		<input type="checkbox"/> コロサイ
<input type="checkbox"/> イザヤ 41-43		<input type="checkbox"/> ダニエル 4-5	<input type="checkbox"/> ルカ 9-10	<input type="checkbox"/> 1 テサロニケ	
<input type="checkbox"/> イザヤ 44-46		<input type="checkbox"/> ダニエル 6-8	<input type="checkbox"/> ルカ 11-12	<input type="checkbox"/> 2 テサロニケ	
<input type="checkbox"/> イザヤ 47-49		<input type="checkbox"/> ダニエル 9-12	<input type="checkbox"/> ルカ 13-15	<input type="checkbox"/> 1 テモテ	
<input type="checkbox"/> イザヤ 50-52		<input type="checkbox"/> ホセア 1-4	<input type="checkbox"/> ルカ 16-18	<input type="checkbox"/> 2 テモテ	
第31週		<input type="checkbox"/> ホセア 5-9	第44週		
<input type="checkbox"/> イザヤ 53-56		<input type="checkbox"/> ホセア 10-14	<input type="checkbox"/> ルカ 19-20	第51週	
<input type="checkbox"/> イザヤ 57-59		第38週			<input type="checkbox"/> ヘブル 1-4
<input type="checkbox"/> イザヤ 60-63		<input type="checkbox"/> ヨエル	<input type="checkbox"/> ルカ 21-22		<input type="checkbox"/> ヘブル 5-8
<input type="checkbox"/> イザヤ 64-66		<input type="checkbox"/> アモス 1-4	<input type="checkbox"/> ルカ 23-24		<input type="checkbox"/> ヘブル 9-10
<input type="checkbox"/> エレミア 1-3		<input type="checkbox"/> アモス 5-9	<input type="checkbox"/> ヨハネ 1-2	<input type="checkbox"/> ヘブル 11-13	
<input type="checkbox"/> エレミア 4-5		<input type="checkbox"/> オバデヤ	<input type="checkbox"/> ヨハネ 3-4	<input type="checkbox"/> ヤコブ	
<input type="checkbox"/> エレミア 6-8		<input type="checkbox"/> ヨナ	<input type="checkbox"/> ヨハネ 5-6	<input type="checkbox"/> 1 ペテロ	
第32週		<input type="checkbox"/> ミカ 1-4	<input type="checkbox"/> ヨハネ 7-8	<input type="checkbox"/> 2 ペテロ	
<input type="checkbox"/> エレミア 9-11		<input type="checkbox"/> ミカ 5-7	第45週		
<input type="checkbox"/> エレミア 12-14		第39週		<input type="checkbox"/> 1 ヨハネ	
<input type="checkbox"/> エレミア 15-17		<input type="checkbox"/> ナホム	<input type="checkbox"/> ヨハネ 9-10	第52週	
<input type="checkbox"/> エレミア 18-21		<input type="checkbox"/> ハバクク	<input type="checkbox"/> ヨハネ 11-12		
<input type="checkbox"/> エレミア 22-24		<input type="checkbox"/> ゼバニヤ	<input type="checkbox"/> ヨハネ 13-15		
<input type="checkbox"/> エレミア 25-27		<input type="checkbox"/> ハガイ	<input type="checkbox"/> ヨハネ 16-17		
<input type="checkbox"/> エレミア 28-30		<input type="checkbox"/> ゼカリヤ 1-5	<input type="checkbox"/> ヨハネ 18-19	第53週	
第33週		<input type="checkbox"/> ゼカリヤ 6-10	<input type="checkbox"/> ヨハネ 20-21		
<input type="checkbox"/> エレミア 31-32		<input type="checkbox"/> ゼカリヤ 11-14	<input type="checkbox"/> 使徒 1-3		
<input type="checkbox"/> エレミア 33-36		第40週			
<input type="checkbox"/> エレミア 37-39		<input type="checkbox"/> マラキ	第46週		
<input type="checkbox"/> エレミア 40-43		<input type="checkbox"/> マタイ 1-4	<input type="checkbox"/> 使徒 4-5	<input type="checkbox"/> 黙示録 1-3	
<input type="checkbox"/> エレミア 44-46		<input type="checkbox"/> マタイ 5-6	<input type="checkbox"/> 使徒 6-7		
			<input type="checkbox"/> 使徒 8-9		
			<input type="checkbox"/> 使徒 10-11		
			<input type="checkbox"/> 使徒 12-13		
			<input type="checkbox"/> 使徒 14-15	<input type="checkbox"/> 黙示録 4-7	
			<input type="checkbox"/> 使徒 16-17		
			第47週		
			<input type="checkbox"/> 使徒 18-19		

聖書箇所を表し方と略称表

「はじめに」に記載したように、このバインダーの中には聖書箇所をたくさん記してあります。

例えば、(ローマ 10:9) は「ローマ人への手紙 10 章 9 節」の略で、通読表に見られる(創世記 1-4) は「創世記 1 章～4 章」の略です。

旧約聖書 略称表					
創世記	→	創世記（創世）	伝道者の書	→	伝道者
出エジプト記	→	出エジプト	雅歌	→	雅歌
レビ記	→	レビ	イザヤ書	→	イザヤ
民数記	→	民数記（民数）	エレミヤ書	→	エレミヤ
申命記	→	申命記（申命）	哀歌	→	哀歌
ヨシュア記	→	ヨシュア	エゼキエル書	→	エゼキエル
士師記	→	士師記	ダニエル書	→	ダニエル
ルツ記	→	ルツ	ホセア書	→	ホセア
サムエル記 第一	→	I サムエル	ヨエル書	→	ヨエル
サムエル記 第二	→	II サムエル	アモス書	→	アモス
列王記 第一	→	I 列王記	オバデヤ書	→	オバデヤ
列王記 第二	→	II 列王記	ヨナ書	→	ヨナ
歴代誌 第一	→	I 歴代誌	ミカ書	→	ミカ
歴代誌 第二	→	II 歴代誌	ナホム書	→	ナホム
エズラ記	→	エズラ	ハバクク書	→	ハバクク
ネヘミヤ記	→	ネヘミヤ	ゼパニヤ書	→	ゼパニヤ
エステル記	→	エステル	ハガイ書	→	ハガイ
ヨブ記	→	ヨブ	ゼカリヤ書	→	ゼカリヤ
詩篇	→	詩篇	マラキ書	→	マラキ
箴言	→	箴言			

新約聖書 略称表			
マタイの福音書	→	マタイ	テモテへの手紙 第一 → I テモテ
マルコの福音書	→	マルコ	テモテへの手紙 第二 → II テモテ
ルカの福音書	→	ルカ	テトスへの手紙 → テトス
ヨハネの福音書	→	ヨハネ	ピレモンへの手紙 → ピレモン
使徒の働き	→	使徒	ヘブル人への手紙 → ヘブル
ローマ人への手紙	→	ローマ	ヤコブの手紙 → ヤコブ
コリント人への手紙 第一	→	I コリント	ペテロの手紙 第一 → I ペテロ
コリント人への手紙 第二	→	II コリント	ペテロの手紙 第二 → II ペテロ
ガラテヤ人への手紙	→	ガラテヤ	ヨハネの手紙 第一 → I ヨハネ
エペソ人への手紙	→	エペソ	ヨハネの手紙 第二 → II ヨハネ
ピリピ人への手紙	→	ピリピ	ヨハネの手紙 第三 → III ヨハネ
コロサイ人への手紙	→	コロサイ	ユダの手紙 → ユダ
テサロニケ人への手紙 第一	→	I テサロニケ	ヨハネの黙示録 → 黙示録（黙示）
テサロニケ人への手紙 第二	→	II テサロニケ	

すべての著作権は 2018 iamawatchman, Inc. にあります